地質学雑誌　第122巻　第5号（通巻1448号）付録　平成28年5月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会第123年学術大会（2016東京・桜上水大会）予告
会期　2016年9月10日（土）～12日（月）

日本地質学会 News

Vol.19 No.5 May 2016

新発売!!

「ジオパーク秩父」の重要なジオサイトのひとつ
長瀞のたんけんマップができました

地質リーフレットたんけんシリーズ 5

長瀞たんけんマップ

荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう

編集：日本地質学会長瀞たんけんマップ編集委員会
（高木秀雄・本間岳史・露木和男）
発行：一般社団法人日本地質学会
A2 版 8 折　両面フルカラー印刷

長瀞の岩石はどこでできたのか、地形や地質のおはなし、長瀞の楽しみかたなどが、わかり やすく解説されています。観察ポイントごとに写真やイラストが付いていますので、野外での観察にも最適です。教材としても是非ご活用下さい。

定価 400 円
（会員頒価 300 円）

＊20 部以上ご注文の場合は割引有り

地質リーフレットたんけんシリーズ：好評発売中！！

1．箱根火山たんけんマップ－今、生きている火山
2．屋久島地質たんけんマップ－洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい
3．城ヶ島たんけんマップ－深海から生まれた城ヶ島
4．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん－樹海にかくされた溶岩の不思議－

ご注文は，学会事務局まで　e-mail main@geosociety.jp　FAX: 03-5823-1156

日本地質学会第123年学術大会（東京・桜上水大会）予告

「出番ですぜ！江戸前地質学：ジオハザードと都市地質学」

2016年 9 月10日（土）～12日（月）
会場：日本大学文理学部キャンパス

４月に発生した熊本地震により被害を受けられた皆さまに，心からお見舞い申し上げます．

日本地質学会は，「出番ですぜ！江戸前地質学」をキャッチフレーズに，関東支部を中心に，東京都世田谷区桜上水の日本大学文理学部キャンパスを会場として，第123年学術大会（2016年東京・桜上水大会）を９月10日（土）から12日（月）に開催いたします．

大都会である首都東京は地質学とは無縁であるかのような印象を受けるかもしれません．しかし，関東平野の南部に位置し，フィリピン海プレートの沈み込み境界である相模トラフにも近い東京は，実は第1級の変動帯に位置しており，1923年の関東地震を初め，多くの大規模な地震災害に繰り返し見舞われてきました．2011年３月11日の東北地方太平洋沖地震の際にも，長周期地震や地層の液状化によって林立する高層建築に被害が出ました．こうした地震災害には，地盤の地質が大きな影響を与えます．東京の地下に伏在する活断層の問題も重要です．東京の下町では地盤沈下があり，これは地震時に発生する津波災害にも関係してきます．また，天井川の存在は大規模な都市洪水をもたらす危険があります．東京の山手では，集中豪雨時の小規模河川の洪水や，斜面崩壊なども問題です．これらの自然災害は，何れも東京の地質・地形と密接に関係しています．実は，東京ほど地質学を必要としている場所はないのです．まさに，「出番ですぜ！（江戸弁）江戸前地質学」です．

本大会では「ジオハザードと都市地質学」をメインテーマに，社会に役立つ地質学，社会から必要とされる地質学を中心に，わが国の地質学の様々な分野における最新の学術的到達点を示したいと考えています．みなさん，東京の桜上水に集まり，大いに議論し，親交を深めましょう．多くの方々の御参集をお待ちしております．

巡検コースも多様な地質現象を対象としたコースを用意しています．こちらにも，多くの方のご参加をお待ちしております．

各種申込は，従来と同様の参加登録システムを利用します．お支払いは銀行振込またはクレジットカードによる支払いが可能です．発表についても演題登録システム（PASREG）を利用したオンライン登録が可能です．なお，大会準備がスムーズに運ぶよう，締切日の厳守をお願いいたします．

東京・桜上水大会に関する最新情報は，学会ホームページ（http：//www.geosociety.jp/）の「2016年東京・桜上水大会HP」に掲載します．

大会に関わるおもな申込締切

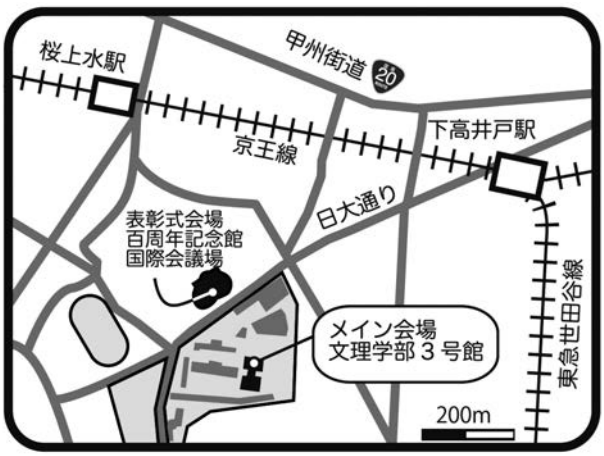
	オンライン（WEB）	FAX・郵送	
演題登録・講演要旨投稿	**6 月29日（水）18時**	6 月23日（木）必着	p.（５）参照
大会参加，懇親会など	**8 月18日（木）18時**	8 月15日（月）必着	p.（８）参照
巡検（教師向け巡検を除く）	**8 月 8 日（月）18時**	8 月５日（金）必着	p.（９）参照
ランチョン・夜間小集会	**6 月29日（水）**	---	p.（10）参照
生徒「地学研究」発表会	**7 月14日（木）**	---	p.（２）参照

	一次締切	最終締切	
企業展示・書籍販売	７月１日（金）	８月５日（金）	p.（10）参照

1．日　　程

日　程	行　事
9月9日（金）	プレ巡検（日帰り），GISショートコース
9月10日（土）	セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，表彰式・記念講演会，懇親会，一般公開シンポジウム（企業編），若手会員のための業界研究サポート
9月11日（日）	セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会，一般公開シンポジウム（研究編），生徒「地学研究」発表会，市民講演会，サイエンスカフェ，家族巡検
9月12日（月）	国際シンポジウム，セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会
9月13日（火）～15日（木）	ポスト巡検（日帰り～2泊3日のコースあり），防災施設見学（13日午前）

2．会　　場



メイン会場：日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水3－25－40）3号館　京王線下高井戸駅，桜上水駅下車　徒歩８分（新宿駅よりの乗車時間は約10分）

※市民講演会・アウトリーチセッション・地質情報展・シンポジウム・懇親会も同館で行います．

3．各賞表彰式・記念講演

日程：9月10日（土）15:30～17:30（予定）

会場：日本大学文理学部　百周年記念館　３号館より徒歩３分

4．普及行事

（1）地質情報展2016とうきょう

日程：９月10日（土）～12日（月）入場無料
　　９月10日（土）10：00～17:00
　　９月11日（日）10：00～17:00
　　９月12日（月）10：00～16:00（時間はいずれも予定）

会場：日本大学文理学部3号館

主催：一般社団法人日本地質学会・産業技術総合研究所地質調査総合センター

内容：東京・桜上水大会に合わせ，東京都及び関東周辺の地質現象や都市地質，地震や火山についてパネル，映像，標本を使って展示・解説する「地質情報展2016とうきょう」を開催します．化石レプリカ作成などの体験学習コーナーなども用意し，実験や実演を通じて小学校入学前のお子さんからお年寄りまで，楽しみながら「地質」を皆さんにわかりやすく学んでいただけるイベントです．ぜひ，「地質情報展2016とうきょう」にご来場ください．

問い合せ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報展企画運営事務局
TEL：029-861-3540
e-mail：johoten2016jimu-ml@aist.go.jp

（2）市民講演会「ジオハザードと都市の地質学」

日時：９月11日（日）14:00～16:30（事前申込不要）

会場：日本大学文理学部３号館

概要：首都圏の防災，減災のためには，コンクリートに覆われた地下の地質がどのようになっているのかを，元もとの地形を踏まえて知る必要があります．今回は，赤色立体地図を駆使して首都圏の地形・地質と都市の関係について市民に分かりやすく解説する講演と最近活動の活発化が注目されている火山に着目した講演とを行います．

講演予定：

「首都圏と火山」高橋正樹（日本大学文理学部教授）

首都圏においては，直下型地震をはじめ，地震災害に関する関心はある程度高まっているが，火山噴火については残念ながら理解が進んでいるとは言えない状況です．首都圏の場合，富士火山など西方の火山の噴火による降灰の影響が心配され，その影響は降雪をはるかに超えます．正しい理解がないと，首都機能の混乱，大規模な２次災害も予想されます．このようなことに備えるためにも火山噴火の正しい認識を市民の方々に持ってもらうことを目的とします．

「首都圏の地形地質の特徴」千葉達朗（アジア航測（株））

土砂災害や洪水は，きわめて発生頻度が高い身近な問題です．これらは降水量が引き金になりますが，その場所の地形地質に左右されます．地震動の大きさや液状化も同様に地形地質の影響を大いに受けます．首都圏では，コンクリートの上で生活しているため，原地形と人工改変された地形，構造物との区別ができません．講演では首都圏の地形地質の特徴を演者の発明による赤色立体地図によって理解し，自分がどのような場所に住んでいるかを認識し，防災，減災に役立てていただくことを目的とします．

（3）小さなEarth Scientistのつどい～第14回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，

学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．東京・桜上水大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．都内，また関東地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．なお，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」などの賞を授与いたします．下記の要領にて参加校を募集します．

1）日時：2016年９月11日（日）９:00～15:30
2）場所：東京・桜上水大会ポスター会場（日本大学文理学部３号館）
3）参加対象
・小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表
・小，中，高校の授業における研究成果の発表
・活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）
4）**参加申込締切：７月14日（木）**
5）ポスター発表（展示パネルは，縦210cm×横120cm）パネルのほかに標本等を展示される場合には，パネルの前に机を用意します．参加申し込みの際に，その旨を記載して下さい．その場合は展示パネルの下側が隠れる事をご了承下さい．発表者は決められた時間（および随時）パネルの前に待機し説明をしていただきます．なお，遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は，発表ポスターのみをお送りいただいても結構です．
6）参加費　無料（参加者・引率者とも），開催中の研究者の発表，講演も聴くことができます．
7）派遣依頼　参加者・引率者については学校長宛，日本地質学会より派遣依頼状を出します．
8）問い合わせ・申込先：所定の書式（学会HPよりダウンロード可）をFAXまたはe-mailでも下記宛にお送り下さい．

日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２-８-15 井桁ビル６F
TEL：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

（4）教師向け巡検「千葉市の昔の海岸線を歩く」

日時：2016年10月１日（土）9:30 JR稲毛海岸駅集合，15:00 JR幕張駅解散（予定）
参加対象：小中高の教員ならびに一般市民を優先
募集人数：30名（教員枠15名＋一般枠15名）
参加費・申込等：p.（12）巡検の申込および巡検コース一覧Iコースの欄をご参照下さい
（注意）会期とは異なる10月1日実施予定です．参加申込窓口および申込締切も他のコースとは異なります（申込締切：9月16日（金））．申込は大会HP内の専用申込サイトから．

（5）サイエンスカフェ「海溝型巨大地震と津波の脅威 ー地質・歴史記録に学ぶ自然災害ー」

地質記録や歴史記録を読み解き，東日本周辺を中心に過去の海溝型巨大地震と津波について紹介します．
ゲストスピーカー：後藤和久（東北大学）
共催：下高井戸商店街振興会
日時：2016年9月11日（日）昼休み（予定）
場所：下高井戸コワーキングスペース　iNVENTO（京王線下高井戸駅徒歩２分）
参加対象：一般市民優先
募集人数：20名程度
参加費：500円（＋１ドリンク）
申し込み：特設サイトより（７月頃開設予定）
申込締切：８月末（予定）

（6）家族巡検「等々力渓谷の地層と東京の大地の生い立ち」

今大会は，是非ご家族でお越しください．都内には見どころがたくさんありますが，等々力渓谷は東京の地下の様子を露頭で見られる貴重な場所です．なお，本巡検は2015年度街中ジオ散歩で訪れたコースをたどります．
巡検コース：等々力駅→等々力渓谷遊歩道→横穴古墳→等々力不動→丸子川→日本庭園→多摩川河川敷→野毛大塚古墳→等々力駅
主な見学対象：１．等々力渓谷（遊歩道：地層観察）　２．横穴古墳（TP火山灰）　３．等々力不動（不動の滝）　４．丸子川（六郷用水）　５．日本庭園（昼食）　６．多摩川河川敷（石の観察）　７．野毛大塚古墳（帆立貝式古墳）
日程：９月11日（日）（日帰り）
定員：15名（最少催行人数４名）
案内者：関東支部幹事　細矢　卓（中央開発）・田村糸子（首都大）
参加費：500円
必要な地図（１/2.5万）：東京西南部
集合・解散：10:00集合（東急大井町線等々力駅），15:00解散（東急大井町線等々力駅）
参加対象：会員の家族
申し込み：大会HP内の専用申込サイトから
申込締切：８月31日（水）

（7）防災施設等見学「ゼロメートル地帯を守る：清澄水門管理事務所と扇橋閘門」

東京のゼロメートル地帯にも，多くの人が暮らす街があります．その現状と管理施設を合わせて見学します．なお，本見学会は2014年度街中ジオ散歩で訪れたコースをたどります．
巡検コース：清澄水門管理事務所（排機場）→ゼロメートル地帯を歩き→扇橋閘門
主な見学対象：1．清澄水門管理事務所　2．清澄庭園　3．扇橋閘門
日程：9月13日（火）（日帰り）
定員：15名（最少催行人数５名）
案内者：関東支部幹事　小田原　啓（神奈川温地研）・田村糸子（首都大）
参加費：1,000円（保険料込）
必要な地図（１/2.5万）：東京主部
集合と解散：集合　9:30　大江戸線清澄白河駅改札
解散　15:00　都営新宿線住吉駅

参加対象：会員
申し込み：大会HP内の専用申込サイトから
申込締切：８月31日（水）

(8) GISショートコース

フリーオープンソースの地理情報システム（FOSS4G）であるQGISを使って，GISの基本操作と地形・地質モデリングの実習をします．実習終了後には，実習で作成した地図を見ながら神田川周辺のジオツアーを楽しみます．
日程：９月９日（金）
場所：日本大学文理学部図書館棟メディア・ラボ
費用：3,000円
対象：GIS初学者
定員：20名
講師：木村克己（防災科研）
達成目標：GISの基礎概念と基礎操作法の理解，地形DEMを使った地形面モデルの表示・解析，三次元的な地形の可視化，観察地点・走向傾斜測定データの整理・表示，ポイントデータからグリッド補間，面モデルの処理，地形面・地層境界面の表示と断面図解析など．
内容予定：
９:45集合（日本大学文理学部３号館２Fエレベーター前），QGISを用いた作図講習
15:00～日本大学文理学部周辺の神田川周辺のジオツアー
17:00解散（京王線明大前駅）
参加者が準備するもの：ノートPC（指定するソフトウェアを予めインストールしておくこと）
申し込み：大会HP内の専用申込サイトから
申込締切：8月31日（水）

講演申込に関するご案内

演題および原稿締切：６月29日（水）18:00（オンライン）

シンポジウム，セッションとも演題登録・要旨投稿は東京・桜上水大会HP（http://www.geosociety.jp/tokyo/content0001.html）にアクセスし，オンライン入力フォームに従ってお申込下さい．発表セッションや会場・発表日時等は行事委員会が決定し，７月下旬以降に通知します．やむを得ず郵送で申し込む場合は，学会事務局までお問い合わせ下さい．発表申込書等必要な書式をお送りします．提出書類，要旨原稿をご準備の上，６月23日（木）必着で学会事務局までお送り下さい．講演申込をされる方は，別途事前に大会参加登録も行って下さい．

なお，今大会より，優秀ポスター賞は講演申し込み時にエントリーを希望されたポスター発表に対して審査をするエントリー制になりました．エントリーを希望される発表者は，講演申込時にポスター賞エントリー希望を選択してください．

５．シンポジウム

今大会では２件のシンポジウムを開催します．内容についてはp.（12）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

シンポジウム発表は招待講演のみです．いずれの発表も通常のセッション同様，締切までに演題登録・要旨投稿を行って下さい．発表時間は世話人が決定します．シンポジウム発表にはセッション発表における１人１件の制約（下記）が及びませんので，シンポジウムで発表する会員は別途セッションにも発表を申し込めます．また，世話人は会員・非会員を問わず招待講演を依頼できます（締め切りました）．非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．

講演要旨はセッション発表と同じ様式・分量です．p.（6），（22）を参照して要旨を作成して下さい．なお，国際シンポジウムの使用言語は英語です．

６．セッション発表の募集

セッション発表を下記要領で募集します．

（1）セッションについて

今大会では９件のトピックセッションと24件のレギュラーセッション，およびアウトリーチセッションを用意します．各セッションの詳細についてはp.（12）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

（2）発表に関する条件・制約

１）会員は全34セッションのうち１つまたは複数（下記）に発表を申し込めます．発表申込者＝発表者とします．非会員は発表を申し込めません．発表を希望する非会員は６月23日（木）までに入会手続きをして下さい（入会申込書が届くまで発表申込を受理しません）．共催団体の会員は共催セッションへの発表申込が可能です．

２）口頭発表あるいはポスター発表を１人１題申し込めます．ただし，発表負担金（1,500円）を支払うことでもう１題（最大２題）の申し込みが可能です．発表可能な組み合わせは下記を参照して下さい．

セッションA：口頭２件……×（申込不可）
セッションA：ポスター２件……×（申込不可）
セッションA：口頭，ポスター各１件ずつ
……○（申込可）
セッションA：口頭１件，セッションB：口頭１件
……○（申込可）
セッションA：ポスター１件，セッションB：ポスター１件
……○（申込可）

※ 発表可能な形式の組み合わせは，招待講演も同様です
※ これらの制約はアウトリーチセッションには適用しません（後述）

３）共同発表（複数著者による発表）の場合は，上記「１人１題，ただし発表負担金支払いによりもう１題可」の制約を発表者（＝発表申込者）に対して適用します．その際，発表者は筆頭でなくても構いません（筆頭者に会員・非会員等の条件はありません）．講演要旨では，発表者氏名を下線（アンダーライン）表示にして下さい．

（3）アウトリーチセッション

このセッションは，会員による研究成果の社会への発信（アウトリーチ）を学会として力強くサポートするために，トピック・レギュラーと並ぶ第三のカテゴリーとして設けられているものです．市民に対するアウトリーチ活動に関心のある会員はぜひお申し込み下さい．

１）トピック・レギュラーと同様の演題登録・要旨投稿が必要です．要旨校閲（後述）もトピック・レギュラーと同様に行います．要旨は講演要旨集に収録され，正式な学会発表扱いになります．

２）本セッションの発表には，上記の発表数に関するルール（１人１題，ただし発表負担金を支払えばもう１題可）を適用しません．例えば，レギュラーセッションで１題発表する会員がアウトリーチセッションでも発表する場合，発表負担金はかかりません．ただし，同一発表者（＝発表申込者）が本セッションで発表できるのは１題のみとします．

３）ポスター発表のみとし，２日間にわたって掲示します．10日（土）の一般公開シンポジウム（企業編）会場（コアタイムでの立ち会いを必須としない）と11日（日）の市民講演会・一般公開シンポジウム（研究編）会場（市民講演会の前１時間，後30分をポスターコアタイム）で実施する予定です．

４）市民には講演要旨のコピーを配布しますが，これとは別に資料を独自に配布していただいても構いません（ただし発表者負担）．

５）スペース等の都合から，募集件数は10件程度とします．募集件数を上回る応募があった場合は行事委員会が採否を検討します．

６）講演申し込み時に優秀ポスター賞のエントリーを希望すれば優秀ポスター賞の選考対象になります．

(4) 招待講演

招待講演者をp.(12)「シンポジウム・セッション一覧」およびp.(18)「セッション招待講演の紹介」に示しました．招待講演も期日までに一般発表と同様に演題登録・要旨投稿が必要です．非会員招待講演者の場合は世話人が代理でオンライン入力することも可能です．非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．また，招待講演は発表負担金の枠外として扱います．

(5) セッション発表申込の際の注意点

1）発表方法は「口頭」「ポスター」「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい（アウトリーチセッションはポスターのみ）．締切後の変更はできません．会場の都合のため，発表方法（口頭・ポスター）の変更をお願いすることがあります．
2）発表題目と発表者氏名は，登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい．
3）発表希望セッションを必ず第２希望まで選んで下さい．
4）関係する一連の発表があるときは，必要に応じて発表順希望等をコメント欄に入力して下さい（ご希望に沿えない場合があります）．
5）R６ジオパークおよびアウトリーチセッションは，一般公開のためポスターの掲示場所が通常の発表と異なります．また，アウトリーチセッションのみ掲示が２日間にわたりますのでご注意下さい（９/10，９/11を予定）．ただし，コアタイムでの立ち会いは９/11のみ必須となります．

7．講演要旨（シンポ・セッション共通）

(1) 講演要旨の投稿

講演要旨はA4判１枚とし，PDFファイルのオンライン投稿により受け付けます．印刷仕上がりは0.5ページ分です（１ページに２件分を印刷）．原稿をそのまま版下とし，70%程度に縮小印刷します．文字サイズ，字詰め，鮮明度等に注意して下さい．やむを得ず郵送する場合は，オリジナルか鮮明なコピーを１枚郵送して下さい．FAXやe-mailでの投稿は受け付けません．※p.(22)のフォーマットを参照．大会HPの「PDFファイルの作り方」，wordテンプレートもあわせてご覧下さい．

(2) 講演要旨の倫理責任と著作権管理

本学会は，本学会出版物への投稿原稿に対して，その倫理性について著作者が保証する「保証書」および著作権を本学会へ譲渡することに同意する「著作権譲渡等同意書」に署名捺印をして提出していただいております．学術大会の講演要旨投稿では，オンライン画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」の内容に同意していただいてから電子投稿画面に進めるようになっています．

(3) 講演要旨における文献引用

引用した文献の情報を必ず記載して下さい．講演要旨では文献記載の簡略化が認められています．著者名，発表年，掲載誌名など，文献を特定できる必要最低限の情報を明記して下さい．

(4) 講演要旨の校閲

行事委員会は，すべての（招待講演を含む）講演要旨について，学会の目的ならびに倫理綱領（定款第４条）に反していないかという点について校閲を行います．校閲によりいずれかの条項に反していると判断された場合，行事委員会は修正を求めるか，あるいは発表申込を受理しないことがあります．行事委員会の措置に同意できない場合，発表申込者は法務委員会（学会事務局気付）に異議を申し立てることができます（異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載）．

8．発表要領（シンポ・セッション共通）

(1) 口頭発表

1）セッションの発表時間は，招待講演を除き，トピック・レギュラーとも１題15分です（討論時間３～５分と演者交代時間を含む）．シンポジウムの発表時間は世話人が決めます．発表者は討論時間を必ず確保して下さい．なお，今大会でもPCセンターを設置しません．シンポ・セッションが円滑に進むように次の注意点をよくご確認下さい．
2）発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコン（OSはWindows 10；PowerPoint 2007，2010，2013，2016対応）をご使用下さい（ただし，Macご利用の方と動画を使用する方はご自身のパソコンをご用意下さい）．プロジェクター解像度は1024×768ドット（XGA）です．パワーポイント・ファイルをUSBフラッシュメモリで持参し，パソコンにコピーして下さい（シンポ・セッション終了後，世話人がファイルを削除します）．フォントは特殊なものではなく，PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい．発表者は，シンポ・セッション開始前に発表会場で正常に投影されることを確認して下さい．
3）ご自身のパソコンで発表する方も，シンポ・セッション開始前に発表会場において正常に接続・投影されることを確認して下さい．事前に解像度（上記）の設定をご確認下さい．会場の接続端子はD-sub15ピン（ミニ）です．パソコンによってはコネクタが必要になる場合がありますので必ずご持参下さい（会場にはありません）．確認作業の混雑とそれによる講演開始の遅れを防ぐため，早めの確認作業をお願いします．なお，発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じても時間延長等の措置は取りません．

(2) ポスター発表

1）１日間掲示できます（アウトリーチセッションを除く）．コアタイムでは必ずポスターの説明を行って下さい．ポスター設置・撤去等については本誌８月号掲載予定のプログラム記事をご覧下さい．
2）ボード面積は１題あたり縦210cm，横120cmです．
3）発表番号，発表タイトル，発表者名をポスターに明記して下さい．
4）コンピューターによる演示等も許可しますが，機材等はすべて発表者が準備して下さい．また，電源は確保できませんので，必要であれば予備のバッテリーを用意して下さい．発表申込の際に機器使用の有無や小机の必要性等をコメント欄に記入し，事前に世話人にもご相談下

さい．

5）運営規則第16条２項（8）により，優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与します．**今回より，優秀ポスター賞はエントリー制になりました．**エントリーを希望される発表者は，講演申し込み時に優秀ポスター賞エントリー希望を選択してください．発表当日，エントリーされた講演番号のボードに「エントリー講演」と書かれた紙が貼付してありますので，ご確認ください．この紙はポスター貼付後も見える位置に貼付しておいてください．

（3）発表者の変更

口頭，ポスター発表に関わらず，あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会に連絡して下さい．この場合もセッション発表者については６項（2）の条件を適用します．

（4）口頭発表の座長依頼

各セッション会場の座長を発表者に依頼することがあります．その際はご協力をお願いします．

大会参加登録のご案内

申込締切：オンライン：８月18日（木）18:00，FAX・郵送：８月15日（月）必着
※巡検のみ申込締切が異なります（p.（9）参照）

参加登録に関わるお申込（**参加，要旨集，巡検，懇親会，弁当**）は，オンラインによる大会専用参加登録システム（会員・非会員にかかわらずどなたでも申込可）をご利用の上，お申し込み下さい．

郵送で申し込む場合は，学会事務局までお問い合わせ下さい．郵送用申込書等必要な書式をお送りします．提出書類をご準備の上，８月15日（月）必着で学会事務局までお送り下さい．

大会参加登録およびそれに伴う参加費は，参加者（巡検のみ参加の場合も）に必要な基本的なお申し込みです．会員が同伴する非会員の家族等（以下，同伴者）についても懇親会・巡検・お弁当については事前に申込が必要です．申込は，会員と同伴者の計２名まで一括申込が可能です．なお，学会を通じての宿泊・交通手配の斡旋は行いません．宿泊や交通については各自で手配願います．

９．各種申込とお支払について

（1）申込方法

１）参加登録システム（オンライン）による申込（申込締切：８月18日（木）18:00）

学会HPから「東京・桜上水大会ホームページ」の大会専用参加登録システムへアクセスし，画面表示に従って入力をして下さい．

<http：//www.geosociety.jp/tokyo/content0001.html>

支払方法などの詳細は，ホームページをご覧下さい．

２）FAX・郵送による申込（申込締切：８月15日（月）必着）

まずは学会事務局までお問い合わせ下さい．郵送用申込書等必要な書式をお送りします．申込書類をご準備の上，８月15日（月）必着で学会事務局までお送り下さい．お申込みの際は，必ず申込書のコピーを各自で保管して下さい．

申込締切後，名札・確認書・クーポン（一部の方）を発送します（８月末頃発送予定）．大会開催10日前までには参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．

（注意）締切時点で入金確認が取れない場合：請求金額は，「当日払い」の金額となり，未入金旨記載された確認書のみが送付されます（名札・クーポンは送付されません）．入金とクーポン発送が入れ違いの場合は，入金（振込）時の控え等を会場にお持ち下さい．ご協力をお願い致します．

（2）申込後の変更・取消

１）参加登録システム（オンライン）でお申込みの場合：締切までの間は，大会登録専用HPから予約の変更・取消が出来ます．締切後は直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．

２）FAX・郵送でお申込み場合：申込後に変更・取消が生じた場合は，学会事務局（東京）にFAXまたはe-mailにてご連絡下さい．その際申込受付時に案内される「受付番号」・「氏名」を必ず明記して下さい．

（3）取消に関わる取消料と返金について

	締切日（８/18）まで	大会３日前（９/７）まで	大会２日前（９/８）以降
参加登録費	０％	60%	100%
追加要旨	０％	60%	100%
懇親会	０％	100%	100%
弁　当	０％	50%	100%
	締切日（８/８）まで	大会３日前（９/７）まで	大会２日前（９/８）以降
巡　検	０％	50%	100%

※いずれの場合も返金がある場合は，振込手数料を差し引いた額をクレジットカード会社もしくは学会から返金します．返金までに２～３ヶ月要する場合もありますので，ご了承下さい．

10．参加登録費（講演要旨集付き）

	事前申込	当日払い	
正会員	7,500円	9,500円	
院生割引会費適用正会員	4,500円	6,500円	
学部学生割引会費適用正会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生・非会員招待者・同伴者	無料	無料	※講演要旨は付きません
非会員（一般）	12,500円	15,000円	
非会員（院生）	7,000円	9,500円	

※参加費有料の方には必ず要旨集１冊が付きます．講演要旨集が不要の場合でも割引はありません．

※講演要旨集の付かない方はご希望に応じて別途購入して下さい．

※日本地質学会の会員資格は『正会員』のみであり，割引会費の申請をした方についてのみ，割引会費が適用されています．

※セッション共催団体および巡検協賛団体会員の参加登録費は地質学会会員に準じます．

※**災害に関連した参加費の特別措置**：熊本地震で被災された会員の方々（災害救助法適用地域に居住している方）のご窮状をふまえ，申請により大会参加登録費を免除いたします．該当される方は，必ず事前参加申込手続き前に学会事務局に申請して下さい（1．会員氏名，2．被災地，3．被災状況（簡潔に）を添えて学会事務局まで．郵送，メールいずれも可）．

（注1）免除の対象は大会参加登録費に限ります．巡検，懇親会等その他の費用は対象となりません．

（注2）事前参加申込の場合に対してのみ適用しますので，当日会場での申請は受付けることができません．

11．講演要旨集の予約頒布

参加費無料の方は要旨集が付きません．必要な方は，参加登録時に追加講演要旨集の申込をして下さい．複数の講演要旨集を追加購入頂くこともできます．受け取り方法には，(1) 大会後に送付（要別途送料*）(2) 会場で受取があります．大会へ参加しない方も要旨のみ事前予約できます（大会後に送付）．

	事前予約（/冊）	当日販売（/冊）
会　員	3,000円	4,000円
非会員	4,000円	5,500円

※送料*：1冊　500円，2冊　600円，3冊　800円，4冊　1,000円，5冊　1,200円

12．巡検参加申込

申込締切：
オンライン：8月8日（月）18:00
FAX・郵送：8月5日（金）必着

総計11コースの巡検を計画しました（p.（22）参照）．

(1) 巡検のみ参加する場合も大会参加登録ならびに参加登録費が必要になります．

(2) 実施日程の異なる場合，複数の巡検コースへの申込を行うことができます．

(3) 申込人数が各巡検コースの最小催行人員に達しなかった場合，巡検を中止することがあります．

(4) 会員・非会員問わずお申込頂けますが，定員超過の場合は会員が優先となります．巡検協賛団体の会員の方は，会員同様にお申込が可能です．

(5) 本学会ならびに東京・桜上水大会実行委員会は巡検参加者に対し，巡検中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償を一切負いません．これらについては，巡検費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます．

(6) 集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，大会期間中は掲示などの案内に注意して下さい．

(7) Iコース「千葉市の昔の海岸線を歩く（教師向け巡検）」は，会期とは異なる10月1日実施予定です．参加申込窓口および申込締切も他のコースとは異なります．ご注意下さい．詳しくは，コース詳細をご覧下さい．

(8) 中学生以下がIコースに参加する場合は，必ず保護者同伴でお申し込み下さい．また，長時間の歩行や川原など足場の悪い場所で露頭観察を行う場合もあります．巡検の性質上，自立歩行が難しい方，介助が必要な方のご参加はご遠慮願います．

(9) 案内書は昨年同様，地質学雑誌7，8月号に掲載予定です（7月下旬または8月上旬にお手元に届きます）．CD-ROMは作成しません．また，雑誌発行と同時にJ-STAGE上で公開します．巡検参加者には，各班の巡検案内の複写を巡検当日に配布する予定です．

(10) 会期後，大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）において，参加者氏名を掲載させて頂きます．あらかじめご了承ください．

(11) 11コース以外に，関連行事として「家族巡検」，「防災施設見学」も企画しています．詳しくは，p.（3）を参照して下さい．

13．懇親会参加申込

日時：9月10日（土）18:00頃から2時間程度
会場：3号館1階食堂

準備の都合上，前金制の予約参加とします．たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第締切ります．当日会費は1,000円高くなります．

	会　費
正会員	5,000円
院生割引会費，学部学生割引会費適用正会員・名誉会員・50年会員，同伴者	3,000円

※非会員の会費は会員に準じます．
※締切後の参加取消の場合は会費の返却はいたしませんので，ご了承下さい．p.（8）9項（3）参照．

14．お弁当予約販売

9月10日（土）～12日（月）昼食用お弁当の予約販売をいたします（1個700円，お茶付き）．文理学部キャンパス正門を出ますとコンビニ・飲食店が多く営業する商店街がございますので，そちらもご利用ください．

会合のお申込

申込締切：６月29日（水）行事委員会扱い

会合開催をご希望の場合は，必要な申込項目をe-mailで行事委員会宛に申し込んで下さい．開催日時のご希望には沿えない場合があります．また，世話人には，集会内容を大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）に投稿していただきます（800字以内，原稿締切は10月下旬を予定）．

15．ランチョン開催の申込

開催予定：大会会期中の昼休み（今大会も，大会初日９月10日（土）にランチョンの時間を設けました）
申込項目：（1）集会名称，（2）集会内容（50～100字程度）（3）世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号）（4）その他ご希望等，

16．夜間小集会開催の申込

開催予定：９月11日（日），12日（月）18：00～19：30
申込項目：（1）集会名称，（2）集会内容（50～100字程度）（3）世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号）（4）その他ご希望等

その他のご案内

17．企業等団体展示・書籍販売・広告協賛の募集

＜申込締切：一次７月１日（金），最終８月５日（金）現地事務局扱い＞

企業等団体展示会，書籍・その他物品の販売ブース設置を大会会期中に予定しています．また，講演要旨集の広告協賛を募集致します．詳しくは大会ホームページまたは現地事務局までお問い合わせ下さい．

18．男女共同参画関係企画【託児所プラン】

＜利用申込締切：８月19日（金）現地事務局扱い＞

男女共同参画委員会では，ご家族で学会参加される会員の皆様に大会期間中にご利用いただける託児所のプランをご用意いたしました（利用料の学会補助あり）．対象は，東京・桜上水大会参加者を保護者とする生後３ヶ月から未就学のお子様です．詳しくは現地事務局までお問い合わせ下さい．

19．実行委員会組織

委員長：高橋正樹
（takahashi.masaki@nihon-u.ac.jp）
関東支部長：有馬　眞
（tigerbay2007@yahoo.co.jp）
事務局長：笠間友博
（TEL：0465-21-1515，kasama@nh.kanagawa-museum.jp）
巡検：大坪　誠
（TEL：029-849-1098，otsubo-m@aist.go.jp）
巡検案内書：亀尾浩司
（TEL：043-290-2802，kameo@faculty.chiba-u.jp）
男女共同参画企（託児室）：現地事務局（担当：田中・寺西）
現地事務局（（株）アカデミック・ブレインズ（内））
担当：田中・寺西（TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，e-mail：gsj2016tokyo@academicbrains.jp）

20．連絡先一覧

（1）日本地質学会行事委員会・地学教育委員会・学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

日本地質学会行事委員会（2016年４月現在）
委員長　竹内　誠（担当理事）
委　員　内野　隆之（地域地質部会）
上澤　真平（火山部会）
桑谷　立（岩石部会）
野々垣　進（情報地質部会）
田村　嘉之（環境地質部会）
亀高　正男（応用地質部会）
田村　糸子（地学教育委員会）
竹下　欣宏（第四紀地質部会）
岡田　誠（層序部会）
板木　拓也（海洋地質部会）
中条　武司（堆積地質部会）
辻　健（現行地質過程部会）
千代延　仁子（石油石炭関係）
山本　由弦（構造地質部会）
上松　佐知子（古生物部会）
黒田　潤一郎（環境変動史部会）
吉田　英一（地質環境長期安定性研究委員会）
中村　謙太郎（鉱物資源部会）

（2）日本地質学会第123年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ(内)）

〒540-0033 大阪市中央区石町1-1-1 天満橋千代田ビル２号館10F
TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138
e-mail：gsj2016tokyo@academicbrains.jp
担当：田中・寺西
営業時間　月～金曜10：00～17：45　土日・祝日休み

21. 申込先と締切一覧

	オンライン（WEB）	FAX・郵送	申込先	
講演申込（演題登録）	6 月 29 日（水）18 時	6 月 23 日（木）必着	行事委員会 / PASREG 講演申込システム	p.（5）参照
講演要旨原稿提出	6 月 29 日（水）18 時	6 月 23 日（木）必着	行事委員会 / PASREG 講演申込システム	p.（5）参照
大会参加登録	8 月 18 日（木）18 時	8 月 15 日（月）必着	学会事務局 / 参加申込システム	p.（8）参照
懇親会，弁当	8 月 18 日（木）18 時	8 月 15 日（月）必着	学会事務局 / 参加申込システム	p.（9）参照
追加講演要旨	8 月 18 日（木）18 時	8 月 15 日（月）必着	学会事務局 / 参加申込システム	p.（9）参照
巡　検	8 月 8 日（月）18 時	8 月 5 日（金）必着	学会事務局 / 参加申込システム	p.（9）参照
教師向け巡検	9 月 16 日（金）18 時	---	学会事務局 / 専用申込フォーム	p.（3）参照
家族巡検，防災施設見学，GIS ショートコース	8 月 31 日（水）18 時	---	学会事務局 / 専用申込フォーム	p.（3）参照
サイエンスカフェ	8 月末（予定）	---	学会事務局 / 専用申込フォーム	p.（3）参照

	締切		申込先	
託児室	8 月 19 日（金）	---	現地事務局（アカデミック・ブレインズ）	p.（10）参照
生徒「地学研究」発表会（小さな ES のつどい）	7 月 14 日（木）	---	地学教育委員会	p.（2）参照
ランチョン・夜間小集会	6 月 29 日（水）	---	行事委員会	p.（10）参照

	一次締切	最終締切		申込先
広告協賛	---	8 月 5 日（金）18 時	現地事務局（アカデミック・ブレインズ）	p.（10）参照
企業展示への出展	7 月 1 日（金）18 時	8 月 5 日（金）18 時	現地事務局（アカデミック・ブレインズ）	p.（10）参照
書籍・販売ブース	7 月 1 日（金）18 時	8 月 5 日（金）18 時	現地事務局（アカデミック・ブレインズ）	p.（10）参照

シンポジウム・セッション一覧

※タイトル（和英），世話人氏名・所属，概要を示します．＊印は代表世話人（連絡責任者）です．
※発表申込については，p.（5）をご確認下さい．

シンポジウム：2件　※一般公募なし　招待講演のみ

S1．一般公開シンポジウム：みんなで考えよう，都市ハザードから放射性廃棄物問題まで－科学技術と社会科学の融合－（企業編）10日（土），（研究編）11日（日）
Thinking Together Issues from Urban Hazards to Radioactive Waste: An Integration of Scientific Technology and Social Sciences
世話人：竹内真司*（日本大）
Conveners : Shinji Takeuchi（Nihon Univ.）
近年話題になっている東日本大震災などの自然災害に関する防災や減災への対策，東京電力福島第一原子力発電所事故の影響，放射性廃棄物の地中処分問題などについて，自然科学と社会科学の知の融合をテーマに科学技術と社会科学それぞれの観点から話題提供をいただき，今後のあるべき姿について議論することを目的とする．シンポジウムは，初日に民間企業による関連技術に関する話題提供を，二日目に大学・研究機関関連の研究成果等に関する話題提供を予定している．
【講演予定者（機関）】（企業編）応用地質（株），大林組，（株）ダイヤコンサルタント，mcm Japan，ほか
（研究編）平田　直（東大），木村克己（産総研），中森広道（日本大），佐藤　浩（日本大），藤原　治（産総研），竹内真司（日本大），吉田英一（名古屋大），小松崎俊作（東京大）

S2．国際シンポジウム：Geological and paleogeographical evolution of the Ryukyu Islands in the late Cenzoic
後期新生代における琉球列島の地質および古地理発達史
世話人：井龍康文*（東北大），太田英利（兵庫県立大学／人博），荒井晃作（産総研）
Conveners: Yasufumi Iryu（Tohoku Univ.），Hidetoshi Ota（Univ. Hyogo/Mus. Nature and Human Activities），Kohsaku Arai（GSJ, AIST）
The Ryukyu Islands（Ryukyus）are situated to the southwest of mainland Japan and encompasses several tens of islands and islets, extending from Tane-ga-shima in the northeast to Yonaguni-jima in the southwest. Most islands in the Central and Southern Ryukyus are rimed by modern coral reefs and are covered with the Quaternary carbonates deposited in reefs and associated shallow lagoons and island shelves. The current terrestrial fauna and flora in the Ryukyus are characterized by a high frequency of endemic taxa. Based mainly on geological data including those for the Pleistocene fossils, some hypotheses were once presented for the paleogeographic changes, which supposedly caused coral reef ‘turn-on’ and gave rise to the current characteristic phylogeographical patterns in various terrestrial organismal lineages in the Ryukyus. However, recent molecular phylogenetic and evolutionary studies have yielded data that are obviously incongruent with those previous hypothetical scenarios. This symposium aims to integrate the latest geological and biogeographic data in the Ryukyus and create a new hypothesis for tectonic evolution of the islands.
【講演予定者】Shu-Kun Hsu（National Central University, Taiwan），Don Sunwoo（Korean Institute of Geoscience and Mineral Resources, Korea），Hidetoshi Ota（Univ. Hyogo/Mus. Nature and Human Activities），Mamoru Toda（Univ. Ryukyus），Koh Nakamura（Hokkaido Univ.）

トピックセッション：9件

T1．活断層破砕帯の掘削と断層年代測定による断層活動性の評価
Trenching and drilling into active fault damage zone and assessment of fault activity by dating
林　愛明*（京都大；slin@kugi.kyoto-u.ac.jp）・田上高広（京都大）・堤　昭人（京都大）・宮脇昌弘（原子力規制庁）
Aiming Lin，Takahiro Tagami，Akito Tsutsumi（Kyoto Univ.），Masahiro Miyawaki（Secretariat of Nuclear Regulation Authority）
断層破砕帯は，断層活動により地殻浅部の脆性領域で形成されるもので，主に断層ガウジと角礫やカタクレーサイトなどから構成される．最近，断層破砕帯は，原子力発電所の敷地の安全性評価と構造物のサイト選定や断層活動性の判断などに関連して社会的に緊急な研究課題になっており，国内・国外で注目されている．本セッションは，断層の最新活動性評価に関わる諸問題に対して，変動地形学・構造地質学・年代学・地球物理学・地盤工学を含む固体地球科学諸分野におけるトレンチとボーリング掘削を含む活断層破砕帯の調査・実験・シミュレーション等多様な観点からの知見を統合して理解を深めることを目標とする．異なる分野の専門家が集まり，変動地形と断層破砕帯の物質を用いた年代測定や破砕帯の性状に基づいた断層活動性の評価手法に関する適用条件・断層摩擦特性と断層破砕帯の年代のリセット温度・応力・地下流体との関係などの課題についての議論を深めることを目指す．本セッションでは，最近行われてきた活断層・地震断層破砕帯のトレンチとボーリング掘削，フィールド観察，断層物質の年代測定，断層摩擦すべり実験，活断層周辺域の応力解析，断層破砕帯物性の解析など，様々な分野にわたる研究発表を歓迎する．
【招待講演予定者】なし

T2．日本海沿岸での津波堆積物研究の展開
Recent approach of the tsunami deposit researches in the Japan Sea area
卜部厚志*（新潟大災害・復興科学研究所；urabe@gs.

niigata-u.ac.jp）・高清水康博（新潟大）
Atsushi Urabe（NHDR, Niigata Univ.），Yasuhiro Takashimizu（Faculty of Education, Niigata Univ.）

2011年の東北地方太平洋沖地震による津波災害以降，日本海側においても津波リスクの見直しが急務とされ，波源となる断層の想定や沿岸各県による津波浸水想定が行われてきた．一方，各地域の津波履歴については，歴史記録が少ないことから江戸時代後半以前の津波被害については明確ではないことから，津波堆積物によるイベントの認定と復元が行われ，各地域における津波の履歴が明らかにされつつある．そこで，本セッションでは，主に2011年以降に行われた各地域の津波（イベント）堆積物に関する層相の特徴，認定方法，履歴，地域間の対比，波源の推定など検討を総括し，特に礫質なイベント堆積物の認定，履歴を復元できる古地形の推定と年代感をはじめとした共通する課題の整理を行うとともに，現時点での履歴のとりまとめや波源を復元していくための課題などについても整理を行い，今後の展開方法を議論し共有したい．

【招待講演予定者】平川一臣（北海道大：非会員），佐藤比呂志（東京大・地震研：会員）

T3. グリーンタフ・ルネサンス

Green Tuff renaissance

天野一男*（日本大；ikap@cap.ocn.ne.jp）・細井　淳（産総研）
Kazuo Amano（College of Humanities and Sciences, Nihon Univ.），Jun Hosoi（GSJ/AIST）

日本列島の新生代テクトニクスは，1990年代初頭に古い概念を脱却しプレートテクトニクス理論に基づいて再構築された．しかし，年代論などの新たなデータの蓄積にともない，陳腐化していることは否めない．日本列島新生代テクトニクスの新しいモデルが提唱されてからすでに20年以上が経過しているが，今こそ全面的な見直しを行い，研究のあらたな局面にむかって突破口を開く時期である．

グリーンタフは新生代テクトニクス解明のための鍵となる素材であるが，長年にわたって，その攻略法が不明で研究が停滞していた．近年，火山砕屑岩類の堆積相解析に基づいたグリーンタフ分布地での古火山体の復元などが行われるようになり，新たな研究の展開が期待される．また，日本海の拡大に伴った島弧の回転についても新たなデータが出始めている．

本セッションはグリーンタフを中心として，層序学・構造地質学・岩石学・古地磁気学等，広い視野から検討し，新生代の日本列島テクトニクス研究と島弧進化過程の研究にブレークスルーを図ることを目指している．本セッションは2008年より４回にわたって開催し，若者達に野外地質学の重要性と面白さをアピールしてきた．地域地質学的な話題からグローバルな話題まで，分野を限らずに歓迎する．

【招待講演予定者】松原典孝（兵庫県立大，会員），高嶋礼詩（東北大，会員）

T4. 表層型メタンハイドレートの地質と資源ポテンシャル

Geology and resource potential of shallow gas hydrates

松本　良*（明治大；ryo_mat@meiji.ac.jp）・角和善隆（明治大）・棚橋　学（明治大）・戸丸　仁（千葉大）
Ryo Matsumoto，Yoshitaka Kakuwa，Manabu Tanahashi（Gas Hydrate Laboratory Meiji Univ.），Hitoshi Tomaru（Chiba Univ.）

提案者らの継続的学術調査により，西太平洋の縁海域，オホーツク海，日本海，南シナ海には，海底下の比較的浅所にガスチムニーを作って集積する表層型メタンハイドレートが広く分布する事が分かって来た．我が国では20年近くにわたり南海トラフの砂層型メタンハイドレートが資源化の対象として調査されているが，これとは別に，2013年度からの３年間，国のプロジェクトとして，表層型メタンハイドレートの資源把握調査が集中的に行なわれ，明治大学ガスハイドレート研究所がこの調査を中心的に担って来た．高分解能３D地震探査，深部掘削とLWD,保圧コアリング，オスモサンプラーによる深海底での長期連続採水，深海メタンセンサーによる３次元的濃度プロファイルの解明など３年間の集中的かつ革新的調査により，表層型メタンハイドレートの起源と集積過程を理解する上で必須となるデータを多数得ることができた．一方，南シナ海，熊野灘でも表層型と似た産状のハイドレートが報告されている（招待講演）．本セッションでは，これら複数のデータセットを基礎として，地学，生物，物質科学，資源科学，環境科学など多様な関心とアプローチを統合し，メタンハイドレート研究の次の10年を展望したい．

【招待講演予定者】Saulwood Lin（台湾国立大，非会員），井尻　暁（JAMSTEC，会員）

T5. 都市地盤の地質学

Geological research on urban ground

中澤　努*（産総研；t-nakazawa@aist.go.jp）・小松原純子（産総研）・北田奈緒子（地域地盤環境研究所）・松浦一樹（株式会社ダイヤコンサルタント）
Tsutomu Nakazawa，Junko Komatsubara（GSJ, AIST），Naoko Kitada（Geo-Research Institute），Kazuki Matsuura（Dia Consultants Co. Ltd.）

都市地盤は従来工学分野で扱われることが多かったが，近年では都市地盤を地層の形成プロセスから考察し，物理特性や地盤災害，地質環境と関連づける研究が多くみられるようになってきた．都市地盤を構成する地層の層序学的・堆積学的研究は都市地盤を理解する上で重要な第一歩である．また近年の３次元モデリング技術の発展に伴い，得られた地質学的情報から地下を３次元で可視化することも試みられるようになってきた．このような都市地盤に関する地質学の成果は，地盤工学，地震工学，水文学など，関連分野に活かし，発展させていくことが重要である．そのためには地質の調査・研究成果をだれしもが利用できる地質地盤情報として適切に整備・蓄積していくことも必要である．首都東京での大会開催を機に，都市地盤の層序学・堆積学，またそれらを活用した応用研究，さらには地質地盤情報整備の取り組みなど，都市地盤について地質学を軸に多方面から捉えるトピックセッション「都市地盤の地質学」を開催する．

【招待講演予定者】先名重樹（防災科研，非会員），栗本史雄（産総研，会員）

T6. 日本列島の構造発達史再考

Geotectonic evolution of the Japanese Islands: revisited

磯崎行雄*（東京大；isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・青木一勝（岡山理科大）
Yukio Isozaki（Univ. of Tokyo），Kazumasa Aoki（Okayama Univ. Sci.）

最近５年間に日本列島に産する多様な造山帯砂岩について，砕屑性ジルコンのU-Pb年代測定という新たな手法が導入され，構造浸食による既存の地質体の消滅という従来の

テクトニクス解釈とは大きく異なる解釈が提案されている．これによると，約5億年前まで遡る日本列島の地殻形成史前半の解明については，極めて限定された地質学的証拠の探索が不可欠となる．しかし改めて新しい観点で本邦産の古期岩類の検討から，興味深い新発見がもたらされている．一方で，比較的若い過去の造山帯産物がよく残存している白亜紀以降の弧-海溝系テクトニクスについても，やはり砕屑性ジルコン年代学の成果が，既存の解釈に様々な変更を要求している．例えば，火山フロントを中心とする若い花崗岩バソリスの成長史を通して，前弧盆地，弧内盆地そして背弧盆地の分化過程などを，より詳細に提示することが可能となった．また新生代におきた背弧域の拡大（日本海の形成）についても，あらたな視点の導入が不可欠となっている．これらの多様なテーマを内包する本セッションでは，日本列島形成史の最新の描像を探る．
【招待講演予定者】堤　之恭（国立科学博，会員）坂田周平（学習院大，会員）

T7．文化地質学
Cultural geology
鈴木寿志*（大谷大；hsuzuki@res.otani.ac.jp）・一田昌宏（豊橋市自然博）・長　秋雄（産総研）・田口公則（神奈川県博）・加藤碩一（産総研）
Hisashi Suzuki（Otani Univ.），Masahiro Ichida（Toyohashi Mus.），Akio Cho（AIST），Kiminori Taguchi（Kanagawa Mus.），Hirokazu Kato（AIST）
今年は宮沢賢治生誕120周年を迎える．宮沢賢治は地質学に造詣が深く，文学作品には岩石や鉱物に関わる記述がふんだんにみられる．地質が人とどのように関わっているかを考える文化地質学では，文学作品も重要な研究対象になる．この度のトピックセッション文化地質学では，宮沢賢治研究の文学者と18世紀ドイツ文学の研究者を招待し，地質と文学に関わる研究に焦点をあてる．人々が岩石や鉱物をどのように捉えているか，考える端緒となろう．文学作品にみられる地質学的記述について詳しい方は，ぜひこの機会にご講演いただきたい．
一方で，これまで２回にわたるトピックセッション文化地質学では，(1) 地質を素材や石材資源として活用した事例研究，(2) 京都，日本，メソポタミアの文化・文明を地質学的に説明した研究，(3) 神社や寺院，遍路などでの宗教と地質の関わりを論じた研究，(4) 博物館・ジオパークなどにおける普及教育実践に関わる研究，が発表されてきた．文学だけでなく，これまでの例のような地質と人々との関わりについて論じたあらゆる研究発表を歓迎したい．
【招待講演予定者】鈴木健司（文教大，非会員），廣川智貴（大谷大，非会員）

T8．極々表層堆積学:「堆積物」への記録プロセスの理解
Superficial sedimentology : Deciphering record processes into sediments
新井和乃*（JAMSTEC；k_arai@jamstec.go.jp）・成瀬元（京都大）・小栗一将（JAMSTEC）・清家弘治（東京大）・川村喜一郎（山口大）
Kazuno Arai（JAMSTEC），Hajime Naruse（Kyoto Univ.），Kazumasa Oguri（JAMSTEC），Koji Seike（Univ. of Tokyo），Kiichiro Kawamura（Yamaguchi Univ.）
堆積物には様々な記録が保存される．地震，津波，流向，水温，気温など，どれも過去の地球の営みを理解するための重要な情報ばかりである．しかしながら，それらの「堆積物」への記録プロセス，すなわち，海底極表層での物理化学的プロセスはよくわかっていない．比喩表現ではあるが，一連の記録システムがテープレコーダーだとしたら，堆積物という名のテープに録音された音楽を鑑賞するためには，音が録音されるヘッド部での機構を知る必要があるだろう．本セッションでは，海底極表層部で生じている多岐にわたる物理化学的現象を議論したい．堆積学，と称してはいるが，地質学，地球物理学，地球化学，生物学など，学際的なセッションにしたい．
【招待講演予定者】菅沼悠介（国立極地研，会員），野田篤（産総研，会員）

T9．付加体地質中に残る遠洋性堆積岩の研究：進展と展望
Study on pelagic sedimentary rocks in the accretionary complex：Progress and prospects
尾上哲治*（熊本大；onoue@sci.kumamoto-u.ac.jp）・高橋聡（東京大）
Tetsuji Onoue（Kumamoto Univ.），Satoshi Takahashi（Univ. of Tokyo）
日本の付加体中に含まれる中古生代の遠洋性堆積岩（主に層状チャートからなる）は，陸源砕屑物の到達しないパンサラサ海遠洋域で堆積した長期間の記録を持つ．これらの堆積岩類は，1970年代後半に始まった微化石研究の進展いわゆる“放散虫革命”により詳しい年代決定が可能になり，さらに1990年代からは主要・微量元素や同位体分析による多元素の情報を得ることで，高い時間解像度で古海洋環境の復元が可能になっている．過去の地球システムの全体像を理解するためには，大陸縁辺部で堆積した地層の情報だけではなくパンサラサ海遠洋域に関する情報が必要不可欠であり，日本の遠洋性深海堆積岩から復元された古環境情報が注目を集めている．また，近年では，美濃帯などの付加体は古い海洋プレート上の堆積物が沈み込んでいるという点で日本海溝の陸上アナログになると考えられてきており，付加体の形成過程や内部の流体移動・物質循環を理解する上でも重要な研究対象と認識されてきている．本セッションでは，現在様々な手法を用いて研究が進められている付加体中の遠洋性堆積岩についての発表を広く募集し，同堆積岩研究の国内における情報発信の場としたい．
【招待講演予定者】山口飛鳥（東京大，会員），佐藤友彦（東京工大，会員）

レギュラーセッション：24件

※（　）内は責任母体となる専門部会または委員会です．

R1．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会）
Plutonic rocks, volcanic rocks and magmatic processes
草野有紀*（産総研；y.kusano@aist.go.jp），鈴木和恵（東京大），上澤真平（電中研）
Yuki Kusano*（AIST），Kazue Suzuki（Univ. of Tokyo），Shimpei Uesawa（CRIEPI）
深成岩および火山岩を対象に，マグマプロセスにアプ

ローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの相互作用について，野外地質学・岩石学・鉱物学・火山学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．

R2．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）

Petrology, mineralogy and economic geology

湯口貴史*（山形大；takashi_yuguchi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp），坂田周平（学習院大），五十公野裕也（山形大）

Takashi Yuguchi*（Yamagata Univ.），Shuhei Sakata（Gakushuin Univ.），Yuya Izumino（Yamagata Univ.）

岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学などの分野をはじめとして，地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を広く募集する．地球構成物質についての多様な研究成果の発表の場となることを期待する．

R3．噴火・火山発達史と噴出物（火山部会）

Eruption, evolution and products of volcanic processes

上澤真平*（電中研；uesawa@criepi.denken.or.jp），長井雅史（防災科研）

Shimpei Uesawa*（CRIEPI），Masashi Nagai（NIED）

火山地質ならびに火山現象のモデル化に関し，マグマや熱水流体の上昇過程，噴火様式，噴火経緯，噴出物の移動・運搬・堆積，各火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクス・化学組成をはじめとする，幅広い視点からの議論を期待する．

R4．変成岩とテクトニクス（岩石部会）

Metamorphic rocks and tectonics

吉田健太*（JAMSTEC；yoshida_ken@jamstec.go.jp），小林記之（名古屋学院大），足立達朗（九州大）

Kenta Yoshida*（JAMSTEC），Tomoyuki Kobayashi（Nagoya Gakuin Univ.），Tatsuro Adachi（Kyusyu Univ.）

国内および世界各地の変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察を含め，またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで，様々な地球科学的手法・規模の視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．

R5．地域地質・地域層序・年代層序（地域地質部会・層序部会）

Regional geology and stratigraphy, chronostratigraphy

松原典孝*（兵庫県立大；matsubara-n@stork.u-hyogo.ac.jp），内野隆之（産総研），納谷友規（産総研）

Noritaka Matsubara*（Univ. Hyogo），Takayuki Uchino（AIST），Tomonori Naya（AIST）

国内外を問わず，地域の地質や層序，および年代層序に関連した発表を広く募集する．地質図，年代，化学，分析，リモセン，活構造，地質調査法等の様々な内容の発表を歓迎し，地域を軸にした討論を期待する．

R6．ジオパーク（地域地質部会・ジオパーク支援委員会：一般公開）

Geopark

天野一男*（日本大：ikap@cap.ocn.ne.jp），高木秀雄（早稲田大）

Kazuo Amano*（Nihon Univ.），Hideo Takagi（Waseda Univ.）

昨年11月に世界ジオパークは正式にユネスコの活動として認められ，ユネスコ世界ジオパークとなった．日本のジオパーク活動も８年が経過して，日本ジオパークとして認定された地域は39地域となり，その内の８地域は世界ジオパークに認定されており，これから新たに申請を考えている地域も多い．このような状況下で，一層ジオパークの質の向上が求められている．ジオパークは，貴重な地質・地形を中心とした各種自然・文化遺産の価値を地元の人が良く理解し保全しながら，地域の教育や経済的振興をめざす事業である．自然遺産の保全，ジオパークで行われるジオツアーのインタープリター，ガイドの育成に当たって，地域の大学，博物館，研究所の研究者の協力は不可欠である．この観点から，地質学会として，問題点を整理し，ジオパークの質的向上への貢献に寄与したい．様々な実践例の発表，課題解決方法の提案など広く講演を募集する．

【招待講演予定者】渡辺真人（産総研：会員）

R7．海洋地質（海洋地質部会）

Marine geology

芦　寿一郎*（東大大気海洋研：ashi@aori.u-tokyo.ac.jp），小原泰彦（海上保安庁），板木拓也（産総研）

Juichiro Ashi*（AORI, Univ. of Tokyo），Yasuhiko Ohara（JCG），Takuya Itaki（AIST）

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・変動地形学・海域資源・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する．調査速報・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する．

【招待講演予定者】兵藤　守（JAMSTEC：非会員）・池原研（産総研：会員）

R8．堆積物（岩）の起源・組織・組成（堆積地質部会）［共催：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］

Origin, texture and composition of sediments

太田　亨*（早稲田大：tohta@toki.waseda.jp），野田　篤（産総研）

Tohru Ohta*（Waseda Univ.），Atsushi Noda（AIST）

砕屑物の生成（風化・侵食・運搬）から堆積岩の形成（堆積・沈降・埋積・続成）まで，組織（粒子径・形態）・組成（粒子・重鉱物・化学・同位体・年代）・物性などの堆積物（岩）の物理的・化学的・力学的性質を対象とし，その起源・形成過程・後背地・古環境や地質体の発達史を議論する．太古代の堆積岩から現世堆積物まで，珪質岩・火山砕屑岩・風成塵・リン酸塩岩・蒸発岩・有機物・硫化物などについての研究も歓迎する．

【招待講演予定者】笹尾英嗣（JAEA：会員），安江健一（JAEA：会員）

R9．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）［共催：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］

Origin of carbonate rocks and related global environments

山田　努*（東北大：t-yamada@m.tohoku.ac.jp），足立奈津子（鳴門教育大）

Tsutomu Yamada*（Tohoku Univ.），Natsuko Adachi（Naruto Univ. Educ.）

炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用，組織，構造，層序，岩相，生物相，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用など，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現

世炭酸塩の堆積作用・発達様式，地球化学，生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．
【招待講演予定者】松田博貴（熊本大：会員）

R10．堆積過程・堆積環境・堆積地質（堆積地質部会・現行地質過程部会）［共催：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］

Sedimentary geology, processes and environments

西田尚央*（東京学芸大；nishidan@u-gakugei.ac.jp），酒井哲弥（島根大），高野　修（石油資源開発）

Naohisa Nishida*（Tokyo Gakugei Univ.），Tetsuya Sakai（Shimane Univ.），Osamu Takano（JAPEX）

野外観察や室内実験によって堆積粒子の挙動や堆積物形成過程について検討した研究や，堆積物が形成される場としての環境（砂丘を含む風成環境，湖沼，河川，沿岸，陸棚，深海など）の特徴について，堆積学的手法や各種分析・測定によって検討した研究を広く募集する．また，露頭観察や得られた試資料に基づく堆積システムあるいは地層形成のダイナミクスに関する研究も歓迎する．
【招待講演予定者】片岡香子（新潟大災害・復興科学研：会員）

R11．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油石炭関係・堆積地質部会）［共催：石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会，日本堆積学会］

Geology and geochemistry of petroleum and coal

金子信行*（産総研：nobu-kaneko@aist.go.jp），千代延仁子（石油資源開発），三瓶良和（島根大）

Nobuyuki Kaneko*（AIST），Satoko Chiyonobu（JAPEX），Yoshikazu Sampei（Shimane Univ.）

国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．
【招待講演予定者】小鷹　長（合同石油（株）：会員），三田　勲（日本天然ガス（株）：会員）

R12．岩石・鉱物の変形と反応（構造地質部会・岩石部会）

Deformation and reactions of rocks and minerals

大坪　誠*（産総研：otsubo-m@aist.go.jp），高橋美紀（産総研），廣瀬丈洋（JAMSTEC），水上知行（金沢大）

Makoto Otsubo*（AIST），Miki Takahashi（AIST），Takehiro Hirose（JAMSTEC），Tomoyuki Mizukami（Kanazawa Univ.）

岩石・鉱物の変形（破壊，摩擦，流動現象）と反応（物質移動，相変化）およびその相互作用を，観察・分析・実験を通じて物理・化学的な側面から包括的に理解し，地球表層から内部における地質現象の解明を目指す．地質学，岩石学，鉱物学，地球化学など様々な視点・アプローチによる成果をもとに議論する．
【招待講演予定者】野田博之（京都大防災研：会員），中島淳一（東京工業大：非会員）

R13．沈み込み帯・陸上付加体（構造地質部会・海洋地質部会）

Subduction zones and on-land accretionary complexes

氏家恒太郎*（筑波大：kujiie@geol.tsukuba.ac.jp），橋本善孝（高知大），坂口有人（山口大），中村恭之（JAMSTEC）

Kotaro Ujiie（Tsukuba Univ.），Yoshitaka Hashimoto（Kochi Univ.），Arito Sakaguchi（Yamaguchi Univ.），Yasuyuki Nakamura（JAMSTEC）

沈み込み帯・陸上付加体に関するあらゆる分野からの研究を歓迎する．野外調査，微細構造観察，分析，実験，理論，モデリングのみならず海洋における反射法地震探査，地球物理観測，地球化学分析，微生物活動など多様なアプローチに基づいた活発な議論を展開したい．次世代の沈み込み帯・陸上付加体研究者を育てるべく，学生による研究発表も大いに歓迎する．
【招待講演予定者】日野亮太（東北大学：非会員），森　康（北九州自然史博：会員）

R14．テクトニクス（構造地質部会）

Tectonics

武藤　潤*（東北大：muto@m.tohoku.ac.jp），安江健一（JAEA），針金由美子（産総研）

Jun Muto*（Tohoku Univ.），Ken-ichi Yasue（JAEA），Yumiko Harigane（AIST）

陸上から海洋における野外調査や各種観測の他，実験や理論などに基づき，日本や世界各地に発達するあらゆる地質体の構造，成因，形成過程や発達史に関する講演を募集する．また，現在進行している地殻変形や活構造に関する研究成果も歓迎する．
【招待講演予定者】谷　健一郎（国立科博：非会員）

R15．古生物（古生物部会）

Paleontology

生形貴男（京都大），太田泰弘（北九州自然博），上松佐知子*（筑波大；agematsu@geol.tsukuba.ac.jp）

Takao Ubukata（Kyoto Univ.），Yasuhiro Ota（Kitakyushu Museum），Sachiko Agematsu*（Univ. of Tsukuba）

主として古生物を扱った，または，プロキシとして古生物を利用したものや古生物を用いた新手法などの研究の発表・討論を行う．

R16．ジュラ系＋（古生物部会）

The Jurassic +

松岡　篤*（新潟大：amatsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp），近藤康生（高知大），小松俊文（熊本大），石田直人（鳥取大），中田健太郎（いわき市アンモナイトセンター）

Atsushi Matsuoka*（Niigata Univ.），Yasuo Kondo（Kochi Univ.），Toshifumi Komatsu（Kumamoto Univ.），Naoto Ishida（Tottori Univ.），Kentaro Nakada（Ammonite Center, Iwaki City）

2003年の静岡大会において「ジュラ系」として誕生した本セッションは，隣接する地質系統の研究者の要望を取り込んで「ジュラ系＋」として発展し，10年間にわたりトピックセッションとして継続開催されてきた．この間，ジュラ系の研究を中心に，関連する講演がまとまって発表される場として定着し，ジュラ系研究の情報を研究者の間で共有することに貢献してきた．10年の活動は，2015年に地質学雑誌の特集『トピックセッション「ジュラ系＋」の10年』として結実した（2015年２月号「（その１）日本のジュラ系」，３月号「（その２）ジュラ系研究の将来展望」）．「ジュラ系＋」は，2013年からは古生物部会のセッションとなっている．本セッションでは，ジュラ系およびその上下の地質系統の研究について，各方面からのデータを持ち寄

り，多角的に検討する場を提供する．このことは，日本からの国際発信力を強化することにも寄与する．なお，2018年には，第10回国際ジュラ系会議がメキシコで開催される．
【招待講演予定者】長谷川　卓（金沢大：会員）

R17．情報地質とその利活用（情報地質部会・地域地質部会）

Geoinformatics and its application

野々垣　進*（産総研：s-nonogaki@aist.go.jp），斎藤　眞（産総研）
Susumu Nonogaki*（AIST），Makoto Saito（AIST）

地質情報の取得・デジタル化・データベース構築をはじめとして，デジタル管理した地質情報の数理解析・統計解析・画像処理・地理空間情報との統合利用，地質プロセスや地質構造の認識を基礎にした地殻の３次元表現である３次元地質モデルの構築・可視化，ボーリングデータの管理・分析，SNSを含むWebを通した地質情報の発信・共有など，地質情報の情報処理に関する全ての研究成果（理論・技術・システム開発・実践事例・応用事例など）の発表を歓迎する．また，これらの成果から得られた地質情報の利活用事例，利活用における問題点，比較検討・動向調査などの研究発表も歓迎する．

R18．環境地質（環境地質部会）

Environmental geology

難波謙二（福島大），風岡　修（千葉環境研），三田村宗樹（大阪市大），田村嘉之*（千葉県環境財団；tamura@ckz.jp）
Kenji Nanba（Fukushima Univ.），Osamu Kazaoka（Res. Inst. Environ. Geol., Chiba），Muneki Mitamura（Osaka City Univ.），Yoshiyuki Tamura*（Chiba Pref. Environ. Foundation）

地質汚染、医療地質，地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など，環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う．

R19．応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）

Engineering geology and non-tectonic structures

西山賢一（徳島大），亀高正男*（(株）ダイヤコンサルタント），須藤　宏（応用地質（株））
Ken-ichi Nishiyama（Tokushima Univ.），Masao Kametaka*（Dia Consultants），Hiroshi Sudo（OYO Corp.）

応用地質学一般では，種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの事例・構築方法，土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査，解析など，応用地質学的視点に立った幅広い研究を対象とする．また，ノンテクトニック構造では，ランドスライドや地震による一過性の構造，重力性の構造等の記載，テクトニック構造との区別や比較・応用等の研究を対象にして発表・議論する．
【招待講演予定者】向山　栄（国際航業（株）：会員）

R20．地学教育・地学史（地学教育委員会）

Geoscience Education/History of Geoscience

矢島道子*（東京医科歯科大：pxi02070@nifty.ne.jp），三次徳二（大分大）
Michiko Yajima*（Tokyo Medical and Dental Univ.），Tokuji Mitsugi（Oita Univ.）

地学教育，地学史に関わる研究発表を広く募集する．新学習指導要領についての教育現場からの問題提起や，実践報告に加え，大学や博物館，研究所等が行うアウトリーチに関わる実践報告についても歓迎する．また地学史からの問題提起，貴重な史的財産の開示を歓迎する．

R21．第四紀地質（第四紀地質部会）

Quaternary geology

公文富士夫*（信州大：shkumon@shinshu-u.ac.jp），竹下欣宏（信州大）
Fujio Kumon*（Shinshu Univ.），Yoshihiro Takeshita（Shinshu Univ.）

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む．また，新しい調査や研究，方法の開発や調査速報なども歓迎する．

R22．地球史（環境変動史部会）

History of the Earth

黒田潤一郎*（JAMSTEC；kurodaj@jamstec.go.jp），小宮剛（東京大），尾上哲治（熊本大），須藤　斎（名古屋大），清川昌一（九州大），山口耕生（東邦大）
Junichiro Kuroda*（JAMSTEC），Tsuyoshi Komiya（Univ. Tokyo），Onoue Tetsuji（Kumamoto Univ.）
Itsuki Suto（Nagoya Univ.），Shoichi Kiyokawa（Kyushu Univ.），Kosei Yamaguchi（Toho Univ.）

地球史を通して，大気や海洋，それに生命圏は様々な時間スケールで大きな変化を遂げてきた．それは，火山活動などの地球内部の活動や，太陽活動や公転軌道要素，隕石衝突など地球外要因によっても駆動されている．地球史における大気・海洋・生命圏の変動は，地層や化石に記録される．これらの変動を，多岐にわたる科学的手法により紐解くことは，地質学の大きな醍醐味の一つといえよう．本セッションは，特定の時代や特定の科学的手法にとらわれず，地球史上に残される環境変動や地殻変動の謎に迫る研究を広く募集し，インタラクティブな議論を展開する場にしたい．
【招待講演予定者】大河内直彦（JAMSTEC：会員）

R23．原子力と地質科学（地質環境の長期安定性研究委員会）［共催：日本原子力学会バックエンド部会］

Nuclear energy and geological sciences

吉田英一*（名古屋大：dora@num.nagoya-u.ac.jp），梅田浩司（日本原子力研究開発機構），高橋正樹（日本大），渡部芳夫（産総研）
Hidekazu Yoshida*（Nagoya Univ.），Koji Umeda（JAEA），Masaki Takahashi（Nihon Univ.），Yoshio Watanabe（AIST）

原子力は，ウラン資源探査，活断層等を考慮した耐震安全性評価，廃棄物の地層処分，放射性物質の環境動態等の多くの地質科学的課題を有している．本セッション「原子力と地質科学（Nuclear Energy and Geological Sciences）」は，このような日本の原子力に関わる地質科学的課題について，地球科学的知見の議論及び関連する学会や研究者間の意見交換を行うことを目的としており，幅広い分野からの参加，発表を歓迎する．
【招待講演予定者】丸井敦尚（産総研：非会員），須貝俊彦（東京大：非会員）

R24．鉱物資源と地球物質循環（鉱物資源部会）
Mineral resources and global material cycles
加藤泰浩*（東京大：ykato@sys.t.u-tokyo.ac.jp），岩森　光（JAMSTEC），中村謙太郎（東京大）
Yasuhiro Kato*（Univ. of Tokyo），Hikaru Iwamori（JAMSTEC），Kentaro Nakamura（Univ. of Tokyo）
近年，海底鉱物資源をはじめとする新しい資源の開発に向けた動きが活発化し，鉱物資源への注目が高まっている．鉱物資源の形成過程に関わる様々な元素の輸送・濃集過程は，ダイナミックな地球における物質循環と分化の一部に他ならず，鉱物資源の成因を考える上では，地球全体にまたがるグローバルな物質循環とその変遷，そしてその資源形成との関わりについての包括的な理解が不可欠である．本セッションでは，鉱物資源そのものに加え，これまで着目されることが少なかった資源形成をとりまく地球表層-内部環境，テクトニックセッティング，ダイナミクスと，資源の形成メカニズムとの関わりについても，グローバルに議論する場を提供したい．
【招待講演予定者】安川和孝（東京大：会員）

アウトリーチセッション

OR．日本地質学会アウトリーチセッション（一般公開，ポスター発表のみ）
Outreach session
星　博幸*（愛知教育大：hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp），須藤　斎（名古屋大）
Hiroyuki Hoshi*（Aichi Univ. Education），Itsuki Suto（Nagoya Univ.）
研究成果を社会に発信する場として設けられたセッション．地質学と関連分野を対象とし，開催地（関東地方，東京）とその周辺の地質や地学にかんする研究紹介，社会的に注目されている地質および関連トピックの研究紹介，特定分野の研究到達点や課題の解説など．客層は会員（専門家）ではなく市民であることに注意．申込多数の場合は行事委員会にて採否を検討する．p.（5）の3項（3）を参照．

セッション招待講演者の紹介

世話人や専門部会から提案され，行事委員会が承認した招待講演者（予定）の概要を紹介します．学術的にも社会的にも注目されている研究者やテーマが目白押しです．会員の皆様，この機会をお見逃しなく！ なお，講演時間は変更になる場合があります．

（行事委員会）

T2．日本海沿岸での津波堆積物研究の展開
■平川一臣（北海道大：非会員）30分
平川氏は，これまでも北海道や東北地域などの各地において，さまざまな層相の津波を起源と推定されるイベント堆積物を検出してきた先駆的な研究者である．日本海側についても，2011年以降地形学の視点から津波堆積物を挟在する古地形の抽出から先駆的にイベント堆積物の検討を行っており，全体像を総括する上で有益なアイデアを提案できる．
■佐藤比呂志（東京大・地震研：会員）30分
佐藤会員は，文科省の「ひずみ集中帯PJ」や「日本海地震津波調査PJ」などにおいて，日本海側の陸域・海域の構造探査を行ってきた第一人者である．特に，日本海側での津波に関しては，国土交通省での委員会や文科省のプロジェクト検収において，津波の波源となる海底活断層の構造探査を行い，各波源断層に関するモデルの構築を行っている．本セッションは津波堆積物をテーマとしているが，津波堆積物を研究する上で，もともとの津波波源に関する最新のモデルをしることは，研究の前提となる．また，日本海での最新の構造探査の成果や波源モデルは，本学会会員にとっても関心が非常に高いテーマであると考えられ，招待講演として有益なものとなることが高く期待される．

T3．グリーンタフ・ルネサンス
■松原典孝（兵庫県立大：会員）30分
松原会員は，野外における堆積相解析を主な手法として，グリーンタフ地域において古海底火山の詳細な復元を行っている若手の研究者である．中でも南部フォッサマグナの丹沢山地については，島弧－島弧衝突テクトニクスの立場でユニークな研究を展開してきた．南部フォッサマグナのテクトニクスについて，従来の研究のレビューと今後の展望について野外地質学の観点から話題提供できる招待講演者として適任である．
■高嶋礼詩（東北大：会員）30分
高島会員は，近年アパタイト微量元素組成を用いて凝灰岩の高精度の対比にチャレンジしている．グリーンタフ中の凝灰岩中の火山ガラスは熱水変質を被っており,従来の手法では対比は困難であった．しかし，この手法によればグリーンタフの正確な対比が可能になり，グリーンタフ研究に新たな局面の展開が可能となる．新手法の紹介と今後の

可能性について話題提供できる招待講演者として適任である．

T 4．表層型メタンハイドレートの地質と資源ポテンシャル
■Saulwood Lin（国立台湾大学：非会員）30分
Lin（台湾国立大学海洋研究所　准教授）氏は，地球化学を専門とするが，10年以上前から，台湾南西沖の南シナ海北端付近に無数に発達する泥火山および関連するメタン湧出に注目，ROV，掘削調査，地震探査など様々な手法でこの奇妙な地形地質の研究を続け，最近，この海域より塊状のメタンハイドレートの回収に成功した．これらの産状は，日本海の表層型メタンハイドレートと酷似しており，その成因，起源を理解する上で，南シナ海での確認は重要である．
■井尻　暁（JAMSTEC：会員）30分
地球化学，地球微生物学を基礎として，海洋と堆積物の化学過程の研究を推進している研究者で，熱水活動にも冷湧水活動にも多くの経験があり，最近は，南海トラフの泥火山に伴うハイドレート，インド洋のハイドレート調査にも参加しており，提案するセッションの重要な寄与になり，招待講演をお願いしたい．

T 5．都市地盤の地質学
■先名重樹（防災科研：非会員）15分
「首都圏の地下構造モデルと強震動予測」：先名氏は地震本部および防災関連のSIP課題で首都圏の地下構造モデル構築とそれに基づく強震動予測研究を推進する地震工学の専門家である．先名氏には本トピックセッションで，SIPで実施している首都圏地盤に関する総括的な取り組みを紹介していただくとともに，地震工学分野から地質の研究者・技術者への期待についても述べて頂く．
■栗本史雄（産総研：会員）15分
「地質・地盤情報の法整備に向けた取り組み」：栗本会員は，日本学術会議の地質地盤情報共有化に向けた提言をとりまとめたメンバーのひとりであり，「地質地盤情報の活用と法整備を考える会」の代表世話人である．この取り組みは地質学会も賛同し協力しているもので，学会員にも広く知ってもらいたいことから，関連の深い都市地盤セッションにおいて紹介して頂く．

T 6．日本列島の構造発達史再考
■堤　之恭（国立科学博：会員）15分
■坂田周平（学習院大：会員）15分
両氏は，LA-ICPMSを用いたジルコンの粒子個別年代測定を日本の地質学に定着させ，多くの研究者との共同研究を通して，次々と新しい知見を解明している．
それは，1980年代におきた微化石年代決定による付加体研究ブーム以来の，大きなブレークスルーを導いている．本セッションで扱う内容はまさにこれらの成果である．この機会に，最先端の測定技術の向上の様子，ならびにそれがもたらした最新の成果を，両氏に紹介して頂く．

T 7．文化地質学
■鈴木健司（文教大：非会員）30分
鈴木氏は，宮沢賢治文学作品の屹立過程を宗教や化学・地学的観点から理論構築しようとしている文学者である．文系研究者としては珍しく，賢治が見てきた岩石・鉱物を自分でも採集し，宮沢文学を読み解こうとする異色の文学者である．地質と文学の関係を理解する上で，地質学者とは異なった視点での岩石・鉱物の捉え方に気づかされるだろう．
■廣川智貴（大谷大：非会員）30分
廣川氏は，近世ドイツ文学にみられるテキストが，宗教や自然科学的知見の進展に伴い変化することに着目して，地道に研究を続けているドイツ文学者である．近年は18～19世紀のドイツにおける地質学の発達が，ドイツ文学に与えた影響を考察しており，当時のドイツ人が地質をどのように捉えていたかを知る機会となろう．

T 8．極々表層堆積学:「堆積物」への記録プロセスの理解
■菅沼悠介（国立極地研：会員）30分
菅沼会員は，古地磁気学，年代層序学を専門としており，特に，表層における古地磁気獲得プロセスに関して詳しい．菅沼会員は，海底堆積物における堆積残留磁化の獲得メカニズムの解明の研究から，2014年度に，日本地質学会小澤儀明賞を受賞している．本セッションでは，学際的な意図があり，表層での古地磁気学の議論が不可欠である．上記の理由から，菅沼会員を招待講演者として推薦する．
■野田　篤（産総研：会員）15分
野田会員は，堆積学，堆積地質学，海洋地質学を専門としており，特に，源流域から海溝底までの地球表層に堆積した堆積物（岩）を対象にし，それらに記録されている過去の地球表層でのできごとを明らかにしている．また，砕屑物からみる地球表層プロセスを解明することにも従事しており，地質学会での続成作用に関するセッションの世話人もしている．このように，野田会員は表層プロセス全般に知識があり，表層地質を広く議論する際に重要な人物である．

T 9．付加体地質中に残る遠洋性堆積岩の研究：進展と展望
■山口飛鳥（東京大：会員）15分
山口会員は，構造地質を扱う第一線で活躍する若手研究者である．山口会員の研究は，プレート沈み込み帯とその周辺で起こるテクトニックな現象を，海洋掘削や陸域地質調査で得た試料を化学的・物性的な側面から分析するものである．中でも，本セッションに関連する付加体中の堆積岩の変形構造や変形中に形成された流体の痕跡を扱った研究は，過去のプレート運動の記録を読み取り現在進行型のテクトニクスを理解するアナログとして意義深い成果を挙げている．
■佐藤友彦（東京工大：会員）15分
佐藤会員は，地球環境史を地質学・古生物学・地球化学を応用して高い成果を挙げてきた若手研究者である．多様な時代の研究を展開する佐藤会員の研究において，深海チャートのなかに含まれる鉄の化学状態を，メスバウアー分光法を用いて分析し，赤色や灰色など多様な色調を呈する層状チャートの経験した堆積時，続成時の酸化還元環境を解読する研究は，本セッションに重要な知見を与える．

R 6．ジオパーク
■渡辺真人（産総研：会員）30分
渡辺会員は日本のジオパーク推進に初期から関わっており，世界ジオパークネットワークの活動にも深く関わっている．昨年11月のジオパークのユネスコ正式プログラム化とInternational Geoscience and Geopark Programmeの発足を受けて，ジオパークの現状と今後，学会が果たすべき役割などについて基調講演を依頼したい．

R７．海洋地質（海洋地質部会）

■兵藤　守（JAMSTEC：非会員）30分

兵藤氏は南海トラフの地震発生現象を計算機シミュレーションにより再現する研究を行っており，この分野で最近最も成果をあげている研究者と言える．海洋地質セッションではタービダイトを用いた地震履歴研究の発表も多く，地震・津波発生の数値モデル計算がどのように行われているかを知る機会を持ちたく招待したい．

■池原　研（産総研：会員）30分

池原会員は堆積学，古環境学を中心に海洋地質学の広い分野の研究を行っており，特に地震性タービダイトの研究では優れた成果を多数あげている．地震性タービダイトは地震履歴復元において強力なツールとして挙げられるが，一方で適用できる条件について十分な検討が必要である．海洋古地震研究の国内外の最近の動向と問題点，今後の地震性タービダイト研究の課題について講演していただきたく招待したい．

R８．堆積物（岩）の起源・組織・組成

■笹尾英嗣（JAEA：会員）30分

笹尾会員は，ウラン鉱床の形成プロセスを中心に研究を実施されており，その過程で堆積岩中のウラン鉱床形成プロセスを続成作用と関連付けた検討を行っている．当セッションの重要課題の一つである続成作用についてウラン鉱床の形成を例にご講演頂き，堆積物は堆積後にどう変化するのかを考えるきっかけとしたい．

■安江健一（JAEA：会員）15分

安江会員は，地震地質学の専門家であり，活断層の履歴解明，断層運動に伴う山地隆起や段丘形成などの研究を中心に行なってこられた．最近では，数十万年スケールでの山地形成過程や堆積物供給源の変化を把握する目的で，石英粒子のESR信号等を利用した後背地解析技術の研究開発を進めている．今回は，その手法の持つ利点や適用の可能性についてご講演を頂く．

R９．炭酸塩岩の起源と地球環境

■松田博貴（熊本大：会員）30分

松田会員は炭酸塩堆積学および続成過程に関する研究に一貫して取り組んでおり，この分野をリードする一人である．炭酸塩堆積物や生物骨格の地球化学的情報を用いた古環境解析が盛んに試みられているが，そうした研究の中には，堆積・続成過程が充分に考慮されていないものも散見される．炭酸塩の堆積・続成過程に関する幅広い知見を紹介いただき，炭酸塩研究のさらなる発展のために礎を改めて考える機会としたい．

R10．堆積過程・堆積環境・堆積地質

■片岡香子（新潟大災害・復興科学研：会員）30分

片岡会員は，火山砕屑物を対象として堆積学的視点から地層・現行過程双方の研究に取り組んでおり，この分野をリードする第一人者である．特に，日本各地の火山とその周辺において，火山噴火が関わる突発的で大規模な火山泥流（ラハール）の定性・定量的復元や，河川堆積作用への影響および堆積環境変遷の解明を目的とし，フィールド調査を基礎として卓越した成果を挙げてきた．近年では，御嶽火山2014年噴火後に発生した火山泥流と積雪・融雪期における火山土砂輸送も対象として調査研究を推進している．このような研究は，火山大国日本における防災・減災の基礎として社会的な貢献も期待される．このため，近年の研究動向のレビューも交えて最新の知見を紹介いただき，堆積学的視点に基づく火山砕屑物研究の意義や役割について理解を深める機会としたい．

R11．石油・石炭地質学と有機地球化学

■小鷹　長（合同石油（株）：会員）30分

小鷹会員は現在，石油技術協会会長，合同石油開発（株）社長の要職に就いている．同会員は石油開発会社に就職以来，石油探鉱技術者として国内，海外の一線で活躍をされて来られ，特に地震探鉱が適用できない難地域においてストロンチウム同位体層序や流体包有物分析などの新技術を駆使して，解釈を進めて来られた．パプアニューギニアでの天然ガス発見から28年を経て，2014年５月に液化天然ガスの出荷が開始されたが，初期の探鉱段階からガス田の開発に従事してこられた同会員に，プロジェクトの概要と地質評価，そして石油探鉱・開発の魅力について講演した頂くとともに，石油鉱業界からの地質学への要望も期待したい．

■三田　勲（日本天然ガス（株）：会員）30分

三田会員は石灰質ナンノ化石の専門家であり，房総地域の新第三系の層序に関する数多くの論文の共著者である．今回は関東（東京）開催ということで，国内最大の水溶性ガス田である南関東ガス田の資源と地質について講演して頂く．南関東ガス田ではメタンガスの採取とともに，鹹水からヨウ素を生産し，その量は全世界の生産量の約１／３を占める．また，茂原地域では生産開始後にガス水比が急増する世界的にも珍しい産出挙動が知られている．三田会員らは，ガス田地下に分布するタービダイト砂岩の三次元的な分布を，坑井の検層データや微化石分析により明らかにしてきた．本講演では，ヨウ素濃度やガス水比とタービダイト砂岩貯留層との関係などについて講演をお願いする．三田会員は現在，日本天然ガス（株）の社長である．

R12．岩石・鉱物の変形と反応

■野田博之（京都大防災研：会員）30分

野田会員は，断層岩調査や変形実験で得られる成果を地震発生のモデルに組み込み，断層で起きる様々な現象についてより現実的なシナリオの模索を続けておられる．講演では，モデリングを通して地震現象を解明する上で，地質学を専門とする人がどのような点で貢献できるかについて実例をもとにお話しをしていただく．

■中島淳一（東京工業大：非会員）30分

中島氏は，沈み込み帯の地震・火山テクトニクスの理解をめざし，地震波不均質構造と地殻流体や島弧マグマ活動の関わりを軸に広い視野のもとご研究を続けておられる．本レギュラーセッションで議論する様々な成果は中島氏の研究のように沈み込み帯の包括的な理解を目指す研究へと強く連携されるべきところである．活発な議論が期待できる．

R13．沈み込み帯・陸上付加体

■日野亮太（東北大学：非会員）30分

日野氏らのグループは，日本海溝沈み込み帯を対象に地震・測地観測と数値計算を組み合わせた研究を行い，2011年東北地方太平洋沖地震後の地殻・マントルを含む粘弾性緩和や周期的なスロースリップと大地震発生の関連性解明など，特筆すべき顕著な成果をあげられている．本講演を通じて，地質学を専門とする人に沈み込み帯における最新の地球物理研究成果を提供するとともに活発な議論を展開したい．

■森　康（北九州自然史博：会員）30分

森会員は，長崎変成岩を対象に地質学的研究を精力的に進め，スラブ－マントル境界で形成された蛇紋岩メランジュにおける岩石流体相互作用を明らかにしてきた．これは沈み込み帯深部で発生するスロー地震の発生場や地質学的描像を理解するうえで，貴重な情報を提供している可能性がある．講演ではこれまでの研究成果を紹介して頂くとともに，スロー地震の理解目指して今後地質学がどのような役割を果たしていくべきか，話題提供して頂きたいと考えている．

R14．テクトニクス

■谷　健一郎（国立科博：非会員）30分

谷氏は陸上から海洋底までの幅広いフィールドで，岩石学・ジルコンU-Pb年代学・地球化学を用いて，花崗岩質大陸地殻の発達過程を明らかにする研究を行っている．特に伊豆-小笠原弧などの海洋性島弧からの大陸地殻発達過程に注目して研究を精力的に行い，興味深い成果を上げてきた．近年では現在進行形である島弧ー島弧衝突が生じている伊豆衝突帯の丹沢複合深成岩体について，これらの手法を適用した結果，深部地殻の発達過程について新たな知見が見いだされた．これらの内容は，東京大会として最適であり，候補者が解明した伊豆衝突帯の深部地殻構造について話題提供を期待する．

R16．ジュラ系＋（古生物部会）

■長谷川　卓（金沢大：会員）30分

長谷川会員は炭素同位体比層序の研究を牽引してきた．これまでに白亜系については多くの研究業績をあげている．近年，長谷川会員はジュラ系についての炭素同位体比層序についても興味を示している．招待講演では，トリアス・ジュラ系境界付近の炭素同位体比層序に関する講演を期待している．

R19．応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）

■向山　栄（国際航業（株）：会員）30分

向山会員は，近年急速に発達してきた新しい地形解析・地形表現技術の開発とその適用に関する研究を一貫して推進されてきた．また，現在進められている日本地質学会125周年記念誌の応用地質特集号の執筆を進められている．本講演では，地形解析・地形表現の新技術とその応用地質学的な適用性・発展性に関する研究動向などについてご報告をいただくこととしたい．

R22．地球史（環境変動史部会）

■大河内直彦（JAMSTEC：会員）30分

大河内会員は，有機地球化学・同位体地球化学研究の第一人者である．彼は地球史の様々な時代（完新世，更新世，中新世，白亜紀，ペルム紀，先カンブリア紀など）の海洋生態や海洋環境，気候変動や元素循環の解明に取り組み，多くの業績を残してきた．とりわけ，独自の分析手法開発により新たなプロキシを編み出して古環境解析に応用する研究スタイルは聴講者を大いに刺激するものになるだろう．「チェンジングブルー -気候変動の謎に迫る」や「地球の履歴書」など優れた書籍を多く出版されており，科学者のみならず一般のファンも多い．大河内会員に地球史セッションで最新の話題を提供していただく．

R23．原子力と地質科学

■丸井敦尚（産総研：非会員）30分

丸井氏は，原子力廃棄物に関する国の地層処分技術WGのメンバーであり，資源エネルギー庁の沿岸域地下水研究を2004年から実施してきた．また，沿岸工業団地の設計指針策定や水循環基本法ならびに同計画にも関わってきた，わが国における沿岸域地下水研究の第一人者である．わが国における地層処分の科学的有望地は，今年中にも沿岸地下に選考されようとしている．今後，地質学会に求められる沿岸域の地下地質やその構造などの評価を行う際に，事業主体の要求や地下水・工学など他分野の情報を的確に得ておく必要があるため，最新の話題を提供していただき，有意義な議論を進めるのに最も適した人材である．

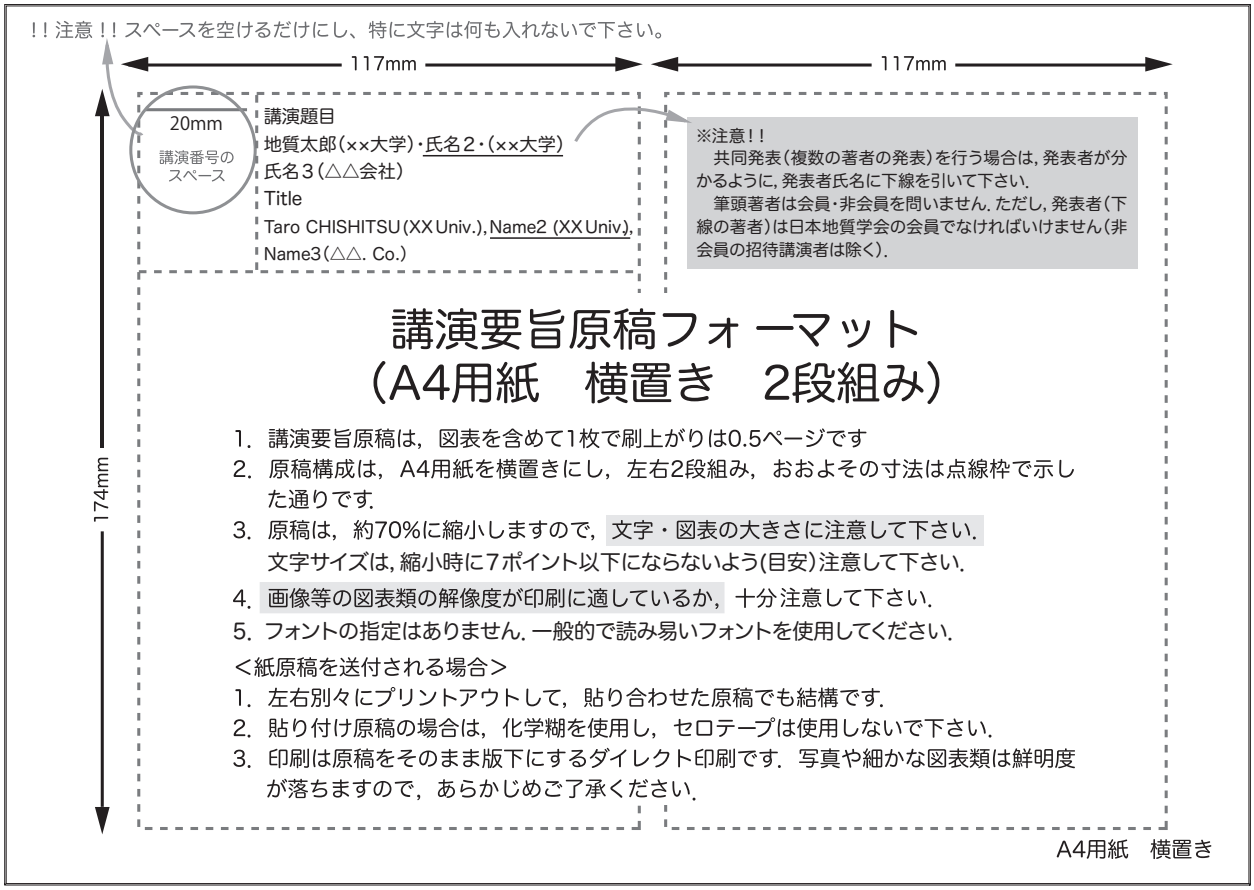
■須貝俊彦（東京大：非会員）30分

須貝氏は，自然地理学，とくに第四紀後期の地形発達史の復元が専門であり，地質環境の長期的挙動に関する分やの第一人者として，これまで地殻変動，気候・海水準変動と斜面・河川プロセスによる陸上環境の長期変動についての研究を展開してきた．これらの知見は，地層処分のサイト選定やサイト調査において不可欠であり，当該分野の最新の話題を提供していただき，有意義な議論を進めるのに最も適した人材である．

R24．鉱物資源と地球物質循環（鉱物資源部会）

■安川和孝（東京大：会員）

安川会員は，主成分・微量元素組成の解析を通じて，深海堆積物の起源とその背後にある地球表層環境変動と資源形成との関連を解明しようと精力的に研究を進めている．特に，独立成分分析という新しい統計解析手法を深海堆積物の化学組成解析に導入することでこの分野の研究に新展開をもたらし，注目すべき成果を挙げている若き第一人者である．招待講演では，深海堆積物を研究対象とした「地球表層-内部環境，テクトニックセッティング，ダイナミクスと，資源の形成メカニズムとの関わり」について，新しいアプローチによる最新の話題を提供して頂く予定である．



講演要旨オンライン投稿手順・チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です．投稿していただく前に各自でご確認下さい．

1．Word等のソフトで講演要旨原稿を作成する

□「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容は守られていますか？
□引用文献は要旨中に表示されていますか？
□要旨の体裁は守られていますか？p.（22）の原稿フォーマット参照

2．原稿をPDFファイルにする

□フォントは「埋め込み」になっていますか？（できたファイルサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性があります）
□ファイルサイズは5.0MB以下になっていますか？
□作成したファイルを自分でプリントアウトしてみましたか？（図表や写真に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい）
□PDFファイルを自分のPC上に，「.pdf」の拡張子をつけて保存しましたか？

3．講演申込システム：PASREGから講演申込＆要旨原稿を行う

（講演申込と同時に要旨投稿をすることもできますし，要旨のみ後で投稿することもできます）
□入力した情報（発表題目・発表者氏名等）は，講演要旨と一致していますか？
□申込完了画面が表示されましたか（ログイン用の受付番号（=ID）が表示されましたか）？
□「講演申込のお知らせ」のメールが配信されましたか？

オススメ☞講演要旨の作成が完了していなくても，まずは講演申込の手続きを済ませておきましょう！

要旨のみ後で投稿することができます．講演申込には発表者情報など入力する情報が多いので締切間際にあわてると誤入力の原因になります．余裕を持ってあらかじめ講演申込を済ませておくことをオススメします．

東京・桜上水大会巡検コース一覧

1） 取消料は，申込締切後～大会３日前（９/７）までは50%，大会２日前（９/８）以降は全額となります（p.（8）参照）．申込締切後の変更・取消は，直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．
2） 参加費には，日程に応じた旅行傷害保険（少額）が含まれます．
3） 最小催行人員に満たない場合や，安全確保に問題があると考えられる場合は，コース内容の一部変更や巡検中止等の措置をとることがあります．
4） 案内書は昨年同様，地質学雑誌７，８月号に掲載予定です．CD-ROMは作成しません．また，雑誌発行と同時にJ-STAGE上で公開します．参加者へは，各コース毎の案内書を巡検当日に配布します．
5） 集合・解散の場所，時刻等に変更が生じた場合，大会期間中会場内の掲示板等に案内します．また，案内者から直接ご連絡することもあります．
6） Iコース＜教師向け巡検＞について：学会補助事業です．小中高の教員ならびに一般市民を優先対象とします．また本巡検のみ会期外の10月１日実施予定です．申込締切や申込フォームも他のコースとは異なります．ご注意下さい．
7） 中学生以下がIコースに参加する場合は，必ず保護者同伴でお申し込み下さい．また，長時間の歩行や川原など足場の悪い場所で露頭観察を行う場合もあります．巡検の性質上，自立歩行が難しい方，介助が必要な方のご参加はご遠慮願います．

A	**丹沢山地の地質：伊豆衝突帯のジオダイナミクス**	略称	**＜丹沢衝突帯＞**
		巡検コース	［１日目］横浜駅（集合）9:00→山北→皆瀬川→小山→玄倉→中川温泉→丹沢湖キャンプサイト ［２日目］丹沢湖キャンプサイト→中川橋→河内川→大滝沢→世附→細川谷→松田駅・横浜駅（解散）17:00
		主な見学対象	1．丹沢複合深成岩体　2．丹沢層群（枕状溶岩）　3．丹沢変成岩 4．足柄層群　5．ざくろ石流紋岩　6．神縄断層　7．塩沢断層
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（１泊２日）**
		定員 （最少催行人数）	12（10）
		案内者	石川正弘（横浜国立大）・谷健一郎（国立科学博物館）・金丸龍夫（日本大）・桑谷立（JAMSTEC）・小林健太（新潟大）
		参加費	12,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「中川」，「山北」，「駿河小山」
		集合・解散	集合：13日9:00（横浜駅）　解散：14日17:00（横浜駅）
		その他	案内者が食費・雑費を現地にて別途徴収（3,000円程度）．移動にはレンタカー使用．参加人数によってレンタカー利用料金負担が変動する可能性あり．帰路はJR松田駅にも立ち寄る．
B	**付加型沈み込み帯浅部の地質構造：房総半島南部付加体―被覆層システム**	略称	**＜浅部付加体＞**
		巡検コース	［1日目］館山駅西口（集合）10:00→南房総市千倉→西川名→館山市見物→筑波大学館山研修所（泊） ［2日目］筑波大学館山研修所→鴨川市太海→鴨川市磴森→筑波大学館山研修所（泊） ［3日目］筑波大学館山研修所→館山市犬掛→富津市志駒・岩本付近→道の駅富楽里（解散）15:00
		主な見学対象	1．埋没深度約1kmの付加体と被覆層　2．埋没深度約2～4kmの付加体と被覆層　3．海溝斜面堆積物　4．前弧海盆堆積物
		日程	**9月13日（火）～15日（木）（2泊3日）**
		定員 （最少催行人数）	15（12）
		案内者	山本由弦（JAMSTEC）・千代延俊（秋田大）・神谷奈々（日本大）・斎藤実篤（JAMSTEC）
		参加費	16,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「館山」，「千倉」，「那古」，「安房古川」，「安房和田」，「鴨川」，「鬼泪山」
		集合・解散	集合：13日10:00（館山駅西口）　解散：15日15:00（道の駅富楽里）
		その他	参加費に昼食・夕食代は含まれない．昼食は近くの店舗で購入の予定．解散場所の道の駅富楽里では東京・横浜方面に高速バスあり（参考：富楽里15:25→東京駅16:46；富楽里15:35→横浜駅17:00；富楽里15:35→君津バスターミナル乗り換え→羽田空港17:03）.移動にはレンタカー使用．参加人数によってレンタカー利用料金負担が変動する可能性あり．

C	**葉山―嶺岡帯トラバース**	略称	**＜葉山―嶺岡帯＞**
		巡検コース	［1日目］千葉駅（集合）8:00→鴨川市鴨川漁港→鴨川市嶺岡中央林道→南房総市平久里→鋸南町勝山→道の駅保田小学校（泊） ［2日目］道の駅保田小学校→横須賀市野比→横須賀市平作→横須賀市芦名→横須賀市立石→葉山町森戸→逗子市桜山→新逗子駅（解散）16:00
		主な見学対象	1．嶺岡帯構成岩石とその配列　2．蛇紋岩と堆積岩との関係　3．房総半島西岸オフィオライト岩体　4．北武断層破砕帯　5．三浦半島葉山層群各層及び田越川不整合
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（1泊2日）**
		定員 （最少催行人数）	20（15）
		案内者	高橋直樹（千葉県立中央博物館）・柴田健一郎（横須賀市自然・人文博物館）・平田大二（神奈川県立生命の星・地球博物館）
		参加費	18,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「鴨川」，「金束」，「保田」，「浦賀」，「横須賀」，「秋谷」，「鎌倉」
		集合・解散	集合：13日　8:00（JR千葉駅）　　解散：14日　16:00（京急新逗子駅）
		その他	参加費に昼食代は含まれない．1日目は昼食各自持参．2日目昼食は近くの店舗で購入の予定．2日目の房総半島－三浦半島間は東京湾フェリーを利用．道の駅保田小学校では4人1組の相部屋を予定.
D	**関東山地北縁部の低角度構造境界**	略称	**＜関東山地北縁部＞**
		巡検コース	［1日目］日大文理学部（集合）8:00→比企丘陵→小川町→金勝山→長瀞高砂橋付近→甘楽ふるさと館（泊） ［2日目］甘楽ふるさと館→下仁田→日大文理学部（解散）18:00
		主な見学対象	1．領家帯マイロナイトと青岩礫岩　2．寄居変成岩　3．金勝山石英閃緑岩　4．緑色岩メランジュ　5．三波川帯内部の低角度断層境界　6．跡倉ナップの押し被せ褶曲　7．跡倉押しかぶせ断層と跡倉礫岩　8．ペルム紀ナップ（金勝山ナップ）基底断層
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（1泊2日）**
		定員 （最少催行人数）	20（15）
		案内者	高木秀雄（早稲田大）・新井宏嘉（早稲田大本庄高等学院）・宮下敦（成蹊高校）
		参加費	24,500円
		必要な地図 （1/2.5万）	「武蔵小川」，「安戸」，「鬼石」，「下仁田」
		集合・解散	西武池袋線石神井公園駅　集合：13日　8:30　　解散：14日　18:00
		その他	参加費に2日目昼食代を含む．1日目は弁当持参または途中の高坂SAで購入可能.
E	**関東山地の秩父帯北帯**	略称	**＜秩父帯北帯＞**
		巡検コース	［1日目］西武秩父駅（集合）9:00→群馬県神流町間物沢沿い→叶山鉱山→神流川沿い→秩父小鹿野温泉旅館 梁山泊（泊） ［2日目］秩父小鹿野温泉旅館 梁山泊→浦山ダム→風早峠→安戸→小川町駅（解散）17:00
		主な見学対象	1．間物沢沿いの蛇木ユニット　2．叶山鉱山 3．神流川沿いの住居附ユニット（削除）　4．浦山ダム沿いの変斑れい岩 5．風早峠ユニット　6．安戸の柏木ユニット
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（1泊2日）**
		定員 （最少催行人数）	22（18）
		案内者	久田健一郎（筑波大）・加藤潔（駒澤大）・松岡喜久次（埼玉県立川越女子高校）・関根一昭（埼玉県立秩父高校）・冨永紘平（筑波大）
		参加費	21,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「神ヶ原」，「両神山」，「秩父」，「皆野」，「鬼石」，「安戸」
		集合・解散	集合：13日　9:00（西武秩父駅）　　解散：14日　17:00（小川町駅）
		その他	参加費に昼食代は含まれない．昼食は近くの店舗で購入の予定．1日目秩父太平洋セメント（株）叶山鉱山を見学

F	吾妻渓谷地域の地質	略称	**＜吾妻渓谷＞**
		巡検コース	［1日目］JR吾妻線川原湯温泉駅（集合）12:30→吾妻渓谷遊歩道→久々戸沢→国立大学草津セミナーハウス（泊） ［2日目］国立大学草津セミナーハウス→殺生河原→応桑地区→林地区→川原畑地区→JR吾妻線川原湯温泉駅（解散）15:30
		主な見学対象	1．吾妻渓谷遊歩道ぞいの変質火山岩類および断裂　2．変質帯地盤 3．酸性熱水変質帯　4．前期更新世の火山岩類　5．岩屑なだれ堆積物の特徴
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（1泊2日）**
		定員 （最少催行人数）	20（15）
		案内者	中村庄八（前橋工科大）・中山俊雄（東京都）・藤本光一郎（東京学芸大）・方違重治（国土防災技術株式会社 関東支社）
		参加費	16,500円
		必要な地図 （1/2.5万）	「上野草津」，「長野原」，「大前」
		集合 解散	JR吾妻線川原湯温泉駅　集合：13日 12:30　　解散：14日　15:30
		その他	1日目昼食は集合前までに済ませておくこと．参加費に2日目昼食代を含む．
G	伊豆半島南部，新第三系白浜層群での浅海底火山活動	略称	**＜伊豆南部＞**
		巡検コース	［1日目］伊豆急下田駅（集合）10:45→須崎恵比寿島→田牛竜宮窟→あいあい岬→中木→リゾートイン　タケマル（泊） ［2日目］リゾートイン　タケマル→入間港→入間千畳敷→室岩洞→堂ヶ島→JR三島駅（解散）17:00
		主な見学対象	1．浅海性堆積物の堆積構造，水底土石流堆積物　2．自破砕溶岩，自破砕状貫入岩，柱状節理の発達した貫入岩体，未固結堆積物への貫入構造，砕屑岩脈 3．ペペライト，熱水変質　4．波曲構造　5．ジオパークビジターセンター
		日程	**9月13日（火）～14日（水）（1泊2日）**
		定員 （最少催行人数）	20（15）
		案内者	狩野謙一（静岡大）・伊藤谷生（帝京平成大）
		参加費	26,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「下田」，「神子元島」，「伊豆松崎」
		集合・解散	集合：13日　10:45（伊豆急下田駅）　　解散：14日　17:00（JR三島駅）
		その他	参加費に2日目昼食代を含む．1日目昼食は弁当持参．国立公園内および観光地のため，ハンマーの使用・岩石の採取は不可．見学地点は海岸部のため，天候（波浪を含む）によっては大幅なコース変更あり．
H	富士山山麓を巡る～火山地質から防災を考える～	略称	**＜富士山＞**
		巡検コース	［1日目］富士山駅（集合）8:30→新富士駅10:00→宝永火口→太郎坊→御殿場岩屑なだれ→アジア航測保養所「山中荘」（泊） ［2日目］アジア航測保養所「山中荘」→雁穴溶岩→精進湖（枕状溶岩）→蝙蝠穴（溶岩洞窟）→西の家（泊） ［3日目］西の家→田貫湖岩屑なだれ→風祭火砕流→富士川河口（水神溶岩）→新富士駅14:00→富士山駅（解散）15:30
		主な見学対象	1．宝永山火口　2．火山灰　3．溶岩洞窟　4．枕状溶岩等　5．岩屑なだれ 6．火砕流　7．遠方まで流れた溶岩
		日程	**9月13日（火）～15日（木）（2泊3日）**
		定員 （最少催行人数）	25（20）
		案内者	山元孝広（産総研）・吉本充宏（山梨富士山科研）・千葉達朗（アジア航測（株））・荒井健一（アジア航測（株））・細根清治（大和探査技術（株））
		参加費	32,500円
		必要な地図 （1/2.5万）	無し
		集合・解散	集合：13日　8:30（富士急 富士山駅）　10:00（JR新富士駅） 解散：15日　14:00（JR新富士駅）　15:30（富士急富士山駅）

H	**富士山山麓を巡る ～火山地質から防災を考える～**	その他	参加費に昼食代は含まれない．1日目昼食は弁当持参．2日目および3日目昼食は宿泊施設で手配予定．1日目夕は温泉施設「紅富士の湯」を利用予定（実費負担）．1日目は集合場所の富士山駅の後は新富士駅に立ち寄る．3日目は新富士駅に立ち寄った後に富士山駅にて解散.
I	**千葉市の昔の海岸線を歩く（教師向け巡検）**	略称	**＜教師向け巡検＞**
		巡検コース	JR稲毛海岸駅（集合）9:30→浅間神社→稲毛陸橋付近→稲毛公園→幕張2丁目付近→JR幕張駅（解散）15:00
		主な見学対象	1．浅間神社とクロマツ林　2．砂丘・砂州　3．旧汀線
		日程	**10月1日（土）日帰り［会期外実施］**
		定員 （最少催行人数）	教師15，一般15（合計で30）
		案内者	米澤正弘（千葉大）
		参加費	1,000円（保険代＋資料代）を現地で徴収．160円（京成稲毛～京成幕張）を自己負担.
		必要な地図 （1/2.5万）	「千葉西部」
		集合・解散	集合：9:30（JR稲毛海岸駅）　　解散：15:00（JR幕張駅）
		その他	**<u>※地質学会期間とは別日程（10/1）で実施．申込締切：9月16日（金）．申込は大会HP内専用申込サイトから．</u>**昼食は持参または近くの店舗で購入の予定.
J	**関東平野南部における上総層群のテフロクロノロジー**	略称	**＜上総層群＞**
		巡検コース	立川駅北口（集合）7:30→武蔵村山市→所沢市→立川市・日野市→八王子市→稲城市→東横線綱島駅（解散）17:00
		主な見学対象	1．狭山丘陵　2．多摩川河床・多摩丘陵
		日程	**9月9日（金）日帰り［プレ巡検］**
		定員 （最少催行人数）	25（20）
		案内者	鈴木毅彦（首都大）・白井正明（首都大）・福嶋　徹（むさしの化石塾）
		参加費	7,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「所沢」，「立川」，「八王子」，「武蔵府中」，「溝口」，「川崎」
		集合・解散	集合：7:30（立川駅北口）　　解散：17:00（東横線綱島駅）
		その他	**大会前日に開催（プレ巡検）．**昼食は首都大の生協などを利用予定.
K	**房総半島における関東地震の隆起・津波痕跡**	略称	**＜関東地震＞**
		巡検コース	東京駅（集合）8:30→館山駅→館山市見物海岸→館山市巴川河岸→南房総市千倉町→館山駅→東京駅（解散）18:00
		主な見学対象	1．関東地震隆起痕跡　2．津波堆積物露頭　3．完新世海岸段丘
		日程	**9月9日（金）日帰り ［プレ巡検］**
		定員 （最少催行人数）	25（20）
		案内者	宍倉正展（産総研）・鎌滝孝信（秋田大）
		参加費	8,000円
		必要な地図 （1/2.5万）	「館山」，「千倉」
		集合・解散	東京駅　集合：8:30　　解散：18:00
		その他	**大会前日に開催（プレ巡検）．**参加費に昼食代は含まれない．昼食は持参または近くの店舗で購入の予定．往路は集合場所の東京駅の後は館山駅に立ち寄る．帰路は館山駅に立ち寄った後に東京駅にて解散.

日本地質学会*News*

Vol.19 No.5 May 2016

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

第123年学術大会（2016東京・桜上水大会）予告
……（１）～（26）

ご案内 ……2
2016年度日本地球化学会第63回年会/第６回学生のヒマラヤ野外実習ツアー催

公募 ……2
海洋研究開発機構研究系職員公募/東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系地球科学系助教公募/神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻教員公募/広島大学大学院理学研究科教員（教授又は准教授）の公募/北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門地球惑星システム科学分野教員公募

CALENDAR ……4

地質学雑誌投稿編集出版規則の改正の背景（地質学雑誌編集委員会）
……5

Island Arc 日本語要旨（Vol. 25, Issue 3）……7

支部コーナー ……8
関東支部：清澄フィールドキャンプ参加者募集のお知らせ

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ ……8

院生コーナー ……9
NT16-02航海参加報告（冨松由希）

学会記事 ……11
2015年度第４回理事会議事録/2015年度第７回執行理事会議事録/2015年度第８回執行理事会議事録/2015年度第９回執行理事会議事録

訃報 ……17

入会申込書 ……18

表紙紹介：南アフリカ共和国のバーバートン緑色岩帯（約35億年前）

写真・文：**小宮　剛**（東京大学）

太古代の大気は二酸化炭素に富むため，熱水変成作用で，炭酸塩が大量に作られ，一方，海洋は還元的，弱酸性でシリカに富むため，それらの炭酸塩は分解され，大規模に珪化（SiO_2化）され，このように真っ白になってしまいます．珪化によって，リンを含め生命にとって重要な多くの元素が海洋に供給されます．

皆さんのデザインした記念ロゴで
125周年記念事業を盛り上げよう！

学会創立125周年記念ロゴ募集中

募集締切：2016年７月15日（金）17:00（郵送の場合は消印有効）

最優秀および優秀作品の作成者には表彰状と記念品を贈呈し，記念ロゴの原案となった最優秀作品作成者については，2018年５月の125周年記念式典にて顕彰します．詳しくは，ニュース誌4月号または学会ホームページをご覧下さい．

「県の石」発表！！

日本地質学会は，2016年５月10日「地質の日」に**全国47都道府県について，その県に特徴的に産出する，あるいは発見された岩石・鉱物・化石をそれぞれの「県の石」として選定いたしました．**学会ホームページに各「県の石」の写真付きの説明を掲載しています．また，次号ニュース誌でもご紹介予定です．

事務局営業カレンダー　お休み

5月 May

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月 June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

2016年度日本地球化学会 第63回年会

主催：日本地球化学会
共催：日本地質学会ほか
会期：2016年９月14日（水）～16日（金）
会場：大阪市立大学杉本キャンパス
内容：口頭発表およびポスター発表，夜間小集会，学会賞記念講演，総会，懇親会など．関連イベントとして，９月13日（火）にショートコースを開催します．
講演申込：６月13日（月）14時受付開始，７月14日（木）14時締切．
参加登録：６月13日（月）14時受付開始，８月19日（金）14時事前参加登録締切．以降は年会会場にて参加登録（当日料金）．
※各種申込は年会ウェブサイトから行っていただきます．詳細についてはホームページをご覧ください．
年会サイト：http://www.geochem.jp/conf/2016/

年会事務局：
〒464-8601　名古屋市千種区不老町D2-2（510）
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球化学講座内
2016年度日本地球化学会年会事務局
E-mail：2016LOC@geochem.jp

第６回学生のヒマラヤ野外実習ツアー

暫定日程：2017年３月４日（土）～３月18日（土）の15日間
コース：中西部ネパールヒマラヤの全断面で，ポカラを通る南北のルート
暫定参加費：学生は20万円以内，一般は25万円以内，公費派遣者：30万円以内
実施主体：ゴンドワナ地質環境研究所とネパール国立トリブバン大学トリチャンドラキャンパス地質学教室が共同で実施
参加申込み受付期間：2016年６月１日（水）～11月30日（水）
参加申込み先：ゴンドワナ地質環境研究所
吉田　勝
Tel & Fax：0736-36-7789／
E-mail：gondwana@oregano.ocn.ne.jp
学生のヒマラヤ野外実習プログラムHP：
http://www.geocities.jp/gondwanainst/geotours/Studentfieldex_index.htm

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

海洋研究開発機構 研究系職員公募

募集職種：研究員もしくは技術研究員　１名
募集対象部署：高知コア研究所　断層物性研究グループ
募集内容：海洋研究開発機構では，第３期中期計画を実施するにあたり，対象の研究分野に従事する任期制職員（研究員/技術研究員）を１名公募いたします．

業務内容：大陸・海洋プレートの物理化学的性状を調べ，プレート発散・収束境界での地震断層運動等の諸現象を解明することを目的に，地質学・岩石力学・地球物理学に基づく物質科学的研究を行う．また，IODP*等の掘削プロジェクトに積極的に参加し，掘削試料等の物質解析，物性計測を行うとともに，孔内検層，物理探査，モデリング等を専門とする研究者と共同して統合的研究を行う．
*IODP：国際深海科学掘削計画（http://www.jamstec.go.jp/iodp/j/）
関連する専門分野：地質学，岩石力学，地球物理学，地球掘削科学など

勤務地：国立研究開発法人海洋研究開発機構高知コア研究所（高知県南国市物部乙200）
募集人数：１名
雇用形態：任期制職員（定年制職員への移行審査資格有り）
雇用期間：平成28年10月１日～平成33年３月31日　１回の雇用期間を最長５事業年度とし，以降更新は行いません．
応募締切：平成28年６月８日（水）必着
※ただし，応募者数が想定する人数に満たない場合は，募集期間を延長することがあります．
お問い合わせ先：
国立研究開発法人海洋研究開発機構
人事部　人事第２課　担当　庵原
TEL 046-867-9415　FAX 046-867-9095
E-mail: jinji2@jamstec.go.jp
応募方法など詳しくは．
http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/kochi20160608.html

東京大学大学院総合文化研究科 広域システム科学系地球科学系 助教公募

募集人員：助教１名
所属：東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系宇宙地球部会
勤務場所：東京都目黒区駒場３-８-１（東京大学駒場Ｉキャンパス）
専門分野：惑星地球を対象とする地球科学研究分野
職務内容：
(1) 授業：教養学部前期課程（１・２年生）「惑星地球科学実習」の担当．他に，学際科学科（３年生）の野外実習の補助
(2) 院生指導補助，学内委員
着任時期：2016年10月以降で，決定後できるだけ早い時期
任期：着任から５年間
応募資格：(1) 博士号を有すること　(2)「惑星地球科学実習」の授業を担当できること　(3) ５年間を有効に利用し活発な研究活動をできること　(4) 本専攻や宇宙地球部会の教員と緊密に連携し，研究を推進させうること
問い合わせ先：
〒153-8902　目黒区駒場３-８-１
東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系宇宙地球部会
主任　磯崎行雄
電子メール　isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp
電話　03-5454-6608
応募書類の受付および締切：2016年６月10日（金）必着

応募書類や応募上の注意等，くわしくは下記を参照して下さい．
http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/news/employment/20160516114230.html

神戸大学大学院理学研究科 惑星学専攻教員公募

１．職名・募集人員：准教授１名
２．所属：惑星学専攻
参考　専攻ホームページ
http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/
３．専門分野：岩石学・鉱物学・火山学
４．職務内容：岩石学・鉱物学・火山学の分野において地球型惑星の進化に関する教育・研究を推進して頂きます．特に，平成27年10月に神戸大学が全学共同教育研究組織として設置した海洋底探査センターの構成員と連携して教育と研究を進め，惑星学の発展に貢献する意欲のある方を希望します．また，理学研究科惑星学専攻ならびに理学部惑星学科における教育に従事し，全学共通科目を担当して頂きます．
５．応募条件：博士の学位取得者

6．着任時期：できる限り早い時期
7．提出書類：
(1) 履歴書（e-mailアドレスを連絡先として明記のこと）
(2) 研究業績目録（査読付原著論文とそれ以外に区別すること，下記（7）の主要論文に○印を付けて下さい．）
(3) 各種研究費獲得歴，受賞歴
(4) これまでの研究経過・業績の内容（2,000 字程度）
(5) 将来の研究構想および教育に対する抱負（2,000 字程度）
(6) 応募者について意見が伺える方２名の氏名とe-mailアドレス
(7) 主要論文（５編以内）の別刷またはコピー
8．選考の過程でセミナーをお願いすることがあります．
9．応募締切：2016年６月30日（木）必着
10．応募書類提出先：上記書類は（7）を含め電子ファイル（PDF）として電子メールで（1）～（6）と（7）に分割してお送り下さい．電子メールのヘッダ（To，Subject）はTo：application2016-1@people.kobe-u.ac.jp　Subject：岩石学・鉱物学・火山学教員応募として下さい．選考終了後，個人情報は責任を持って破棄します．
11．問い合わせ先：
惑星学専攻長　島　伸和（e-mail：fsci-pla-director@edu.kobe-u.ac.jp）

広島大学大学院理学研究科教員（教授又は准教授）公募

1．所属：広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻地球惑星システム学講座
2．職名・人員：教授 又は 准教授　１名
※希望の職種を履歴書の上部に朱書きすること．
3．採用予定年月日：平成28年10月１日以降できるだけ早い時期
4．専門分野：地球惑星システム学における生命の誕生と進化に関連した分野
5．担当科目：
学部：地球惑星システム学関連科目等
教養教育科目：地球惑星システム学関連科目等
大学院（博士課程前期）：地球惑星システム学関連科目等
大学院（博士課程後期）：地球惑星システム学関連科目等
6．応募資格：次の要件を全て満たす者
(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む．）を有し，当該分野で研究業績があり，担当科目の教育に十分な知識をもつ方．(2) 博士課程前期・博士課程後期の論文指導を担当できること．(3) 外国で通算１年以上の研究歴があり，かつ英語で授業ができる方が望ましい．
7．提出書類：
(1) 履歴書（市販様式を使用，写真貼付）※過去５年間に広島大学で雇用（TA，RA，研究員等を含む）されたことがある場合は，漏らさず記載してください．(2) 研究業績一覧（欧文・邦文および査読あり・なしで４種類に区別して，それぞれ番号付けし，主要研究論文５本には番号の冒頭に＊印を付けること．）(3) 主要な研究業績５本（別刷又はコピー）(4) 特許等とその内容 (5) 教育上の主要な実績 (6) 社会貢献に関わる主要な実績 (7) 大学等における管理運営に関わる主要な実績 (8) 最近10年間における外部資金の獲得状況 (9) 着任後の研究・教育に対する抱負と計画（2,000字～3,000字）(10) 本人の業績についての照会先（２名）の氏名とその連絡先
8．応募期限：2016年６月30日（木）必着
9．応募書類送付先：
〒739-8526　東広島市鏡山１-３-１
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻長　片山郁夫
※封筒に「地球惑星システム学専攻　教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留郵便で送付してください．
14．問い合わせ先：
〒739-8526　東広島市鏡山１-３-１
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻長　片山郁夫
TEL：082-424-7468（研究室），FAX：082-424-0735
e-mail：katayama@hiroshima-u.ac.jp

北海道大学大学院理学研究院地球惑星科学部門地球惑星システム科学分野教員公募

職種・人員・専攻分野：地球惑星科学部門地球惑星システム科学分野　助教１名
専攻分野：地球惑星物質学（鉱物学・結晶学に基づいた実験的研究を専門とする方）
備考：任期５年，ただし審査に合格した者は１回（５年）を限度として再任可．なお，再任後の任期終了時に行われる業績審査に合格すれば，その後は任期の定めのない助教となることができます．就業条件については本学の定める就業規則に基づきます．
（http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG00000447.html）

応募資格：博士号を取得していること．本分野の教員と協力して教育研究をしていただける方．全学教育（初年次教育）および地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育を担当出来る方．

着任予定時期：採用決定後，できるだけ早い時期

応募書類：
イ）履歴書（内外の学会活動，受賞歴，参加しているプロジェクト研究歴，各種研究費受領歴なども記載すること．また，平成25年４月１日以降，北海道大学に在職経験（非常勤講師，TA，RA，短期支援員等すべての職種を含む．）のある者は，当該職歴を漏れなく記載すること．）
ロ）これまでの研究経過（2,000 字程度）
ハ）研究業績目録（和文のものは和文で表記すること）
A．査読のある原著論文
B．査読のない論文，総説など
C．著書
D．解説，報告などその他の出版物で特に参考になるもの
ニ）主な原著論文の別刷５篇以内（複写可）
ホ）今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）
へ）応募者について照会が可能な方２名の氏名と連絡先（電話番号，電子メールアドレス）

応募締切：2016年８月１日（月）必着

書類の送付先及び問い合わせ先
〒060-0810　札幌市北区北10条西８丁目
北海道大学大学院理学研究院
地球惑星システム科学分野
圦本尚義
電話：011-706-9173　　FAX：011-746-0394
電子メール：yuri@ep.sci.hokudai.ac.jp

CALENDAR

2016. 5 ～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2016年

5月　May

○第15回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会
日本地質学会環境地質部会　共催
5月5日（木）～8日（日）
場所：関東ベースンセンター
http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm

第172回深田研談話会（現地）
地質技術者のための露頭写真の撮り方：箱根火山岩類を対象に
5月14日（土）10:00～17:00
講師：白尾元理（写真家）
http://www.fgi.or.jp/?p=3296

（共）第一回台日地質学会総合学術研討会
1st Joint Symposium of Taiwan and Japan Geological Societies in Taiwan
Geosciences Assembly (TGA)
5月18日（水）
場所：台湾台北市南港展覧館
http://cgu-tga.org.tw/index.asp

★一般社団法人日本地質学会第8回（2016年度）代議員総会
5月21日（土）14:15～15:15
会場　北とぴあ 第2研修室（東京都北区王子）

○日本地球惑星連合2016年大会
5月22日（日）～26日（木）
会場：幕張メッセ　国際会議場
http://www.jpgu.org/meeting_2016/index.htm

○第186回地質汚染イブニングセミナー
日本地質学会環境地質部会 共催
5月27日（金）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
テーマ：福島第一事故炉の燃料デブリの臨界性について
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

6月　June

○地質学史懇話会
6月19日（日）13:30～17:00
場所：北とぴあ8階805号室
吉岡有文：日本の科学教育映画の世界：太田仁吉と科学教育映画の曙
宇井忠英：日本列島の火山活動は活発化しているのか？

○第187回地質汚染イブニングセミナー
日本地質学会環境地質部会　共催
6月24日（金）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
テーマ：コンクリートを診断する
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

（共）Goldschmidt2016
6月26日（日）～7月1日（金）
会場：パシフィコ横浜
http://goldschmidt.info/2016/index

7月　July

（共）第53回アイソトープ・放射線研究発表会
7月6日（水）～8日（金）
http://www.jrias.or.jp/

○国際シンポジウム 地殻ダイナミクス2016
異なる時空間スケールにおける地殻ダイナミクス過程の統合的理解
7月19日～22日（19日：巡検）
場所：高山市民文化会館
http://cd.dpri.kyoto-u.ac.jp/iscd2016/index. htm

○第188回地質汚染イブニングセミナー
日本地質学会環境地質部会 共催
7月29日（金）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
テーマ：社会福祉と環境（仮）
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

8月　August

○IGCP608第4回国際シンポジウム
8月15日（月）～17日（水）
開催場所：ロシア・ノボシビルスク
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

○第70回地学団体研究会総会（小川町）
8月19日（金）～21日（日）
場所：埼玉県小川町 リリックおがわ
http://www.chidanken.jp/index.html

○第1回防災推進国民大会
主催：内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議
8月27日（土）～28日（日）
場所：東京大学本郷キャンパス（安田講堂，小柴ホール等）
http://bosai-kokutai.jp/

○第35回万国地質学会議
8月27日（土）～9月4日（日）
会場：南アフリカ共和国ケープタウン，国際コンベンションセンター
http://www.35igc.org/

9月　September

★日本地質学会第123年学術大会（東京・桜上水大会）
9月10日（土）～12日（月）
会場：日本大学桜上水キャンパス（東京都世田谷区）
演題登録・要旨受付期間：5月下旬～6月29日（水）

○第33回歴史地震研究会（大槌大会）
9月11日（日）～13日（火）
会場：大槌町中央公民館（岩手県上閉伊郡大槌町小鎚）
（注）開催地が被災地であることを考慮し，変則的な内容となっています．それに伴い，参加申込方法も例年とは異なります．
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

（共）2016年度日本地球化学会第63回年会
9月14日（水）～16日（金）
会場：大阪市立大学杉本キャンパス
講演申込締切：7月14日（木）14時
参加申込締切：8月19日（金）14時
http://www.geochem.jp/conf/2016/

（共）第60回粘土科学討論会
9月15日（木）～17日（土）
会場：九州大学医系キャンパス
講演申込：6月13日（月）～24日（金）
http://www.cssj2.org/

10月　October

○Techno-Ocean 2016
10月6日（木）～8日（土）
場所：神戸コンベンションセンター
URL: http://techno-ocean2016.jp/jp/

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第5回国際シンポジウム
10月27日（木）～28日（金）
プレ巡検：10月25日（火）～26日（水）
ポスト巡検：10月29日（土）～11月2日（水）
場所：Hlaing大学（ミャンマー，ヤンゴン市）
http://igcp589.cags.ac.cn/

地質学雑誌投稿編集出版規則の改正の背景

地質学雑誌編集委員会

はじめに

本年４月の理事会で『地質学雑誌投稿編集出版規則』の改正が決まりました．具体的なことは同規則をご覧いただくとして，ここではこの改正の背景について解説します．今回の改正の目的は２つあります．すなわち，研究不正への対処と，博士論文の全文が大学のリポジトリを通じてオンライン公開されるようになったことへの対処です．前者は，会員諸氏にとって投稿しにくくなる方向の改正ではありますが，時代の流れから，不可避の措置でした．後者は，オンライン公開された学位論文の内容でも，『地質学雑誌』に投稿していただけるようにするためです．

研究不正防止

研究不正としてSTAP細胞の論文がマスコミで大々的に取り上げられたことは，記憶に新しいことと思います．しかしはるかそれ以前から，重大な研究不正はたびたび発生していました（ブロード・ウェイド，2014）．この問題はたびたび国際会議でも取り上げられ，学界として真剣に取り組むことが求められていました．その背景には，科学が社会に重大な影響を与えるようになったことがあります．数世紀前に制度としての科学が始まってから近年まで，研究者コミュニティという仲間内での評価こそが，研究および研究者の評価基準であり，研究者は世間から隔てられた世界で暮らすことができました．しかし，莫大な予算が科学研究に投入されるようになり，また，科学の影響力が社会を破壊しかねないほど大きくなってしまったことにより，研究者はコミュニティの外部の社会に気を配り，責任ある行動をとらなくてはならなくなったわけです（村上，1994）．社会に大きな影響を与えるのは，核技術や遺伝子操作ばかりではありません．我々の分野も原子力や気候変動について，政治的な議論と関わりを持つわけですから，こうした変化の埒外に止まることはできません．

こうした流れは，STAP騒動から始まったわけではありません．すでに日本学術会議は2006年に『科学者の行動規範』という声明を出し，2013年に改訂しています［URL１］．2010年の「研究公正に関するシンガポール宣言」や2011年の「研究公正に関する欧州行動規範」では，公正な研究のために，投稿論文のあり方も取り上げられました［URL２，URL３］．また，文科省からの審議依頼への回答として，日本学術会議は2015年３月に『科学研究における健全性の向上について』を公開しましたが［URL４］，そのなかにも投稿論文のあり方やオーサーシップ（共同研究者のうちどんな人を共著者とすべきか）についても規定があります．例えば，当該論文の研究に本質的な寄与をしていない人を共著者に加えることは，ギフトオーサーシップとして禁じられています．また，何を本質的な寄与とするかも記されています．科研費の執行にあたっては，学術振興会がまとめた『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』の遵守を，研究者が誓約するようになりました［URL３］．さらにまた，公正な研究および研究不正について，教員は各大学院生に指導することになりました．研究不正の問題では，研究者の側が，研究の公正さの証拠を保持しなければなりません．そこでは，論文の証拠物件（フィールドノート，ラボノート，サンプルなど）の保管も求められています．不正の疑いがかけられたなら，被告の側が証拠を提示しなければならないわけです．

わずか２数年ほどのうちに，研究者たる者，こうしたルールを了解していることが当然とされるようになりました．大学や研究機関に属する研究者にはそれが周知されていますが，それらの組織から離れた会員の皆さんも，研究し，またその成果を発表する際には，公正さを主張できるよう，それらの文書［URL４，URL５］に目を通すことを強くお勧めします．

それらの文書に先立ち，1979年から何度も『生医学雑誌への投稿のための統一規定』が改訂されてきました．生物医学系には他分野にくらべて桁違いに多額の投資がなされています．それだけに研究者数が膨大で，また，研究成果が富に直結するだけに，それらの分野は不正防止に長いあいだ取り組んできました（山崎，2013）．その一つの成果が統一投稿規定で，何が公正なオーサーシップかなどが記されています．昨今は，それらの分野が他分野を引っ張っている状況にあります．日本学術会議の文書も，この統一規定と整合的です．この統一規定の日本語版はインターネットで見られますので，一度目を通すことをお勧めします．

さて，文科省から各学協会に昨年，分野の実情に応じて公正なオーサーシップを定義し，公表するようにとの通達がありました．今回の改正の第一の目的は，これに対応することでした．日本学術会議の文書［URL４］のなかには，その回答例が含まれています．地質学雑誌の規則についての今回の改正では．この文書を下敷きにしました．規則の冒頭，「A．投稿原稿の要件」というセクションの「１．本誌への投稿原稿で著者として記載されるためには，次の①～③の要件をすべて満たすことを要する」のところがオーサーシップについて述べたところです．また，それとの整合性のため，ほかの箇所にも若干の変更を加えました．また，それにあわせて，受理までに著者に提出していただく『保証書』と『著作権譲渡等同意書』も改正しました．当該研究に貢献はしているが，上記の条件を満たさない方については，謝辞で言及していただくことになります．

投稿原稿の主著者になる方には，共著者の皆さんのご意見を容れて，完成度の高い原稿を作成するようお願いします．共著者の皆さんには，投稿原稿を読んで建設的なコメントを主著者に寄せることをお願いします．共著者の皆さんが原稿を読んで内容を了解していることは，著者として誓約すべきこととして，改正された『保証書』に記されております．

リポジトリで公開された学位論文

大学の情報発信強化策の一つとして，大学のリポジトリに学位論文を収録し，インターネット公開するよう，文科省が求めるようになりました［URL６］．今のところ対応はまちまちで，全文を公開する大学もあり，また，梗概だけを公開する大学もあります．投稿規則が従来のままでは，オーサーシップや著作権とも絡み，学位論文の研究成果を『地質学雑誌』に投稿できないのではないかという問題がありました．上記のオーサーシップに関する規則改正は，この点も解決することを考慮しています．改正された規則の「A．投稿原稿の要件」というセクションの「２．投稿原稿は，次の各号をいずれも満たす必要がある．」のところが，リポジトリで公開された学位論文に関する規定です．そうした論文の投稿を考えておられる場合，この部分の条件を満たすことをご確認ください．

謝辞

今回の改正は，著作権などの法律にも関わることでしたので，地質学会法務委員会に改正案を検討していただきました．記して感謝の意を表します．

文献

ブロード・ウェイド，牧野賢治訳，2014，背信の科学者たち：論文捏造はなぜ繰り返されるのか？講談社，353p.

村上陽一郎，1994．科学者とは何か．新潮社，186p.
山崎茂明，2013，科学者の発表倫理：不正のない論文発表を考える，丸善出版，152p.

［URL 1］ 日本学術会議，声明「科学者の行動規範」，http://www.scj. go.jp/ja/scj/kihan/index.html.
［URL 2］ World Conference on Research Integrity,「研究公正に関するシンガポール宣言（Singapore Statement on Research Integrity)」，http://www.singaporestatement.org/Translations/SS_Japanese.pdf.
［URL 3］ Euroean Federation of Adademics of Sciences and Humanities, The European Code of Conduct on Research Integrity, http://www.allea.org/Content/ALLEA/Themes/Scientific%20Integrity/Code_Conduct_Research_Integrity.pdf.
［URL 4］ 日本学術会議，回答「科学研究における健全性の向上について」，http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf.
［URL 5］ 日本学術振興会,「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」，https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html.
［URL 6］ 科学技術・学術審議会，学術分科会 研究環境基盤部会，学術情報基盤作業部会,「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」，http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/08/02/1323890_1_1.pdf.

Islands Arcは，2016年より隔月出版となりました．最新号のVol. 25 Issue 3が2016年５月に発行されました．学会ホームページから会員ログインすると全文がオンラインで無料閲覧できます．是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

Vol. 25 Issue 3（May）

［Thematic Articles］

特集号：Virtual special issue: Understanding of the largest oceanic core complex on the Earth, Godzilla Megamullion
Guest Editor: Katsuyoshi Michibayashi and Jonathan E. Snow

1. The Godzilla Megamullion, the largest oceanic core complex on the Earth: a historical review
Yasuhiko Ohara

ゴジラメガムリオン，地球上最大の海洋コアコンプレックス：その研究史
小原泰彦
地球上最大の海洋コアコンプレックスであるゴジラメガムリオンは，フィリピン海パレスベラ海盆に存在する．本総説では，ゴジラメガムリオンの研究史を，(1) 日本政府の大陸棚調査以前のパレスベラ海盆調査，(2) ゴジラメガムリオンを発見した大陸棚調査，(3) 発見後の学術調査，の３つのフェーズに分け総括した．大陸棚調査以前のパレスベラ海盆調査には，Harry Hessによる第２次世界大戦以前の米軍によるフィリピン海の海図の解釈が含まれる．今日のパレスベラ海盆の理解と，ゴジラメガムリオンの発見は，マルチビーム測深が駆使された1990年代後半の日本政府の大陸棚調査によってなされた．発見後の学術調査では，網羅的なドレッジ調査や潜水船による調査がなされ，ゴジラメガムリオンには斜長石かんらん岩が大量に存在することや，ゴジラメガムリオンを形成したデタッチメント断層の露出速度が2.5 cm/yであったことなど，重要な特徴が明らかになった．

Key Words : ゴジラメガムリオン，パレスベラ海盆，フィリピン海，海洋コアコンプレックス

2. The effect of a hydrous phase on P-wave velocity anisotropy within a detachment shear zone in the slow-spreading oceanic crust: A case study from the Godzilla Megamullion, Philippine Sea
Katsuyoshi Michibayashi, Tohru Watanabe4, Yumiko Harigane andYasuhiko Ohara

低速拡大海洋地殻のデタッチメント剪断帯のP波速度異方性に対する含水鉱物の効果～フィリピン海ゴジラメガムリオンを例として～
道林克禎・渡邊了・針金由美子・小原泰彦
フィリピン海パレスベラ海盆のゴジラメガムリオンから採取されたハンレイ岩質マイロナイトは主に斜長石・単斜輝石・角閃石から構成されており，その微細構造から３種類に区別される．本研究では，これら３鉱物の結晶方位ファブリックを元にP波速度を計算して３種類の微細構造との関係性を調べた．その結果，特に単斜輝石を置換して形成された角閃石の形状と結晶方位がマイロナイト全体のP波速度異方性に大きな影響を与えることがわかった．このことは，海洋地殻への流体付加によって２次的に生成される含水鉱物がデタッチメント剪断運動によって変形微細構造を発達させるとP波速度異方性を強める可能性を示唆している．

Key Words : 玄武岩，角閃石，P波速度異方性

3. New insights on the origin of troctolites from the breakaway area of the Godzilla Megamullion (Parece Vela back-arc basin): The role of melt-mantle interaction on the composition of the lower crust
Alessio Sanfilippo, Henry J. B. Dick, Yasuhiko Ohara andMassimo Tiepolo

ゴジラメガムリオン（パレスベラ背弧海盆）のブレークアウェイに産するトロクトライトの成因に関する新しい考察：メルト・マントル反応の下部地殻組成へ与える役割
Alessio Sanfilippo，Henry J.B. Dick，小原泰彦，Massimo Tiepolo
本研究では，パレスベラ背弧海盆のゴジラメガムリオンのブレークアウェイに産する，トロクトライトとかんらん石はんれい岩の単斜輝石と斜長石の微量元素組成を検討した．岩石の組織や単斜輝石と斜長石の主要元素組成からも示されるように，これらの岩石は分別結晶作用で形成されたものではなく，メルト・マントル反応で形成されたと考えられる．本研究で検討した斜長石のアノーサイト成分と単斜輝石のMg#のトレンドは，他の中央海嶺系のはんれい岩類が示すトレンドに比べ非常に急角度である．この急角度なトレンドは，１℃の温度低下につき１gのマントルかんらん岩が同化したメルトの分化によって説明できる．このプロセスでは，単純な分別結晶作用で形成されるよりもNaに富んだメルトが形成され，アノーサイト成分の少ない分化したはんれい岩がゴジラメガムリオンに多く産することと調和的である．

Key Words : ゴジラメガムリオン，メルト・岩石反応，かんらん岩，トロクトライト

［Research Article］

4. Pertrogenesis and tectonic implications of the late Jurassic basic rocks from the northern Shi-Hang zone, SE China
Qing Zhou, Yao-hui Jiang, Shi-yong Liao, Peng Zhao, Ru-ya Jia, Zheng Liu, Guo-chang Wang, Chun-yu Ni

中国南東部，北部Shi-Hang帯の後期ジュラ紀塩基性岩類の岩石成因論とテクトニクス
中国南部の後期中生界の復元に関する論争は，２つの学派に分けられる：受動的大陸縁辺部に沿った大陸内リフト帯か，あるいは古太平洋プレートの沈み込みに伴う活動的なリフティン

グである．本論では徳興市（Dexing）斑岩銅鉱に貫入する３つの塩基性岩脈のSHRINPによる新たなジルコンのU-Pb年代と地球化学的データを提示する．本斑岩銅鉱は中国東部では最大規模であり，中生代火成活動に伴う大規模鉱化作用の一部をなす．U-Pb年代は平均153.5 ± 2.4 Maであり，岩脈貫入は後期ジュラ紀に起きたことを示す．岩脈の全岩εNd（t）は約+0.7，ジルコンのεHf（t）は+1.54～+6.92である．比較的LREEに富み，HFSEに枯渇した組成，顕著なTa-Nb，Hf-Zr，Tiの負異常から岩脈の起源マントルは沈み込み成分に汚染されたリソスフェアと考えられる．Hf同位体組成の変動はある程度の地殻の混染を示す．これらのデータは後期ジュラ紀ないしそれ以前の古太平洋プレートの西方沈み込みに伴う背弧拡大または島弧内リフティングを含むシナリオを支持する．

Key Words：南部中国，塩基性岩，U-Pb年代測定，Nd-Hf同位体，マントルリソスフェア

支部コーナー

☆関東支部

お知らせ

清澄フィールドキャンプ　参加者募集のお知らせ

関東支部はフィールド教育の継承・発展のため，昨年度に引き続き京都大学理学部地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室のご支援を受け，フィールド・キャンプを実施します．実習フィールドは東京大学千葉演習林（清澄）内の七里川ならびにその支流ですが，地質調査の基礎的な訓練を行うには第１級のエリアです．京都大学が行う清澄山実習と同時期，同じカリキュラムで実施しますので教育効果が高まります．　大学関係者の方，学生・院生諸君の参加につきましてご高配を賜りますようお願いいたします（若手限定とさせて頂きます）．昨年の実施報告は，支部HPに掲載しております．

不明な点は，日本地質学会関東支部（kanto@geosociety.jp）までお寄せください．興味のある学生・院生諸君の積極的な応募を期待しています．

主催：日本地質学会関東支部
期間：2016年８月29日（月）～９月４日（日）＊６泊７日
場所：東京大学千葉演習林（〒299-5505　千葉県鴨川市清澄）
費用：40,000円を予定（宿泊・食事・保険・レンタカー代込）

応募締切日：７月８日（金）（＊応募書類は所定のフォーマットを使用のこと）
応募書類や日程，持ち物など詳しくは，支部ＨＰ（http://kanto.geosociety.jp）をご参照ください．

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ

本年４月に発生し熊本地震ならびに関連する災害により被害を受けられた皆様に，心よりお見舞い申し上げます．

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，申請により会費を免除いたします．「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2016年度（平成28年度）もしくは2017年度（平成29年度）会費を免除いたします．　適用を希望される会員は，１．会員氏名，２．被災地，３．被災状況（簡潔に）を添えて学会事務局にお申し出下さい（郵送，FAX，e-mail，電話のいずれでも可）．**締切は，2016年10月31日（月）まで**といたします．

※通常の会費払い込みについては，「2016年会費払い込みについて」（ニュース誌１月号または学会HP）をご参照下さい．
※学術大会（2016東京・桜上水大会）の参加登録費については，別途免除措置がありますので，大会予告記事をご確認ください．

2016年５月

一般社団法人　日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２-８-15井桁ビル
Tel. 03-5823-1150，Fax. 03-5823-1150
e-mail　main@geosociety.jp

NT16-02航海参加報告

熊本大学大学院 自然科学研究科
理学専攻 地球環境科学講座
修士２年　冨松由希

NT16-02航海について

2016年１月11日から18日までの８日間にわたって，中部沖縄トラフにて海洋調査船「なつしま」および無人探査機「ハイパードルフィン3000（HPD3000）」（以下，HPD）による調査航海が実施された．近年，海底熱水鉱床は新しい鉱物資源（Cu-Pb-Zn±Au±Ag）になり得るとして注目されており，その養殖が実現可能であるかどうかを調べるために，様々な調査が行われている．この調査航海の１ヶ月後に発表されたNozaki et al.（2016, Scientific Reports）では，人工熱水噴出孔の直上に形成した硫化物チムニーが，有用金属元素を高濃度で含んでいることが明らかになった．このチムニーは，陸上に存在する黒鉱鉱床の高品位鉱石に匹敵する品位を有することがわかっており，人工熱水噴出孔を利用した硫化物チムニー養殖計画のさらなる発展が期待されている．NT16-02航海では，黒鉱養殖装置の回収に向けた各種油圧機器や係留系の深海底における現場試験が主な作業であり，岩石などのサンプリングを全く行わない，今までにない新しいオペレーションとなった．

海洋調査船「なつしま」は，1981年に有人探査機「しんかい2000」の母船として就航し，2002年よりHPDの母船として新たに改造され活躍してきた．このNT16-02航海は，海洋研究の最前線で35年間運航されてきた「なつしま」にとっての最後の調査航海でもあった．筆者は，本調査航海の首席研究員であるJAMSTEC野崎達生研究員の紹介で，人生初めての調査航海に研究生として参加することとなり，研究者チーム・HPD運航チーム・そして船員の皆さんは筆者を暖かく迎え入れてくださった．そして「なつしま」との最初で最後の調査航海が始まった．

厳しい海況

１月11日に那覇新港を出航した「なつしま」であったが，海況は芳しくなく数日にわたり荒天が予想されたため，13日の午後まで中城湾にて避船することとなった．当初の予定では４回の潜航調査が予定されていたのだが，その後の海況も悪く，残る潜航チャンスは15日のみとなった．この悪い海況のせいで船酔いしている研究者の方もいたが，筆者は幼少期から漁船に乗った経験があったからか，船酔いをすることはなかった．

13日の午前中には機関部の方々のご厚意により，エンジンルームの見学をさせていただいた．エンジンルーム内には轟音が響いているため，耳栓をしながら作業をするのが当たり前らしい．汚水処理装置や，雑用清水という海水を沸騰させることによってできた蒸留水を作る機械なども拝見した．雑用清水を製造する機械はとても高価らしく，同じ水の量であれば飲料水を買ったほうが断然安いという話を聞いて，船上生活における水資源の大切さを感じた．

船上生活

海上では通信の電波がほとんど入らず，俗世との関わりが絶たれてしまうため，暇をつぶすのがなかなか難しい．そこで研究者チームでは，船酔い対策やダイエットも兼ねてヨガが流行した．船上の料理は非常においしいく，毎日献立が変わるため１日の中でご飯の時が一番楽しみといっても過言ではなかった．そして出てくる料理の量も多いので，毎日完食しているとすぐ体重が増えてしまうのである．そこで研究者チームのJAMSTEC松井洋平特任技術主任が指導者となって，腹式呼吸のやり方から，スクワットのやり方，様々なヨガのポーズなどを教えていただいた． 1時間から1時間半ほどヨガを行い，クタクタになって床に寝転ぶと，エンジンルームからさざ波のようなエンジン音が聞こえてきて非常に心地よかったことが印象に残っている．

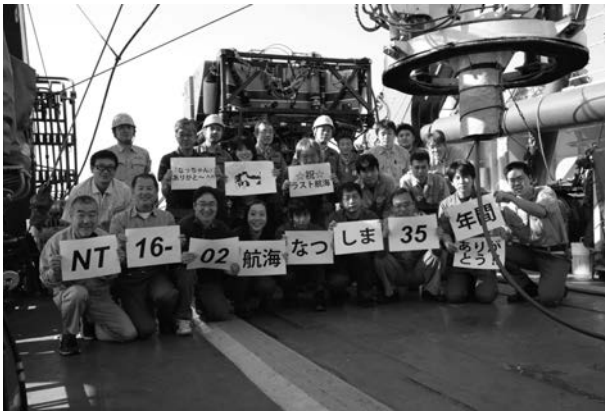


写真１：HPD前での集合写真．

潜航調査

15日の天気は朝から良好で，その日は「なつしま」乗組員の方に混じってラジオ体操を行った．その後HPDを海中に降ろすための船上装置の動作確認作業，およびHPDに搭載する油圧機器の作動確認が行われ，潜航調査が開始された．

研究者チームはHPDチームと共にHPDコントロールルームに入った．コントロールルームには6つの大きなモニターが並び，HPDに搭載されている複数のカメラからの映像が映し出されていた．まるで宇宙船のコクピットのような空間であった．HPDチームはこれらの映像を見ながらHPD本体とマニピュレーター，いわゆるロボットアームを操作する．筆者らはHPDに搭載されているカメラの画像を撮影し，潜航調査のログ付けや写真撮影を行った．

着底までは約50分を要し，その後人工熱水孔（Hole C0014G）での作業が開始された．午前中の潜航では，熱水の温度計測と，油圧ドリルを用いて人工熱水孔の詰まり（スケール）を除去する作業が行われた．噴き出す熱水の温度はおよそ300度に達するが，詰まりによる影響によって，この熱水孔から噴き出す熱水の温度は138度（Tmax）であった．人工熱水孔はふわふわした白い堆積物が表面を覆っていたが，その下には非常に硬い硫化物鉱石が詰まっていた．油圧ドリルは設置することができ正常に作動したが，ドリル作動中に配管から油が噴き出し，ドリルに油圧を供給するユニット（IHPU）からも油が漏れ出した結果，ユニットの基盤回路が浸水・破損した．残念な結果となってしまったが，この結果も今後のオペレーションのための貴重なデータであると，研究者たちは前向きな姿勢であった．

午後からは，HPDに搭載するペイロードを温度計，油圧ドリルと簡易流量測定装置に入れかえ，2回目の潜航が行われた． 1回目の潜航でドリルによるスケール除去作業が不十分であったので，この潜航では油圧タガネを用いてしつこく掘り続けた．それによって熱水の温度は270度（Tmax）へ上昇し，詰まりはほぼ

写真２：打ち上げ時の集合写真.

解消した．その後簡易流量測定装置の設置を試みたが，簡易流量計は，高さが83 cm，水中重量も61 kgある大型機器のうえに重量バランスが悪かったため，約２時間設置作業を試みていただいたが，設置には至らず断念した．筆者は陸上の岩石を対象に研究を行っているが，深海底のような人間がたどり着けない場所で機械を使って行われる調査の難しさを痛感した．しかし未開拓の分野だからこそ，多くの可能性が秘められた魅力的な研究であると感じた．

HPDマニュピレーター講習会（書き初め大会）

HPD本体及びマニュピレーター操作の難しさを痛感した15日の夜，研究者チームのJAMSTEC正木裕香研究技術専任スタッフとHPDチームの近藤友栄運航長と話をする機会があった．その時に実際にマニュピレーター操作を研究者チームが体験することで，今後のHPDに搭載する機械などの開発や設計に役立つのではないかという話になった．また10年前にHPDのマニピュレーターを操作して書き初めをした話にもなり，近藤運航長のご厚意によって次の日の16日にマニュピレーター講習会という名の書き初め大会が開かれることとなった．研究者に対し，このような講習会を行うことは滅多にないそうで，初めての調査航海でこんな体験ができるのは本当にラッキーだそうだ．

写真３：筆者によるハイパードルフィンのイラスト.

16日は朝から油圧機器などの解体，洗浄及び片付け作業を行った．その後HPDの前で記念撮影をし（写真１），昼から書き初め大会が行われた．一部片付けが残っており，参加できない研究者もいたが筆者を含め６名が参加した．マニュピレーターのコントローラーは棒状で，関節がマニュピレーターと同じ数だけ付いており，動かした通りにアームが動くのだが，なかなか操作が難しい．またHPDに搭載されているカメラからの映像だけで，距離感と奥行きを判断しなければならない．操作は簡単なので，チームの人たちからの説明もシンプルで，すぐに書き初めが始まった．書き初めは古い海図を裏紙にしてペンキと刷毛で描くことになった．古い海図というのがまた粋である．書き初めで書く文字だが，今回のオペレーションで印象深かった「油」という漢字を６名で１画ずつ書くことになった．筆者は３画目を担当することになったが，映像だけでは距離感も奥行きもわからず，また地面から水平にアームを動かすのも非常に難しかったため，感覚を掴むのに時間がかかった．ほとんどの人が地面から水平に刷毛を動かすことができず，刷毛が折れたり，紙が破れたりしていたが，出来上がった「油」の文字はこれまでの努力や苦悩が垣間見える味のある作品となった．その後HPDチームの木戸哲平二潜技士が書き初めをすることになった．木戸さんは文字を書くのもスムーズで，普通に人が書くのと変わらないほど正確な文字を書き綴った．木戸さんが書いたのは「ありがとうNT（なつしま）」という７文字で，書き終わった瞬間コントロールルームには自然と拍手が起こった．筆者らも，そして甲板で書き初めを見ていた人たちもみんなが嬉しそうな顔をしていたのが印象に残っている．貴重な機会を与えてくださった運航長ならびにHPDチームの方々に心から感謝申し上げたい．

次の日の夕方，「なつしま」は無事下関港に着岸し，「なつしま」最後の調査航海は終了した．その夜行われた打ち上げ（写真２）で，筆者はHPDチームの皆さんにHPDのイラストを描いてプレゼントした（写真３）．HPDは本調査航海で使用された温度計と油圧タガネを持たせた（密かにIHPUは油漏れしている）．キャラクターは既存のものであるが，チームの皆さんや船員さんはとても感心してくださった．このイラストを見て，本調査航海に参加した方たちが筆者のことを思い出していただけたら幸いである．

おわりに

海況は厳しかったが，無事８日間の調査航海を終えることができた．筆者の研究は陸上の鉱床を対象にしているため，本調査航海は現世の鉱床について知識不足な筆者にとって大変有意義なものであった．また多くの研究者の方やHPDチームの方，船員の方々と交流できたことで，自分の知らなかった分野に触れられたことを本当に嬉しく思う．俗世との関わりを絶たれた船上の非日常的な生活は，いい意味で自分をリセットでき，新たに自分の研究に取り組む意欲へと繋がった．いつの日か筆者もこのような調査航海に首席研究員として参加できるよう，勉強を怠らず日々努力を重ねていこうと思う．最後に，NT16-02航海に共に参加した皆様，そして参加する機会を与えてくださった指導教員である熊本大学尾上哲治准教授，並びに本調査航海の首席研究員であるJAMSTEC野崎達生研究員に，この場をお借りしてお礼申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e-mailでいただければ幸いです．

kouzu_0419@geol.tsukuba.ac.jp　高津翔平（筑波大）
16nd204l@vc.ibarkai.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
k0231215@kadai.jp　山下大輔（熊本大）
yamada-masataka1@ed.tmu.ac.jp　山田眞嵩（首都大）

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

2015年度
第４回理事会議事録

日　時　2016年４月２日（土）13:30～17:10
会　場　北とぴあ　901会議室
出席役員　理事（35名）：天野一男　有馬眞　安藤寿男　安間　了　井龍康文　市川八州夫　ウォリス サイモン　上砂正一　海野　進　緒方信一　笠間友博　川端清司　小嶋　智　小宮　剛　斎藤　眞　佐々木和彦　榊原正幸　坂口有人　菖蒲幸男　杉田律子　高橋正樹　竹内　誠　内藤一樹　中澤　努　奈良正和　久田健一郎　平田大二　保柳康一　松田達生　松田博貴　向山　栄　矢島道子　山路敦　山田泰広　山本高司
監事（１名）：山本正司
欠席役員　理事（15名）：小山内康人　亀尾浩司　川辺文久　清川昌一　後藤和久　佐野弘好　沢田　健　竹下　徹　千代延俊　原山　智　廣木義久　星　博幸　三次徳二　宮田隆夫　渡部芳夫
監事（１名）：青野道夫
その他出席者　事務局：橋辺菊恵

＊成立要件：理事総数50名の過半数26名．本日の出席者35名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数　18名
＊書記２名の選出：高橋，榊原

報告事項

１．執行理事会報告
１）執行理事会議事要点（斎藤常務理事）
2016-１～2016-３までの執行理事会議事録の要点が説明された．
２）緒方理事より以下の報告が追加された．
＊会員の動向報告，３月末現在の会員数3707名（昨年比－25名）
＊前回理事会以降の逝去会員の氏名を報告し，黙祷をささげた．
２．理事および委員会等報告
１）行事委員会（竹内理事）
東京桜上水大会の準備状況および2017年愛媛大会について報告があった．愛媛大会の開催期日は９/16-18.
２）地質学雑誌編集委員会（山路理事）
・地雑の月刊体制の限界－125周年記念特集号が終了の後，2019年には投稿が大幅に減少する予想→今後１年間で結論を出す必要がある．減少の原因としては以下のようなことがあげられる．
①学生・院生会員の減少，②国際誌への投稿の大衆化
・隔月化した場合－10年ぐらいはもつ
・完全電子化の可能性と効果－号という概念がなくなるので，巻号による縛りの問題は解消
３）アイランドアーク編集委員会（海野理事）
・編集委員会新体制の紹介
・出版業務に遅れやトラブル：ワイリー側の問題
・2016年から年６号制
・この６か月間の投稿数：43件
４）企画出版委員会（保柳理事）
・フィールドジオロジー全９巻について，共立出版より電子書籍化の提案があり，全著者の了承を得て承諾，これについての印税は極く少額のため，学会に寄付することも合わせて承諾を得た．
・長瀞たんけんマップが２月末に刊行された．
・地方地質誌：「四国地方」が２月末に刊行された．あと１冊「東北地方」については2016年度内に刊行予定．
・北海道支部より「書籍版北海道地質百選」（石井正之ほか，北大出版会）の出版企画について，現状はかなり作業が進み出版間もないことが報告された．学会としての出版の諾否は本日の議題に付すことが報告された．
・「海洋底調査の方法」（2006年企画スタート）の出版について，概ね原稿が集まり，校正の段階にあるが，多少の問題点も報告され，本日の議題に付すことが報告された．
５）125周年記念事業実行委員会（矢島理事）
・125周年記念地質学雑誌特集号の構成について紹介．
・125周年記念出版「社会と地質学」について－編集委員長：天野理事ほか編集委員７名（斎藤（靖），平田，向山，荒戸，西山，星）地質学会としては，一般への販売という観点から出版社の提案，要望に沿って作るか，地質学会独自の構成で作るか，現在検討中．
・125周年記念出版「フォトコン出版物」について，企画検討してきたが，やや難しい状況．
・記念式典，市民講演会，祝賀会について．
・そのほか，記念ロゴの募集，寄付金の募集，記念会員証の発行などについて．
６）防災学術連携体の活動について（斎藤理事）
・事務局は土木学会，現在43団体が加盟，学術会議と連携して活動．
・地質学会としても積極的に参加する．
・第１回防災推進国民大会の出展に対し，地質学会としてセミナーを申し込んだ．
７）国際地学オリンピック三重大会準備状況報告（久田理事）
・協賛金　2500万円，文科省　2500万円，参加者負担　1000万円，総額　約5900万円
・三重大会（８/20-27）30カ国参加予定（中国が初めて参加）

３．メール審議確認
１）高等学校理科用『地学』教科書の記述内容に関する意見書の提出について
・執行理事会の提案をうけ，教科書会社２社に対する意見書提出の諾否について，12月24日理事会議長はメール審議を開始した．監事からはとくに意見，注意はなく，12月28日に意見書提出の全理事の承認を得た．これを受けて執行理事会は，同日付で数研出版（株）および（株）新興出版社啓林館に意見書を提出した．
２）外部監事の候補者について
・2016年度の役員選挙にあたり，執行理事会より理事会推薦の外部監事候補者として，現監事の山本正司氏を推薦する提案をうけ，２月５日理事会議長はメール審議を開始した．監事からはとくに意見，注意はなく，２/８全理事の承認を得た．執行理事会はこれを受けて同日，選挙管理委員会に山本氏を理事会推薦候補者として届け出た．
３）県の石の選定について
・県の石について，川端選定委員長から委員会の意見集約の報告をうけて，執行理事会は最終案を提案し，理事会議長は２月29日メール審議を開始した．監事からはとくに意見，注意はなく，３/16全理事の承認を得て最終案を決定した．

＊今後，メール審議についても，法で定められているとおりに議事録を残すことにする．

４．その他
１）Geology of Japanの出版と販売（ウォリス理事）
・イギリス地質学会が出版し，企画から出版までに４年を要した．
・地質学会会員に対し特別価格での提供がある．予約・販売方法はGeo flashで広報，目標200部で一部約7000円，学会事務局が販売に協力．

審議事項

１．各賞の選出について（天野理事）
日本地質学会賞１件，日本地質学会国際賞１件，日本地質学会柵山雅則賞１件，日本地質学会Island Arc賞１件，日本地質学会小藤文次郎賞２件，日本地質学会研究奨励賞２件，日本地質学会功労賞１件，日本地質学会表彰１件の候補者が各賞選考委員会より推薦された．
なお，論文賞の審議の過程で論文賞とIsland Arc賞の重複候補論文について，重複受賞を認めるかどうかが議論になったことが報告された．当該論文は，すでにIsland Arc賞の受賞候補となったことが判明，規則等による決まりは特にないことから，審議の後，委員会の手続きにしたがって選考投票をおこなった結果，当該の論文は論文賞候補には選出されなかった．
この報告に関連して，Island Arc賞を設け

るときに，論文賞は地質学雑誌に，Island Arc賞はIsland Arcに対象を限定した方が良いという意見があったが，結果としては，両方を対象とすることになった経緯があるとの発言があった．

選考委員会としては，この件についての問題点を整理して，次期の委員会に申し送りするが，今後，理事会での議論が必要となる事案かもしれないとのことであった．

以上，今回推薦された各賞の候補者については，全会一致で異議なく承認された．

２．名誉会員推薦委員会報告（山本副会長）

推薦委員会から，候補者として１名の推薦があり，審議の結果，熊井久雄会員を名誉会員候補者として，総会に推挙することを，全員一致で承認した．

ただし，推薦文の文章にやや難があるので改善の要請があり，委員会が修正することとした．

また，委員長から，推薦人（理事，専門部会）からの名誉会員の推薦が少ないとの報告があった．かつては名誉会員が会員に占める割合が大きかったので，候補者を絞った経緯がある．推薦を多くするためには制度の再検討などが必要かもしれないなど，今後の推薦については，次期執行理事会に申し送ることが報告された．なお，日本の地球科学関係の学会では，名誉会員の割合が地質学会は若干多いとの発言もあった．

３．編集規則改正について―法務委員会の答申を受けて（山路理事）

下記のことを背景に法務委員会からの答申を受けて，編集委員会から規則の改正案が提案された．

・文科省からの要請を受けた学術振興会からの要請により，オーサーシップと二重投稿に関する定義とそれらが順守されない場合の対応の明確化の指示
・博士学位論文の公開と著作権－地質学雑誌におけるプライオリティ

改正案の文言がわかりにくいという意見が出されたが，国際基準および学術振興会の指示に則ったものであることが執行理事会側から説明された．また，学会発表（講演要旨）の引用，講演要旨と論文の差異の明示などについて質疑応答があり，今後，会員の理解のために解説などをつけてわかりやすくする必要があるとした．以上審議のうえ，全会一致で改正案は承認された．

４．2016年度事業計画案について

資料にそって会長から解説があり，地学オリンピックに関する文章を加筆（久田理事），初等中等教育における地学教育の充実に関する文章を加筆することなどが要請された．それらの修正を含めて，全会一致で異議なく承認された

５．2016年度予算案について（緒方理事）

会員数の漸減により2016年度の会費収入が前年度より100万円ぐらい減少，収支ともに縮小予算となっている，引当金の取り崩しや，年会の収支などについても説明があり，原案は全会一致で異議なく承認された．

６．総会議案について

第５号議案として名誉会員の承認を追加することを含め，全会一致で異議なく承認された．

７．その他

１）地質学雑誌のあり方を考えるタスクフォース委員会の設置について（井龍会長）

今後，１年間ぐらいの予定で地質学雑誌の在り方を検討するためのタスクフォース委員会を設置する件について井龍会長から説明があった．

委員５名：斉藤常務理事，中澤，小宮，藤野，大藤

紙媒体がなくなることによる会員減少の誘発，研究中心ではない会員に対する対策，また，委員会のメンバーに年配会員を追加してはどうかなどの意見が出された．委員会の設置については全会一意で承認された．

２）「県の石」出版に向けてのプロジェクトチームの設置について（井龍会長）

井龍会長より，県の石の出版については，プロジェクトチームを設置して検討準備することが説明された．出版の際は候補にもれたものも含めることを検討する予定．

125周年の記念事業に間に合うように出版することを検討する．

プロジェクトチーム４名：井龍，辻森，重田，門馬（鉱物担当，非会員）

原稿のひな形を用意し統一のとれたものとする．支部に原稿・資料を依頼することになるが，進行に差はあっても，できたところから進め，できるだけ短時間に成し遂げるようにする．

以上について，提案は全会一致で承認された．

３）「北海道地質百選（仮称）」の出版について（保柳理事）

報告事項２-４）にあるように，下記のように出版が進んでいる．出版物としては地質学会の支部が出すものなので，学会としてはこれを承認する必要がある．

・北海道支部監修（石井正之ほか）
・著作権：北海道支部
・著作権料：学会の慣例にしたがい，北海道支部と著者とで折半，支部はその収入を活動費とする．以上，保柳理事の説明を受け，出版企画・監修は全会一致で承認された．

４）海洋底調査の出版（保柳理事）

本件は2006年の企画当初に出版は承認されているが，すでに相当年月を経ており，学会の組織も変わっていることから，改めて，現理事会として出版企画・監修の承認が必要であるとの説明があった．安間理事より回覧された原稿についてはほぼまとまっているが，経年による用語の不統一等について意見が出された．学会の企画・監修による出版物として刊行することについての採決は，賛成29，保留６となり，賛成多数で承認されたが，内容のチェック体制，現状での出版計画の詳細，出版社との契約関係については，再確認することとした．

以上

2016年４月25日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　小嶋　智
副議長　向山　栄
代表理事：会長　井龍康文
（以下，役員氏名略）

2015年度
第７回執行理事会議事録

期　日：2016年１月23日（土）13:30～17:30
場　所：地質学会事務局
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　ウォリス　海野　緒方　坂口　杉田　竹内　保柳　松田　山路（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：中澤　平田　星　廣木
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者12名，委任状５名，合計17名の出席．

Ⅰ　審議事項

１．地質地盤情報に関する研究体制について（渡部）

「地質・地盤情報活用利用促進に関する法整備推進協議会」が新体制の「地質地盤情報利活用活性化研究会」に移行され，業界の技術的な標準化は進められる．地質学会は，学術会議の提言を受けた，学術発展のために地質・地盤情報の保存・共有・活用の法整備を目指した活動を進める．

２．県の石の選定について（井龍）

鉱物の一部を除き決定した．メールでの継続審議とした．

３．北海道支部「北海道地質百選（仮題）」の出版企画申請について（保柳）

出版を了承し（最終承認は理事会），印税については本部出版物に倣い，支部と著者とで分けることを提案することとした．

４．その他

１）今年度のセンター試験の地学について情報を共有した．
２）東京大会の委託業者の候補について行事委員長から説明があり，さらに不明の点を確認するなどして，メールでの継続審議とした．

Ⅱ　報告事項

1．全体的報告

1）12月28日届けで啓林館，数研出版の高校教科書「地学」に対する意見書を送付し，文部省に報告した．

2）資源エネルギー庁…地層処分技術WGによる中間整理の説明会が1/23に開催され，関連9専門部会からおよび理事らが出席した．29日までに地質学会の意見をとりまとめて提出予定．また，同庁の専門家の意見募集も開始された．

3）2016年度役員選挙については，代議員は全国区，地方区とも定数内で無投票当選，会長，副会長の意向投票のみ実施し，1/13開票.現在は理事立候補を受付中．

2．運営財政部会：総務委員会（緒方）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）産総研地質標本館より，地質学会のフォトコン展示会開催（4/19-5/22）についての共催依頼，また，同所において学会の表彰式も実施予定 ← 共催承諾，広報と審査委員会で表彰式・講演会の日程を早急に決める．

2）日本学術会議主催による福島原発事故関連の公開シンポジウム開催について，原子力学会より趣旨説明と共催協力の説明会開催（1/13），緒方理事が出席し，その報告があった．

3）地理学連携機構より，合同総会の通知（3/20）．地質学会はオブザーバー参加となるので，3/1までに出欠を要検討．

4）第15回国際放散虫研究集会（15th InterRad）（委員長松岡篤，2017/10/23/-27）の共催を承諾．

5）3th International Geoscience Symposium “Precambrian World 2：Earth through History”（2017/3/3-9，代表清川昌一）の名義共催を承諾．

6）JAMSTEC海洋掘削科学研究開発センター（ODS）より，科学掘削シンポジウム＆スクール in 台湾（2016/02/01-04）の共催依頼を承諾．

7）「平成27年度消防防災科学技術研究推進制度」研究課題の公募（12/6-3/6）

8）第12回日本学術振興会賞受賞者（25名）の選出報告

9）第16回子供のためのジオカーニバル（後援）終了報告

＜会員＞

1）今月の入会者（4名…正：2，院割：1，学部割：1）

2015年度から入会希望

正（学部割）会員〔1名〕：古橋拓哉

2016年度から入会希望

正会員〔2名〕：永井健一，鈴木　至

正（院割）会員〔1名〕：堀田千二海

2）今月の退会者（2名）

正会員〔2名〕　黒澤一男，中村典之

3）今月の逝去者（1名）

押手　敬（2015年1月19日　逝去）

4）2015年12月末日会員数

賛助：28，名誉：58，正会員：3793，正会員：3582　正（院割）会員：193

正（学部割）会員：18　合計 3879（昨年比 −40）

5）会員名簿2015年度版が間もなく発行される．

＜会計＞

3．広報部会：広報委員会（坂口・松田）

4．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

(1) 行事委員会（竹内）

1）総会スケジュールと講演会については下記のとおり．フォトコン表彰式は時間的制約があるので，今総会では別イベントにする．

会場：北とぴあ第2研修室

日時：2016年5月21日（土）

10:00-10:40　執行理事会，11:00-13:00講演会，14:15-15:15　総会，15:30-17:00理事会

講演会：日本の地質学：最近の発見と応用2016（Recent progress in geological science in Japan, 2016

池原　研（産総研）：地震・津波と深海堆積物の関係（タービダイト古地震学）

宮川歩夢・大坪　誠（産総研）：slip tendencyを用いた活断層活動度の評価

吉田英一（名古屋大学）：ノジュールの成因に関する研究

兵頭政幸（神戸大学）：地磁気と気候変動の関連性に関する研究

2）「石油・石炭地質学と有機地球化学」セッション世話人　金子信行氏からの東京・桜上水大会への要望があり，行事委員会で検討して回答した．

各セッション開催日は，各世話人の意見を聞き，なるべく叶うように決める，参加費の割引等については現状では難しい，プログラムは確定次第早急に公表する，など参加者増のための配慮を行う．

3）優秀ポスター賞のエントリー制の手順

・講演登録時に優秀ポスター賞審査を希望する旨の選択をする．

・エントリー者リストをもとに，前日に，ポスター掲示場所を示す番号のそばに「エントリー講演」という紙を貼り付ける（大会運営者側）．

・前日あるいは当日，「エントリー講演」と書かれた紙の貼付場所が妥当かを，各賞選考委員長またはその日の審査委員の代表者がチェックする．

・審査委員は，あらかじめ用意されたエントリー講演リストをもとに審査をする．

・各日の授賞数は，各日のエントリー数に比例して決定する．

4）東京・桜上水大会のシンポジウムLOCと検討中．国際シンポジウムは井龍会長が検討する．

5．編集出版部会（山路・海野・保柳）

(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）

1）編集状況報告（1月22日現在）

・2015年投稿論文　総数73編［総説4（和文2・英文2）・論説40（和文37，英文3）・報告13（和文11，英文2）・ノート2（和文2）・口絵6（和文5・英文1）・巡検案内8］（昨年比 ＋8）

・2016年投稿論文　総数5編［論説4（和文1）・報告1（和文1）］

読中：32　　受理済み：4

・121巻12月号：総説1，論説1，口絵1（計36ページ，12月21日発送済）122巻1月号：論説2，報告1（計42ページ，校了，1月29日発送予定）

(2) アイランドアーク編集委員会（海野）

1）編集状況

Vol.25 Issue1（2016年1月）：特集号原稿1，一般原稿4編（計82ページ）発行予定

出版予定日を過ぎたが未公開状態．ワイリー制作担当に督促中．

2）オンライン投稿の状況

過去半年（2015.7.1～2016.1.22）の投稿数37件．うち新規投稿33件．

3）その他

・新規特集号の企画提案

「Orogenic processes in island arcs: subduction, accretion, collision and recycling.」（代表世話人：山本啓司（鹿児島大））の企画提案があり，採択した．順次原稿投稿予定．

・新体制の発足

2016年1月より，武藤鉄司（長崎大），田村芳彦（JAMSTEC）新編集委員長のもと新体制が発足した．

・ワイリーグループ内での業務移管（2015年12月4日付書面）

2015年12月31日をもって，Island Arc等の出版事業をWiley Publishing Asia株式会社からグループ内のJohn Wiley & Sons Australia株式会社へ移管する旨の通知があった．ただし，編集作業への実質的な影響などは無いとのこと．

・契約内容の変更

隔月刊に伴う契約内容の変更について，ワイリーより変更案が送付された．委員長陣で内容を確認中．

(3) 企画出版委員会（保柳）

1）大島三原山探検マップ（小泉治彦ほか編集）投稿されたが，委員会で確認し差し戻し予定．

2）北海道地質百選（仮題，北海道支部監修）支部による出版申請書が提出．

6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

・第14回法整備検討委員会松浦委員より議事録案の提供

7．地質災害委員会（斎藤）
・防災学術連携体設立総会に出席し，ニュース誌に報告が出る．

8．125周年記念事業実行委員会（渡部）
・2月に会合開催予定．

9．法務委員会
・編集出版規則の変更を検討中．

以上

2016年2月20日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

2015年度
第8回執行理事会議事録

期　日：2016年2月20日（土）13:00～17:00
場　所：地質学会事務局
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長
　齋藤常務理事　ウォリス　海野　緒方
　坂口　杉田　中澤　保柳　松田　山路
　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：竹内　平田（井龍）廣木　星
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状4名，合計17名の出席．
＊前々回・前回議事録が承認された

Ⅰ　審議事項

1．法務委員会からの答申を受けた投稿編集出版規則その他の改正について（山路）
法務委員会の答申に基づいて投稿編集出版規則の改正案が示された．小修正のうえ理事会に諮ることとした．他の出版物についても著作権譲渡同意書を検討する．

2．刊行回数変更（4回→6回）に伴うアイランドアークの契約書更新について（海野）
年間6号出版に伴う新しい契約内容が海野編集長から紹介された．これに伴い年間ページ数は822ページとなる．審議の上契約更新は承認された．

3．フィールドジオロジー（共立出版）の電子書籍化（保柳）
フィールドジオロジー編集委員会が，各著者に対して，電子出版化の可否および電子版の少額印税の学会への寄付の許諾を得て進める方針とする．なお紙の出版物は従来通り継続出版される．

4．次期の日本ジオパーク委員会（JGC）委員の推薦
ジオパーク支援委員会の推薦を受け，審議の結果，平田理事を推薦することとした．

5．連合ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」の講演者を審議し，栗本史雄会員を推薦することとし，投稿料は学会が負担することとした．

6．産総研とのフォトコン展示会共催（承諾済）内容について
展示会は地質標本館と共催により実施，その他，産総研から示された企画内容について検討し，」了承した．白尾審査委員長の謝金について，講演会は産総研が，表彰式はこれまでどおり学会が交通費とともに支払うこととした．

7．防災国民大会（8月）に関する件（斎藤）
内閣府の防災推進協議会の枠組みの中で防災学術連携体は「防災国民大会（仮称）」を実施する．期日は8月末，会場は東京大学本郷キャンパスで開催．地質学会としては「地質地盤情報のシンポジウム」を開催する方向で準備を進める（担当　中澤理事）．

8．学術研究船「白鳳丸」のシービーム装備改善について，JAMSTECに要望書を出す件（井龍）
海洋地質部会（芦部会長）からの表記についての現状説明と要望があり，学会として要望書を出すこととした．要望書の具体的内容はメール審議とする．

9．地質調査研修事業への意見書について（緒方）
調査研修事業への意見書および研修事業の経過と背景について確認し検討した．その結果，意見書提出者と担当者が直接会って詳細を伺うこととした．

11．県の石の選定後の取扱いについて（井龍）
4月の理事会での決定（事前メール審議も含めて）に向けて，選定委員会および各支部での検討を急ぐ．選定終了後の公表の具体策を検討して準備を進める．

12．2016年度事業計画について
12月理事会後の修正案について，次回の執行理事会までにメールで意見交換をし，3月の執行理事会で最終案を決定する．

13．その他
東京大会の委託業者の選定は2社からの見積もり（一部再見積もり）を再度検討したが，決定には至らず，最終的には，本日欠席の竹内行事担当理事の意向を確認したうえで決定することとした．

Ⅱ　報告事項

1．全体的報告
1）大学評価学位授与機構より，国立大学教育研究評価委員会専門委員として当学会推薦者（平成26年）から2名を選出した旨の連絡があった．ただし，評価結果が出るまでは委員の氏名公表は不可とする．なお，同機構は平成28年4月1日付にて（国立大学財務・経営センターとの法人統合）名称変更し，「独立行政法人大学改革支援・学位授与機構」となる．
2）「…地層処分技術WGにおける中間整理」について，専門部会，理事らの意見・質問をとりまとめ，1/29に資源エネルギー調査会へ提出した．
3）理事選挙の立候補届は2月8日に締め切られた．全国区は定員未満（39名）及び地方区（各1）のうち中部支部を除き立候補者が定員内であった．中部支部は2名の立候補者で選挙を実施中．これによって，新年度の理事は全国区地方区合わせて46名（定数50名）になる．
4）県の石の最終案についてメール審議の結果，全理事の承認を得た．

2．運営財政部会：総務委員会（緒方）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1）「第1回台日地質学会総合学術検討会」（世話人：林殿順，保柳康一）の共催依頼を承諾．
2）第60回粘土科学討論会（9/15-17，九州大学）の共催依頼を承諾．
3）四国支部が共催する，愛媛大学ミュージアム企画展「四国の鉱物展」（3/2-4/27）への後援依頼を承諾．
4）日本学術会議　主催による「原子力総合シンポジウム2016-福島第一原発から5年」の共催依頼を承諾．
5）学術会議公開講演会「強靭で安心・安全な都市を支える地質地盤の情報整備」（1/23）の実施報告があった．講演7件，参加者148名
6）日本学術振興会賞の公募（受付期間4/11-13，学会締め切り3/31），応募資格4/1現在45歳未満，博士号取得，日本国籍あるいは日本で5年以上の研究歴→　HP，News誌，geo-flashに掲載
7）地理学連携機構より，合同総会の通知（3/20）．地質学会はオブザーバー参加
8）エチオピア名誉領事館（名古屋）よりアジスアベバ科学技術大学の学部長職ならびに教授職（土木工学，鉱山工学その他，締め切り5/20）の募集依頼→geo-flashに掲載
9）東レ科学振興会
・2015年度の受賞者および授与式の案内（3/15），会員が理科教育賞を受賞しているので，geo-flashで周知する．
・東レ科学技術賞および科学技術研究助成の候補者推薦募集，推薦〆切10/7，1学会2件以内
10）海上保安庁より「平成27年度，海洋情報部研究成果発表会」（3/7）開催通知→geo-flashに掲載．

＜会員＞
1）今月の入会者
2016年度から入会希望（4名）
正会員〔4名〕：木下正高，児玉真一，ピトン マリ，内藤好裕
2）今月の退会者（2名）
正会員〔2名〕伊藤麻佑子，廣瀬祐樹
3）今月の逝去者（1名）
渡邊　健（2016/01/28）
4）2015年12月末日会員数
賛助：28，名誉：58，正会員：3793，正会員：3581　正（院割）会員：193

正（学部割）会員：19　合計 3879（昨年比 －35）

＜会計＞
1）東京大会の委託業者再見積もりについて再審議.
2）各部会での来年度の予算案として，2016年度特に計上すべきものがあれば早急に出してもらいたい. これに対し斎藤常務より，地質災害委員会に対し初動調査費の計上が要求された．このほかにあれば，3月初旬ころまでに提案願いたい.
3．広報部会：広報委員会（坂口・松田）
・フォトコン締切（2/22）3月審査.
・フォトコン展示会について産総研から企画内容が提示された.

4．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）
(1) 行事委員会（竹内）
1）桜上水大会関係行事
日大自然科学研究所との共催のシンポジウムへの100万円の助成が採択された．また，巡検や普及行事について検討内容が報告された.
2）国際交流委員会（ウォリス）
・台湾地球科学総合学術検討会Taiwan Geoscience Assembly（TGA）（1/3年に開催，5/16-20）でJoint Symposium of Taiwan and Japan Geological Societies（5/17か18）を開く件について，保柳理事にTGA大会委員長の馬國鳳（Kou-Fong Ma）教授（國立中央大学）より，「第1回台日地質学会総合学術検討会」のコンビーナーの委嘱があった.
また，上記会に日本から3名を招待する旨の連絡があった.
(3) JIS，標準担当（中澤）
(4) その他

5．編集出版部会（山路・海野・保柳）
(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）
1）編集状況報告（2月10日現在）
・2016年投稿論文　総数15編［論説7（和文7），報告2（和文2），講座4（和文4），口絵1（和文1），巡検案内書1］（昨年比＋1）
・査読中：38　受理済み：2
・122巻2月号：論説2，ノート1，報告1（計42ページ，2/19校了予定．2/29発送予定）
2）121巻9月号掲載の斎藤ほか論文（p.339-346）Fig. 2について：編集最終段階において，図の差し替え不備があり，2月号に訂正記事を掲載する.
3）投稿編集出版規則の改正について法務委員会から返答があった
(2) アイランドアーク編集委員会（海野）
1）編集状況
Vol.25 Issue 2（2016年3月）：一般原稿5編（計82ページ）で入稿・校正中．3月4日公開予定．ただし一部校正が上がっていない原稿がある．遅延の原因としては，Vol. 25から開始した日本語抄録掲載のため，一部版の組み直しが生じたためとのこと．至急作業をすすめるようWileyに督促中.
2）オンライン投稿の状況
過去半年（2015.8.1～2016.2.15）の投稿数41件．うち新規投稿36件.
3）その他
・新規特集号の企画提案：「近年の石灰藻に関する古生物学的・堆積学的研究の進展（仮）：英文タイトル確認中」（代表世話人：井龍康文（東北大））の企画提案があり，採択した.
・誌面レイアウトの刷新：最近のオンライン出版の主流化に伴いまた迅速かつ効率のよい出版のため，ワイリーより誌面レイアウトの刷新が提案された．4月より新しい組版が開始され，Vol. 25 Issue 4（2016年7月号）掲載分から誌面へ反映される予定.
・契約内容の変更：隔月刊に伴う契約内容の変更について，ワイリーより変更書面（案）が送付され，内容を確認した.
・2016年度Island Arc賞：選考が終了し（委員長Graciano P. YUMUL, Jr.），各賞選考委員長に結果を報告した.
(3) 企画出版委員会（保柳）
・共立出版より，フィールドジオロジ―の電子書籍化についての要請があった.
・長瀞たんけんマップは今月中に刊行できる予定.
・大島三原山の原稿は差し戻しとした.
・「海洋底調査の基本」（編集安間）の出版について，共立出版の横田氏よりの報告：現在の予定では5月の連合までに刊行を目指して編集作業中.
6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）
1）5月14日（土）に国会議事堂の石の見学会を実施．募集開始は4月を予定.
・午前・午後の2回行うこととし，1回あたり25名を募集する．今回に限り，会員も募集対象とし，会員は募集人数を超えた場合は抽選とする.
・講師は乾（国士館大）と中澤（産総研）を予定.
・広報は学会のMLの他，博物館・図書館等でのポスター掲示とイベントバンクへの登録を予定．なお，広報にあたっては国会側に確認を行ってから実施する予定.
2）地質調査の研修について講師の徳橋氏より意見書が出された.

7．ジオパーク支援委員会（平田）
・日本ジオパークネットワーク（JGN）事務局より，次期日本ジオパーク委員会（JGC）の委員推薦の依頼があり，ジオパーク支援委員会として平田大二会員を推薦する（任期2年）.

8．地学オリンピック支援委員会（平田）
・本委員会の委員に対し，8月の国際地学オリンピック日本大会の運営委員への協力依頼有り
・3月13日～15日に茨城県つくば市で第8回日本地学オリンピック本選を開催予定（予選を通過した中3～高2の約60名が参加予定）

9．地質技術者教育委員会（山本）
公共事業のCPD要請が強まる．例年通り全地連への会費納付．地方でのCPD講習会の必要性.

10．125周年記念事業実行委員会（渡部）
・雑誌企画：順調に企画提案が
・フォトコンの写真集：出版社と協議中.
・会員証：検討中.
・式典：記念講演の講演者検討中.
・ロゴ：5月ごろから公募を計画中.

11．そのほか
1）西日本支部と山口大学理学部が共催でCPD講習会を実施する．なお，収支に余剰が出た場合には西日本支部と大学とで折半することを確認した.
2）地質地盤情報の法整備の推進について，これまで3年間にわたり全地連を中心に行ってきたが今年度で終了し，組織替えをすることとなった．今後，学術的な面からの法整備について地質学会や産総研として検討が必要．4月の理事会で審議する方向で準備，担当を中澤理事とした.
3）Geology of Japan（GSL）4月刊行決定．来月のニュース誌に記事掲載．交流学会として地質学会会員には割引価格で販売予定.

以上

2016年3月26日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

2015年度
第9回執行理事会議事録

期　日：2016年3月26日（土）13:00～17:30
場　所：地質学会事務局
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　ウォリス　海野　緒方　杉田　竹内　中澤　平田　星　保柳　山路　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：坂口　廣木　松田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状3名，合計17名の出席.
＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

1．「県の石」公表手順および出版について（斎藤）

・広報担当理事は大至急，下記情報を記載するためのフォーマットを作成する．

・支部に各県の石の基礎情報の提供を依頼する．支部は各県の岩石，鉱物，化石の写真（クレジットに注意）とその説明文（１項目200字以内），展示場所の情報，各都道府県の石に関する問い合わせ先（担当者）を４/28までに本部に連絡する．展示場所は予め確認・連絡して承諾を得る．

・広報が情報を取りまとめてプレス資料を作成する．広報資料は学会事務局から文科省記者クラブ及び県政記者クラブ，都道府県にも送付する．

・出版は，理事会のもとにプロジェクトを立ち上げて作業を始める．

2．地質学雑誌の将来の出版形態について（山路）

・2019年までは月刊で発行できる見込み．

2019年に完全電子化する計画案を作成するために，財政を含めた総合的なシミュレーションを早急に行う．様々な立場，階層の会員からも意見を収集する必要あり．会長がプロジェクトチームを編成し，メンバーを４月理事会で報告する．

3．2016年度事業計画最終案（井龍）

語句を一部修正し，確定案とした．

4．2016年度予算案について（緒方）

2015年度の予算・決算予想に照らして，また，会員減少傾向も考慮して2016年度の予算案を策定したことが説明され，了承した．

5．地質研修の会計計画案について（緒方）

2016年度秋季研修の会計計画案を承認した．それ以降については改めて検討し，提案することとした．

6．The Geology of Japanの販売に関して（ウォリス）

数がまとまれば送料程度を割り引で提供できることから，このことを会員にgeo-Flash等で案内し，期間限定で注文を取る（５月末まで）．また，連合でも注文を取り，学会としてまとめてGSLに注文する．会員への販売予定価格は37.5GBP＋手数料．

7．理事会議案について

・2016年度各賞の決定

・2016年度名誉会員の推薦について

・編集規則改正について―法務委員会の答申を受けて

・2016年度予算案について

・2016年度事業計画案について

・総会議案

・その他

Ⅱ　報告事項

1．全体的報告

1）フィールドジオロジ―（共立出版）の電子書籍化及びそれに伴う著作権料（印税）を学会に寄付する件については，著者全員の了承を得たので共立出版に承諾の返事をした．

2）理事選挙（中部支部のみ）は３月８日に終了した．全国区は定員未満（39名）及び地方区（７名）合わせて46名（定数50名）の理事が選出され，総会に報告され承認の手続きとなる．

3）東京桜上水大会の委託業者はメールで審議のうえ，アカデミックブレインズに決定．下見の後に再度見積もりの提出を要請した．

4）大学入試センター長あてに「平成28年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する申し入れ」を３/15付けで行った．

5）地質研修について徳橋会員と関係理事の話し合いを持った．その後徳橋会員から，こちらから提案の条件を受け入れ，秋の研修会を準備するとの返答があった．

6）各賞選考委員会より，現時点で推薦が決まった候補者の報告

7）125周年記念特集号についての報告（宮下委員より）

2．運営財政部会：総務委員会（緒方）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）科学教育研究協議会より第63回全国研究大会（８/６-８，静岡大）の後援依頼を例年通り承諾した．

2）第14回」岩の力学国内シンポジウム（2017/１/10-12，神戸大学）の実行委員会（委員長芥川真一）より協賛依頼があり承諾した．

3）ジオ神奈川（代表：蟹江康光）より，観察会「城ケ島の関東大震災」の後援依頼を承諾．

4）筑波大学より，第11回「科学の芽賞」の後援依頼を承諾．

5）地球化学会より2016年度「三宅賞」および「進歩賞」の公募案内：1976/４/２以降生まれ，８/31〆切→HP，News誌，geo-flashに掲載

6）日本学術振興会「育志賞」の公募案内：４/１現在34歳未満，16名程度選考，提出期間６/８-６/10，学会〆切５/16→HP，News誌，geo-flash

7）国土地理協会より学術研究助成の公募：地理学および関連分野ならびに地図・地名に関する学術的調査研究とこれらに関連した3.11地震復興に関する調査研究，募集期間４/１-４/22，１件当たり100万円まで→HP，News誌，geo-flash

8）（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構，理事長の交代挨拶状（新理事長：黒木啓介氏）

＜会員＞

1）今月の入会者（４名…院割：３，学部割：１）

・2015年度からの入会希望

正（学部割）会員〔１名〕：澤山和貴

・2016年度からの入会希望

正（院割）会員〔３名〕：太田光，浦川良太，秋田幸穂

2）今月の退会者（２名）

2015年度末退会予定者一覧→回覧

3）今月の逝去者（１名）

松葉千年（2015/12/１）

4）2016年２月末日会員数

賛助：28，名誉：58，正会員：3790，正会員：3578　正（院割）会員：193

正（学部割）会員：19　合計 3876（昨年比 －37）

＜会計＞

1）2016年度予算案について

・年会の会場費：日大LOCの尽力で1棟分の施設使用料105万円は無料となり，経費はその他の諸費用のみとなった．

・年会のアルバイト賃金：東京という土地柄を考慮し，時間給を950円とする．

・中退共の掛け金増額：職員２名の退職金積み立金額は将来を見越して16,000円から24,000円に増額．

3．広報部会：広報委員会（坂口・松田）

・３/１フォトコンの審査会開催し，応募総数273点より，最優秀賞１，優秀賞２，ジオパーク賞１，ジオ鉄賞１，スマホ賞１，入選７，佳作20を選出した．

4．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

(1) 行事委員会（竹内）

・東京桜上水大会報告

公開シンポジウムと国際シンポジウムを開催．

トピックセッション９件を採択．

堆積関係のレギュラーセッションは例年通り他学協会と共催．

・2017年大会（愛媛大学）は９/16-18開催（巡検は19日以降）．LOCメンバーが決定．

(2) 国際交流委員会（ウォリス）

・ロンドン地質学会より「The Geology of Japan」が刊行された．日本国内での販売に対する協力について，本執行理事会で検討する

(3) JIS，標準担当（中澤）

・つぎのJISの委員会については，地質学会の会長経験者に委員長を依頼する予定である．

5．編集出版部会（山路・海野・保柳）

(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）

1）編集状況報告（３月25日現在）

・2016年投稿論文　総数28編［論説11（和文11），報告２（和文２），講座５（和文５），口絵１（和文１），巡検案内書９］（昨年比＋５）

・査読中：41　受理済み：７

・122巻３月号：論説２，報告１，口絵１（計42ページ，３/23校了．３/31発送予定）

(2) アイランドアーク編集委員会（海野）

1）編集状況

Vol.25 Issue 2（2016年３月）：一般原稿５編（計82ページ）で校正中．３月４日公開予定であったが，校正作業が遅れている．遅延の理由については前回執行理事会で報告済み．

2）オンライン投稿の状況
過去半年（2015.9.1～2016.3.25）の投稿数43件．うち新規投稿39件．
3）その他
・隔月刊化に伴う契約内容の変更のため，新しい契約をWiley社と取り交わした（3/16付会長サイン）
(3) 企画出版委員会（保柳）
・長瀞たんけんマップが刊行された．
・地方地質誌四国地方（朝倉書店）が発行された（2/25刊行）．
・「海洋底調査の基本」の編集については，用語等について確認が生じている．
6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）
1）地質の日記念「街中ジオ散歩in Tokyo：国会議事堂の石」
平成28年5月14日（土）に2回開催．会員・非会員各25名（定員超過の場合は抽選）．
募集期間は4/4-15.
2）地質調査研修について
春は中止．11月は実施予定．講師謝金については改定予定．
3）松浦委員より下記の議事録・資料が配布された．
・法整備検討会（2/25）（臨時）
・「地質地盤情報の活用と法整備を考える会（仮称）」準備会（3/11）議事録
7．ジオパーク支援委員会（平田）
・地震火山子どもサマースクールについて
2015年大会の収支決算に余剰金が出たので，拠出金に応じて返金されることとなり，地質学会には50,274が返金された．2016年度は南紀白浜で開催予定．以後の開催地については検討中．
8．地学オリンピック支援委員会（平田）
・久田理事より，国際地学オリンピック日本大会に対し文部科学省から2500万円の補助金が確定し，協賛金等を合わせて6000万円の資金の確保ができたとの報告があった．詳細は理事会にて報告予定とのこと．三重大会の準備状況が報告された．
9．地質災害委員会（斎藤）
・防災学術連携体主催，学術会議共催により8月末に開催される第1回防災推進国民大会に「都市の地下を知って安全な社会を！」（仮題）セミナーを申し込んだが，採択は未定．
10．地質技術者教育委員会（山本）
フィールドマスターについての検討が始まったことが紹介された．

以上

2016年4月2日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

訃　報

次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員　倉林三郎（2015年12月3日）
岩崎正夫（3月31日）

正会員　古川博恭（2015年10月17日）
松葉千年（2015年12月1日）
押手　敬（1月19日）
山形　理（1月22日）
渡邊　健（1月28日）
西川　功（2月23日）

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ
会費(※1)年額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．
※2:学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教員の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正会員　(☐ 学部学生割引　・　☐ 院生割引)
氏名(ふりがな)　Name in Japanese	ローマ字表記　family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex:☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:
_____学校 High school_____年卒業 Year completed
_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み)Year completed
修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed
博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　-　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　-　)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone:　ファックス Fax:

e-mail Address:　@

※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先(代表)の問い合わせ専用　e-mail Address　は記入しないでください．

連絡先 Correspondence:　☐ 自宅　Home　☐ 所属機関　Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
☐ 所属先住所　☐所属先電話・FAX番号　☐自宅住所　☐自宅電話・FAX番号　☐e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印
Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき，学会費の割引申請をいたします．

上記本学の学生につき，　☐ **学部学生**　・　☐ **定収のない院生(研究生)**　〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします．

指導教員　所属:　氏名:　印

専門部会:現在，下記の15の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質
10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩　8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質　15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学
18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質　22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学
26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育　29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　年　月　日)	＊入金(　年　月　日)　振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)	＊送本(　巻　号)

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

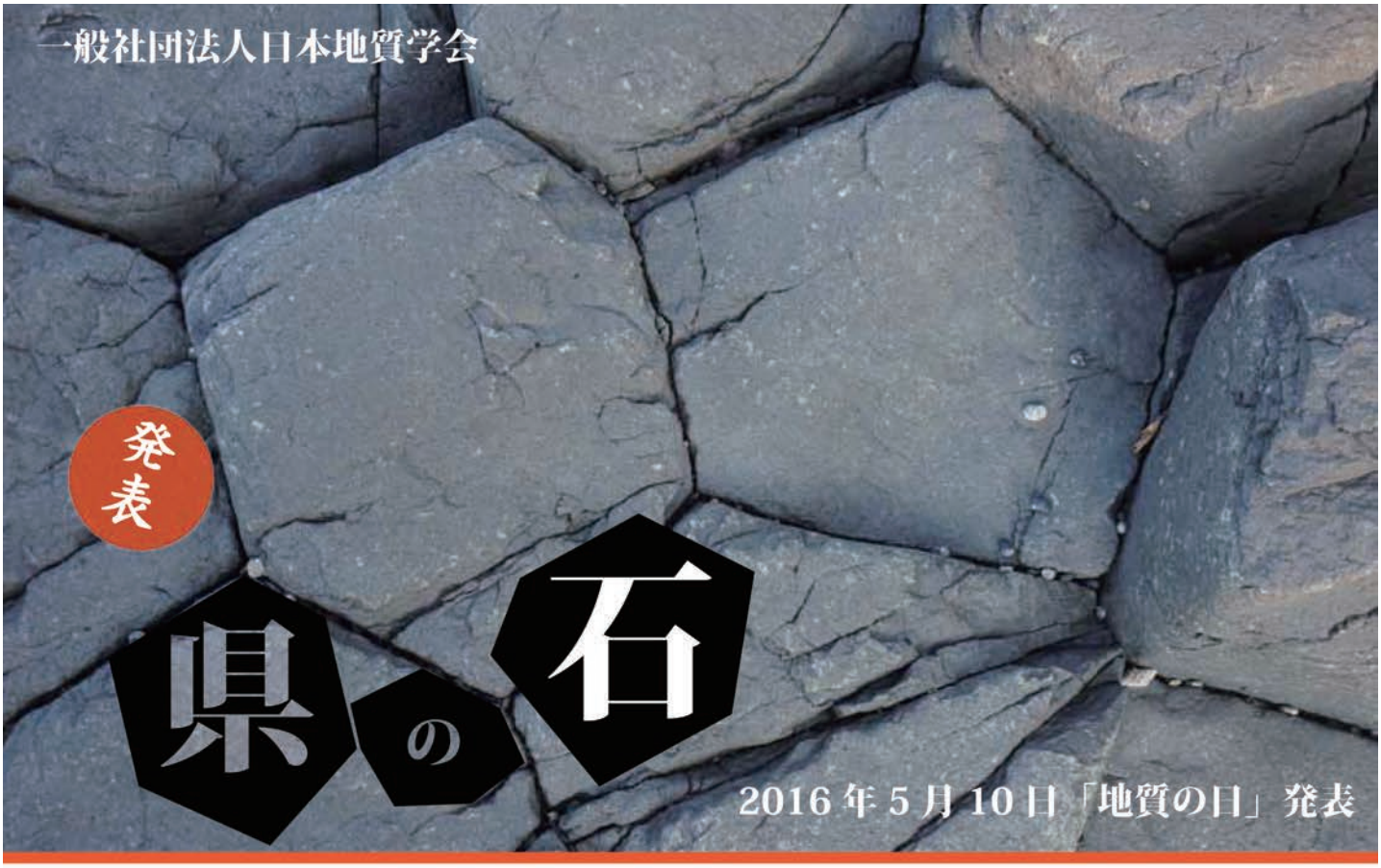
博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2015前期号）発行！

申込・問い合わせ：一般社団法人 **日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp



日本列島はプレートの沈み込み帯に位置し，深海の堆積物から火山や大陸地殻まで多様で幅広い時代の岩石から成り立っています．これほど多くの岩石に彩られている国は世界でも多くはありません．私たちが生活する大地の歴史と成り立ちを知り，郷土の地質を愛する心を再認識するために，日本地質学会では「県の石」の認定を企画しました．全国都道府県へのアンケート調査，そして市民の皆様の推薦を参考に，専門家による議論を経まして，全国47都道府県の「岩石」「鉱物」「化石」を選定いたしましたので，ここに発表いたします（*）．

日本地質学会会長
井龍康文

(*) 鹿児島県のみ日本地質学会121年学術大会（鹿児島大会）にて発表済．

都道府県	石	鉱物	化石
北海道	かんらん岩	砂白金	アンモナイト
青森県	錦石(鉄分を含む主に玉髄からなる岩石)	菱マンガン鉱	アオモリムカシクジラウオ
岩手県	蛇紋岩	鉄鉱石	シルル紀サンゴ化石群
秋田県	硬質泥岩	黒鉱	ナウマンヤマモモ
宮城県	スレート	砂金	ウタツギョリュウ
山形県	デイサイト凝灰岩	ソロバン玉石(カルセドニー)	ヤマガタダイカイギュウ
福島県	片麻岩	ペグマタイト鉱物	フタバスズキリュウ
茨城県	花崗岩	リチア電気石	ステゴロフォドン
栃木県	大谷石(凝灰岩)	黄銅鉱	木の葉石(植物化石)
群馬県	鬼押出し溶岩(安山岩)	鶏冠石	ヤベオオツノジカ
埼玉県	片岩	スチルプノメレン	パレオパラドキシア
東京都	無人岩	単斜エンスタタイト	トウキョウホタテ
千葉県	房州石(凝灰質砂岩・細礫岩)	千葉石	木下貝層(きおろしかいそう)の貝化石群
神奈川県	トーナル岩	湯河原沸石	丹沢層群のサンゴ化石群
新潟県	ひすい輝石岩	自然金	石炭記－ペルム紀海生動物化石群
富山県	オニックスマーブル(トラバーチン)	十字石	八尾層群の中新世貝化石群
石川県	珪藻土(珪藻泥岩)	藏石	大桑層の前期更新世化石群
福井県	笏谷石(火山礫凝灰岩)	自形自然砒	フクイラプトル　キタダニエンシス
静岡県	赤岩(凝灰角礫岩)	自然テルル	掛川層群(大日層)の貝化石群
山梨県	玄武岩溶岩	日本式双晶水晶	富士川層群の後期中新世貝化石群
長野県	黒曜石	ざくろ石	ナウマンゾウ
岐阜県	チャート	ヘデン輝石	ペルム紀化石群
愛知県	松脂岩	カオリン	師崎層群の中期中新世海生化石群
三重県	熊野酸性岩類	辰砂	ミエゾウ
滋賀県	湖東流紋岩	トパーズ	古琵琶湖層群の足跡化石
京都府	鳴滝砥石(前期三畳紀珪質粘土岩)	桜石(菫青石仮晶)	綴喜層群の中新世貝化石群
兵庫県	アルカリ玄武岩	黄銅鉱	丹波竜(タンバティタニス　アミキティアエ)
大阪府	和泉石[和泉青石](砂岩)	ドーソン石	マチカネワニ
奈良県	玄武岩枕状溶岩	ざくろ石	前期更新世動物化石
和歌山県	珪長質火成岩類	サニディン	白亜紀動物化石群
香川県	讃岐石(古銅輝石安山岩)	珪線石	コダイアマモ
徳島県	青色片岩	紅れん石	プテロトリゴニア
高知県	花崗岩類(閃長岩)	ストロナルシ石	シルル紀動物化石群
愛媛県	エクロジャイト	輝安鉱	イノセラムス
鳥取県	砂丘堆積物	クロム鉄鉱	中新世魚類化石群
島根県	来待石(凝灰質砂岩)	自然銀	ミズホタコブネ
岡山県	万成石(花崗岩)	ウラン鉱	成羽植物化石群
広島県	広島花崗岩	蛭石	アツガキ
山口県	石灰岩	銅鉱石	美祢層群の植物化石
福岡県	石炭	リチア雲母	脇野魚類化石群
佐賀県	陶石(変質流紋岩火砕岩)	緑柱石	唐津炭田の古第三紀化石群
長崎県	デイサイト溶岩	日本式双晶水晶	茂木植物化石群
大分県	黒曜石	斧石	更新世淡水魚化石群
熊本県	溶結凝灰岩	鱗珪石(トリディマイト)	白亜紀恐竜化石群
宮崎県	鬼の洗濯岩(砂岩泥岩互層)	ダンブリ石	シルル紀－デボン紀化石群
沖縄県	"琉球石灰岩"	リン鉱石	港川人
鹿児島県	シラス(主に入戸火砕流堆積物)	金鉱石(自然金)	白亜紀動物化石群

©一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp